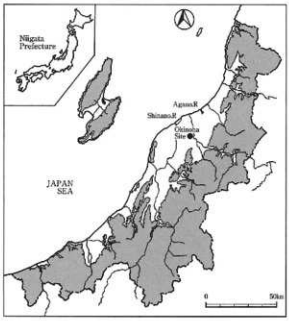
沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ



2005

新津市教育委員会

例　言

1．本書は新潟県新津市大字古田ノ内大野開字山王浦1144他に所在する沖ノ羽（おきのは）遺跡の発掘調査報告書である。

報告書名は新津市教育委員会が調査主体で原因が異なる事業であっても、同一遺跡の発掘調査報告書であれば報告書名にローマ数字で通し番号をつけている。本書は『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』（2002年刊行）、『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』（2004年刊行）に続く『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』とした。

2．発掘調査は県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴い、新津市教育委員会が事業主体となり発掘調査を実施した。

3．平成15年度に発掘調査、平成16年度に報告書作成に係る整理作業と報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第Ⅲ章に記した。

4．出土遺物・発掘記録は新津市教育委員会が一括して保管している。

5．本書の編集は立木宏明（新津市教育委員会）が行い、澤野慶子（新津市教育委員会嘱託）が補佐した。執筆は、第Ⅴ章１Ａ～Ｃと第Ⅵ章２を澤野、第Ⅵ章を下記、その他を立木が行った。

6．第Ⅱ章３を『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』（新津市教育委員会2002年刊行）から引用した。

7．「第Ⅵ章新津市沖ノ羽遺跡の自然科学分析」については古環境研究所（株）に委託した。

8．本書で用いた写真は、遺跡写真は立木・澤野が撮影し、遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に撮影頂いた。ただし、写真図版１は国土地理院が、写真図版２は（株）オリスが撮影したものを使用した。

9．本書で示す方位は全て真北であるが、図版２「新津町二ヶ村開田耕地整理組合現形図」1922年（新津東土地改良区所蔵）のみ正確さを欠いている。

10．調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。（所属・敬称略、五十音順）

相沢　央・浅井勝利・伊藤秀和・小熊博史・尾崎高宏・春日真実・笹沢正志・澤田　敦・高橋保雄・土橋由理子・戸根与八郎・古澤妥忠・福田仁史・吉井雅勇

新潟県教育庁文化行政課・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県新津農地事務所・新津東土地改良区

凡　例

1．本書は本文と別表と巻末図版（図版・写真図版）からなる。

2．本書の注は各章の末尾に記した。引用文献は著者と発行年を〔　〕文中に示し、巻末に一括して掲載した（但し、第Ⅵ章は各説の末尾に記した）。

3．遺構番号は現場で付したものを用いた。番号は遺構の種別毎に付さず、通し番号とした。

4．土層の土色観察は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修1967）を用いた。

5．土器実測図は断面の表現を種別で区別した。黒塗は須恵器で、それ以外は白抜きである。

6．遺物実測図で全周の１／12以下のような遺存率の低いものについては中軸線の両側に空白を作って区別している。

7．本書に掲載した時代区分は古代、近世と記述している。古代については平安時代にほぼ限定できる。

8．遺物の注記は沖ノ羽遺跡の「沖ノ羽」とし、出土地点や層位を続けて記した。平成15年度出土遺物は略記号の前に「０３」を記した。

目　次

第Ⅰ章　発掘調査に至る経緯 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 2
1　遺跡の位置と地理的環境 …… 2
2　周辺の遺跡 …… 2
3　歴史的環境 …… 13
第Ⅲ章　調査の概要 …… 15
1　確認調査 …… 15
2　沖ノ羽遺跡における既存の本発掘調査 …… 15
3　発掘調査 …… 16
A　調査方法 …… 16
1）現況 …… 16
2）グリッドの設定 …… 16
3）調査方法 …… 16
B　調査経過 …… 17
C　調査体制 …… 17
4　整理作業 …… 19
A　整理方法 …… 19
1）遺物 …… 19
2）遺構 …… 19
B　整理経過 …… 19
第Ⅳ章　遺　　跡 …… 20
1　遺跡の概要 …… 20
2　層序 …… 20
3　遺構各説 …… 21
A　古代の遺構 …… 21
1）1区 …… 21
2）2区 …… 22
3）3区 …… 22
第Ⅴ章　遺　　物 …… 25
1　古代の遺物 …… 25
A　土器の分類と記述 …… 26
B　沖ノ羽遺跡出土土器等各説 …… 29
1）1区 …… 29
2）2区 …… 31
3）3区 …… 32
4）補足確認調査360T出土土器 …… 34
5）満日地区確認調査17T出土土器 …… 34
C　沖ノ羽遺跡周辺から出土した土器 …… 35
1）中谷内遺跡 …… 35
D　石製品、鉄製品・鍛冶関連遺物 …… 35
第Ⅵ章　新津市沖ノ羽遺跡の自然科学分析 …… 37
1　沖ノ羽遺跡における植物珪酸体分析 …… 37
2　沖ノ羽遺跡における花粉分析 …… 43
3　沖ノ羽遺跡における樹種同定 …… 49
第Ⅶ章　総　　括 …… 51
1　沖ノ羽遺跡の遺構について …… 51
2　沖ノ羽遺跡出土の古代土器について …… 52
引用・参考文献 …… 56
別表 …… 58
報告書抄録・奥付

挿図目次

第1図　新津丘陵周辺地形分類図（1／150,000）…… 3
第2図　新津市周辺の旧石器・縄文遺跡分布図（1／100,000）…… 4
第3図　新津市周辺の弥生・古墳遺跡分布図（1／100,000）…… 6
第4図　新津市周辺の古代遺跡分布図（1／100,000）…… 8
第5図　新津市周辺の中世遺跡分布図（1／100,000）…… 10
第6図　沖ノ羽遺跡出土土器（1／3）…… 12
第7図　沖ノ羽遺跡土師器・黒色土器分類図（1／6）…… 27
第8図　沖ノ羽遺跡須恵器分類図（1／6）…… 28
第9図　沖ノ羽遺跡3区遺構構成図（1／800）…… 51
第10図　沖ノ羽遺跡主要遺構別器種組成図 …… 53
第11図　沖ノ羽遺跡主要遺構別食膳具の法量分布図 …… 54

表目次

第1表　新津市周辺の旧石器・縄文遺跡一覧表 …… 5
第2表　新津市周辺の弥生・古墳遺跡一覧表 …… 7
第3表　新津市周辺の古代遺跡一覧表 …… 9
第4表　新津市周辺の中世遺跡一覧表 …… 11

別表目次

別表1　沖ノ羽遺跡遺構計測表 …… 58
別表2　沖ノ羽遺跡古代土器・土製品観察表 …… 59
別表3　沖ノ羽遺跡石製品、鉄製品・鍛冶関連遺物観察表 …… 62
別表4　沖ノ羽遺跡遺構出土古代土器器種構成率 …… 63

図版目次

図版1　周辺の旧地形図（1／25,000）
図版2　遺跡周辺の旧地割（1／10,000）
図版3　沖ノ羽遺跡と周辺遺跡（1／20,000）
図版4　満日ほ場整備事業に伴う試掘・確認調査位置図（1／12,500）
図版5　沖ノ羽遺跡調査区とグリッド設定図（1）（1／5,000）
図版6　沖ノ羽遺跡調査区とグリッド設定図（2）（1／2,500）
図版7　沖ノ羽遺跡調査区とグリッド設定図（3）（1／1,250）
図版8　沖ノ羽遺跡1・2区包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図（1／400）

図版９　沖ノ羽遺跡１・２区遺構平面図（１／250）
図版10　沖ノ羽遺跡１・２区遺構全体図面割付図（１／400）
図版11　沖ノ羽遺跡１区遺構平面図（１／80）
図版12　沖ノ羽遺跡２区遺構平面図１（１／80）
図版13　沖ノ羽遺跡２区遺構平面図２（１／80）
図版14　沖ノ羽遺跡１区基本層序実測図（１／40）
　　沖ノ羽遺跡１区SX４、SK５、SD１．２．３、Pit６実測図（１／40）
図版15　沖ノ羽遺跡２区基本層序実測図（１／40）
　　沖ノ羽遺跡２区SE４、SK６．７．９、Pit15実測図（１／40）
図版16　沖ノ羽遺跡２区SK５．８．10、SD１．２．３、Pit12実測図（１／40）
図版17　沖ノ羽遺跡３区包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図（１／400）
図版18　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図（１／250）
図版19　沖ノ羽遺跡３区基本層序実測図（１／40）
　　沖ノ羽遺跡小グリッド設定模式図
図版20　沖ノ羽遺跡３区遺構全体図面割付図（１／400）
図版21　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図１（１／80）
図版22　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図２（１／80）
図版23　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図３（１／80）
図版24　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図４（１／80）
図版25　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図５（１／80）
図版26　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図６（１／80）
図版27　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図７（１／80）
図版28　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図８（１／80）
図版29　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図９（１／80）
図版30　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図10（１／80）
図版31　沖ノ羽遺跡３区遺構平面図11（１／80）
図版32　沖ノ羽遺跡３区SK２．18．100．128．171、SE130、SD１．135．136．137実測図（１／40）
図版33　沖ノ羽遺跡３区SD１．３．24．43．44．131．132．133．134．138．139、Pit187．188実測図
　　（１／40）
図版34　沖ノ羽遺跡３区河96実測図（１／80、１／250）
図版35　沖ノ羽遺跡３区SB184．185．186実測図（１／40）
図版36　出土遺物１　１区SX４、SK５、SD１（１）
図版37　出土遺物２　１区SD１（２）
図版38　出土遺物３　１区SD１（３）．SD２．SD３（１）
図版39　出土遺物４　１区SD３（２）、１区包含層（１）
図版40　出土遺物５　１区包含層（２）
図版41　出土遺物６　２区SE４、SK５（１）
図版42　出土遺物７　２区SK５（２）．７．８、SD１．２．３、２区包含層（１）
図版43　出土遺物８　２区包含層（２）

図版44　出土遺物９　３区SK２．18．128、SD１．３．24．43
図版45　出土遺物10　３区Pit５．17．155、河96（１）
図版46　出土遺物11　３区河96（２）．３区包含層（１）
図版47　出土遺物12　３区包含層（２）
図版48　出土遺物13　３区包含層（３）、確認調査、中谷内遺跡（１）
図版49　出土遺物14　中谷内遺跡（２）
図版50　出土遺物15　石製品（１）
図版51　出土遺物16　石製品（２）、鉄製品・鍛冶関連遺物

写真図版目次

写真図版１　沖ノ羽遺跡周辺空中写真（国土地理学院1952年11月撮影）
写真図版２　沖ノ羽遺跡空中写真
写真図版３　空中写真
写真図版４　空中写真
写真図版５　１・２区完掘状況
写真図版６　３区河96土層断面・完掘状況
写真図版７　１区空中写真、基本層序、SX４完掘状況
写真図版８　１区SK５、Pit６、SD１．２．３土層断面・完掘状況、空中写真
写真図版９　２区空中写真、調査前状況
写真図版10　２区基本層序、SE４完掘状況
写真図版11　２区SK５．６．７．８．９土層断面・完掘状況
写真図版12　２区SK８．10、SD１．２．３土層断面・完掘状況、空中写真
写真図版13　３区調査前現況、空中写真
写真図版14　３区調査前現況、空中写真
写真図版15　３区基本層序、SK２土層断面・完掘状況
写真図版16　３区SK18．100．128．171土層断面・完掘状況
写真図版17　３区SE130土層断面・完掘状況
写真図版18　３区SD１．135．136．137土層断面・完掘状況
写真図版19　３区SD24．44土層断面・完掘状況
写真図版20　３区SD３．24．44．131．132土層断面・完掘状況
写真図版21　３区SD131．132．133．134．138．139、Pit187．188土層断面・完掘状況
写真図版22　３区河96土層断面
写真図版23　３区河96完掘状況
写真図版24　３区河96、Pit８．93．104．141他完掘状況
写真図版25　３区SB184．185．186周辺完掘状況、３区完掘状況
写真図版26　沖ノ羽遺跡出土須恵器・土師器・黒色土器
写真図版27　出土遺物１区SD１．３、１区包含層、２区SK５、２区包含層、３区河96、３区包含層、確認調査413T
写真図版28　出土遺物１区SX４、SK５、SD１（１）

写真図版29　出土遺物1区SD1（2）．2．3、1区包含層（1）
写真図版30　出土遺物1区包含層（2）
写真図版31　出土遺物2区SE4、SK5．7．8、SD1．2．3、2区包含層（1）
写真図版32　出土遺物2区包含層（2）、3区SK2．18．128、SD1．3．24（1）．43、Pit5．17．155、河96（1）
写真図版33　出土遺物3区SD24（2）、河96（2）
写真図版34　出土遺物3区河96（3）、3区包含層
写真図版35　出土遺物確認調査、中谷内遺跡出土土器
写真図版36　石製品、鉄製品・鍛冶関連遺物

第Ⅰ章　発掘調査に至る経緯

平成７年度に、新津市満日地区における県営ほ場整備事業の計画が市生涯学習課に知らされた。市生涯学習課は新津東土地改良区および市農産業振興課と協議を重ね、平成７年度から平成８年度にかけて対象面積440haの分布調査を実施した。その結果、遺物が多量に採集され、新潟県教育委員会が平成２～４年度に磐越自動車道建設に伴い本発掘調査を実施した沖ノ羽遺跡〔石川ほか1994、星野ほか1996、春日ほか2003〕の範囲とあわせて多くの遺跡の存在が予想された。

平成11年度に入り、事業計画が見直され、県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区として約170haが対象になり、新潟県新津農地事務所（以下、新津農地）と協議を行い、全区域を対象とした確認・試掘調査を平成11～13年度に実施した。その結果、ほ場整備事業範囲内に中谷内遺跡、内野遺跡、沖ノ羽遺跡、山王浦遺跡の４遺跡が確認された。

そのうち、沖ノ羽遺跡の本発掘調査範囲については、平成15年度中にほ場整備面工事の対象範囲となるため、平成13年度に、新津農地・新津東土地改良区・新潟県教育庁文化行政課・市生涯学習課の４者で遺跡の取扱いを巡って協議を重ねた結果、平成11年９月10日付け教文第578号で新潟県教育委員会教育長から通知された「発掘調査の要否の判断基準について（通知）」の基準により、遺物包含層から30cmの保護層（工事の施工に際して埋蔵文化財を保護するために設ける一定の厚さの土層、樹脂等による緩衝層）を確保できない場合には本発掘調査を実施するとし、保護層が確保できない畑部分の約1500㎡を本発掘調査を実施することで合意した。あわせて、新設道路の用・排水管部分については、本発掘調査の直前に確認調査を実施し、発掘の要否を判断することで合意した。

新津農地から平成15年４月４日付け新農第13号で文化財保護法第57条の３第１項の届が出され、新潟県教育委員会教育長から新津農地事務所長へ平成15年４月25日付け教文第95号の２で畑部分については本発掘調査を用排水路部分については確認調査を実施するように指示文が出された。それを受けて、新津市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ文化財保護法第58条の２による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。新設道路の用・排水路部分については、別に文化財保護法第58条の２による発掘調査の通知を提出して平成15年６月14日に確認調査を実施した。その結果、一部で遺構・遺物が多量に出土し、平成15年６月20日付け教生177－２号で新潟県教育委員会教育長あてに発掘調査の終了報告を提出した。その後の協議でこの部分については今年度に引き続き本発掘調査を実施することで新津農地・新潟県教育庁文化行政課・市生涯学習課の三者で合意した。よってこの面積を合わせて本発掘調査面積は約1,900㎡となった。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置と地理的環境（第1図、図版1・2）

新津市は越後平野のほぼ中央に位置し、新津丘陵を中心として東に阿賀野川、西に信濃川が北流する。享保年間には加治川が阿賀野川に、阿賀野川が新潟港で信濃川に合流する状況で、度々水害に見舞われていたため、享保15年（1730）に新発田藩が松ケ崎放水路を開削し、現阿賀野川の河口となった。新津市域では下新付近で、五泉市域を北流してきた早出川が阿賀野川に合流し、現阿賀野川の河口となった。また、七日町付近では阿賀野川から分岐した小阿賀野川が西流し覚路津付近で信濃川に合流する。新津丘陵東縁を北流する能代川は太平洋戦争後に水害対策の河川改修が行われた。これにより村松町千原～新津市大関間の蛇行部分が直線化、新津市街地を貫流していた本来の流路から分流が東方に作られ、現在新津川・能代川となっている。この能代川と新津川は下興野町付近で再び合流し、荻島付近で小阿賀野川に注いでいる。

新津市域の地形は丘陵とその縁辺の段丘、沖積地から成っている。南南西～北北東に走る新津丘陵は加茂川を南限に標高278mの高立山が最も高く、北に行くに従い標高を下げて北端で70～80mとなり、その周囲には段丘が標高10～70m間に4段見られる。沖積地は信濃川・阿賀野川の二大河川により形成され、自然堤防や旧河道・後背湿地・三角州などの地形が見られる。阿賀野川が流路を東遷させてきた結果、新津市域では新津丘陵北端～小阿賀野川間に自然堤防が形成され、現在起伏の極少ない微高地として断続的に存在している。遺跡は能代川の東約0.5kmに位置し、微高地上に存在する。

現在の遺跡周辺は水田・畑地帯であり、地形の起伏はほとんど認められない。この景観は大正末期から昭和20年代に行われた耕地整理事業によって形成されたものである。耕地整理以前の地図（図版2）からは微高地の多くは畑として、微高地周辺は水田として利用されている。いわゆる「堀田」として利用されたようである。遺跡は河川が形成した自然堤防・微高地上または、微高地の周縁部に立地しており、今回の調査成果と合致する。

2　周辺の遺跡（第2～6図、第1～4表、図版3）

時代別の遺跡の分布は旧石器・縄文・弥生時代では丘陵・段丘上に集中し、古墳時代には丘陵や段丘の縁辺部や平野部微高地、奈良・平安時代になるとさらに平野部微高地各所に分布が見られるようになる。具体的には丘陵上に弥生後期の環壕集落・円墳などが展開し、丘陵裾部には奈良・平安時代の製鉄・須恵器（土師器）窯などの生産遺跡が集中している。そして沖ノ羽遺跡は近接する山王浦・中谷内・内野・無頭遺跡とともに古代・中世の遺跡として周知されている。

旧石器時代の遺跡　当該期の遺跡は、風化火山灰層（ローム層）を上部に含む矢代田層・蒲ヶ沢層により形成された新津丘陵周辺に分布する。八幡山遺跡〔渡邊・立木ほか2001、2004〕や草水町2丁目窯跡でナイフ形石器・石刃などが散発的に出土している。

縄文時代の遺跡　市内で22遺跡が確認されている。時期としては中期～後期が主体で、標高10～30mの丘陵上・段丘上に立地するものが多い。代表的な遺跡としては、平遺跡〔川上1982a〕、原遺跡（中～晩期）、秋葉遺跡（中～後期）が比較的大規模な遺跡である。愛宕澤遺跡〔立木・澤野ほか2004〕では1998年度の調査で下越

新潟県「土地分類基本調査　新潟・新津」1972・1974年より作成（1/150,000）

第１図　新津丘陵周辺地形分類図

第２図　新津市周辺の旧石器・縄文遺跡分布図

第1表　新津市周辺の旧石器・縄文遺跡一覧表

	遺跡名	時代	種別
1	新潟市　阿賀野川河口	縄文・古墳・古代・中世	遺物散布地
2	石動	縄文・弥生・古墳・平安・中世	遺物包含地
3	小丸山	縄文・古墳・平安・中世・近世	遺物包含地
4	狼山	縄文・中世	遺物包含地
5	中山	縄文・古墳・奈良・平安	遺物散布地
6	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	遺物包含地
7	金堀山	縄文・奈良・平安	遺物包含地
8	笹山館	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	遺物包含地
9	五社名	縄文・奈良・平安・中世	遺物包含地
10	亀田町　向山	縄文	遺物包含地
11	西蒲原	縄文・奈良～平安	遺物包含地
12	城山A	縄文・弥生・奈良？・平安	遺物包含地
13	笹岡	縄文・平安・江戸	遺物包含地
14	赤崩	縄文・奈良～平安	遺物包含地
15	道山	縄文・奈良～室町	遺物包含地
16	日水南	縄文・奈良～室町	遺物包含地
17	弁助山	縄文・弥生・奈良？・平安	遺物包含地
18	横越町　小丸山	縄文・弥生・奈良？・平安	遺物包含地
19	笹岡	縄文・弥生・古墳？・奈良？・平安	遺物包含地
20	上田	縄文・弥生・奈良？・平安	遺物包含地
21	豊栄市　笹山A	縄文	遺物包含地
22	笹山B	縄文	遺物包含地
23	笹山C	縄文	遺物包含地
24	猫ノ入A	縄文	遺物包含地
25	猫ノ入B	縄文	遺物包含地
26	猫ノ入C	縄文	遺物包含地
27	島潟	縄文	遺物包含地
28	内島見	縄文	遺物包含地
29	たやしき	縄文・古墳・中世	遺物包含地
30	亀山A	縄文・古墳・平安・中世・近世	遺物包含地
31	あかしやだん	縄文・平安	遺物包含地
32	横井	縄文・平安・中世・近世	遺物包含地
33	引越	縄文・弥生	遺物包含地
34	高森	縄文・平安	遺物包含地
35	新津市　小手平	縄文	遺物包含地
36	秋葉ブドウ園	縄文・奈良・平安	遺物包含地
37	秋葉	縄文・弥生・平安	遺物包含地
38	本水町2丁目遺跡	旧石器・縄文・平安	遺物包含地
39	愛宕神	縄文・平安・中世	遺物包含地
40	熊甲	縄文	遺物包含地
41	平	縄文	遺物包含地
42	城見山	縄文・古代・中世	遺物包含地
43	原	縄文	遺物包含地
44	山崎	縄文	遺物包含地
45	平林	縄文	遺物包含地
46	山境	縄文・弥生・江戸	遺物包含地
47	高矢A	縄文	遺物包含地
48	高矢B	縄文	遺物包含地
49	二百苅	縄文・古代	遺物包含地
50	新津市　下谷地	縄文	遺物包含地
51	神田	縄文・奈良・平安	遺物包含地
52	鳥塚（打）場	縄文	遺物包含地
53	舘村C	縄文・弥生・奈良・平安	製鉄跡
54	八幡山	縄文・弥生・古墳・平安	墓墓跡
55	十ヶ沢B	縄文	遺物包含地
56	坪が入	縄文	遺物包含地
57	阿賀野市　土橋	縄文・平安	遺物包含地
58	石船戸	縄文	遺物包含地
59	上の山	縄文・平安	遺物包含地
60	小須戸町　三沢原	縄文	遺物包含地
61	横河渕堤外地	縄文・平安	遺物包含地
62	五泉市　小黒山	縄文・弥生・古代	遺物包含地
63	下野山	縄文	遺物包含地
64	赤塚	縄文	遺物包含地
65	五百地	縄文	遺物包含地

第３図　新津市周辺の弥生・古墳遺跡分布図

第２表　新津市周辺の弥生・古墳遺跡一覧表

	遺跡名	時代	種別
1	新潟市　石動	縄文・弥生・古墳・平安・中世	遺物包含地
2	小丸山	縄文・古墳・平安・中世・近世	遺物包含地
3	中山	縄文・古墳・奈良・平安	遺物散布地
4	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	遺物包含地
5	笹山館	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	遺物包含地
6	阿賀野川河口	縄文・古墳・古代・中世	遺物散布地
7	山木戸	古墳・平安・中世	遺物包含地
8	横山	古墳・平安	遺物包含地
9	亀田町　下囲	古墳	遺物包含地
10	武左衛門裏	古墳・平安	遺物包含地
11	手代山排水路	弥生・古墳	遺物包含地
12	城山A	縄文・弥生・奈良？・平安	遺物包含地
13	青龍山	縄文・弥生・奈良？・平安	遺物包含地
14	横越町　上の山	弥生・平安	遺物包含地
15	小丸山	縄文・弥生・奈良？～平安	遺物包含地
16	山ノ家	弥生・古墳？・奈良？・平安	遺物包含地
17	前郷	縄文・弥生・古墳？・奈良？～平安	遺物包含地
18	上田	縄文・弥生・奈良？・平安	遺物包含地
19	小杉中洲	古墳	遺物包含地
20	宮尻郷	古墳・奈良？・平安	遺物包含地
21	上郷	古墳・奈良・平安	遺物包含地
22	豊栄市　引越	縄文・弥生	遺物包含地
23	たやしき	縄文・古墳・中世	遺物包含地
24	正尺A	古墳・平安	遺物包含地
25	正尺B	古墳	遺物包含地
26	正尺C	古墳	遺物包含地
27	正尺D	古墳	遺物包含地
28	幕堀	古墳	遺物包含地
29	屋浦	古墳・奈良～平安	遺物包含地
30	城の腰	古墳・平安・中世	遺物包含地
31	尾山A	縄文・古墳・平安・中世・近世	遺物包含地
32	阿賀野市　山島屋敷	古墳・古代・中世	遺物包含地
33	村下	古墳・平安・中世	遺物包含地
34	猫山	弥生	遺物包含地
35	土居内西	弥生・平安・中世	遺物包含地
36	はがい畑	弥生・平安	遺物包含地
37	新津市　中谷内	古墳・平安・中世	遺物包含地
38	上諸B	古墳・古代	集落跡
39	山谷北	古墳	遺物包含地
40	秋葉	縄文・弥生・平安	遺物包含地
41	塩俣	弥生・古墳・奈良・平安	遺物包含地
42	角戸	弥生・古墳・奈良？・平安	遺物包含地
43	馬矢C	古墳	遺物包含地
44	山端	縄文・弥生・江戸	遺物包含地
45	古津八幡山古墳	弥生・古墳	古墳
46	八幡山	縄文・弥生・古墳・平安	集落跡
47	荻村C	縄文・弥生・奈良・平安	製鉄跡
48	十ヶ沢A	弥生	遺物包含地
49	仲ノ割	古墳・古代・中世	遺物包含地
50	新津市　荻村B	弥生・奈良・平安	遺物包含地
51	越	古墳・奈良	遺物包含地
52	山際	古墳・平安	遺物包含地
53	善田	弥生・古墳	遺物包含地
54	五泉市　小宮山	縄文・弥生・古代	遺物包含地
55	大倉山	弥生	遺物包含地

（国土地理院　新潟・新津　1998年　1/50,000 → 1/100,000）

第4図　新津市周辺の古代遺跡分布図

第3表　新津市周辺の古代遺跡一覧表

	遺跡名		時代	種別
1	新潟市	阿賀野川河口	縄文・古墳・古代・中世	遺物散布地
2		宮脇	平安	遺物包含地
3		梅島	平安	遺物包含地
4		居浦郷	平安	遺物包含地
5		山木戸	古墳・平安・中世	遺物包含地
6		竹尾西	平安	遺物包含地
7		寺山	平安	遺物散布地
8		石動	縄文・弥生・古墳・平安・中世	遺物包含地
9		下場	平安・中世	遺物包含地
10		狼ヶ島塚A	平安・室町	遺物散布地
11		西野	平安	遺物包含地
12		大淵	平安・中世	遺物包含地
13		中山	縄文・古墳・奈良・平安	遺物散布地
14		笹山前	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	遺物包含地
15		葛塚谷	縄文・奈良・平安・中世	遺物包含地
16		彦七山	奈良・平安	遺物包含地
17		金塚山	縄文・奈良・平安	遺物包含地
18		前山	奈良・平安	遺物包含地
19		丸山	平安	遺物包含地
20		直り山A	平安	遺物散布地
21		神明社裏	平安	遺物包含地
22		城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	遺物包含地
23		北山	平安	遺物包含地
24		直り山B	平安	遺物包含地
25		小丸山	縄文・古墳・平安・中世・近世	遺物包含地
26		宮前谷墓地	平安	遺物包含地
27		清水が丘	平安	遺物包含地
28		大淵外	平安・中世	遺物包含地
29		松山向山	平安	遺物包含地
30		神谷内	奈良・平安	官衙跡
31		向山	平安	遺物包含地
32		横山	古墳・平安	遺物包含地
33		上舟橋	平安	遺物包含地
34		新崎	奈良・平安	遺物包含地
35		姥上山	平安	遺物包含地
36	亀田町	城山A	縄文・弥生・奈良？～平安	遺物包含地
37		静原	縄文・奈良～平安	遺物包含地
38		道山	縄文・奈良～室町	遺物包含地
39		日水庵	縄文・奈良～室町	遺物包含地
40		西興野	縄文・奈良～平安	遺物包含地
41		斉藤山	縄文・弥生・奈良？～平安	遺物包含地
42		武左衛門島	古墳・平安	遺物包含地
43		貝塚	奈良・平安	遺物包含地
44		三条岡	奈良・平安	遺物包含地
45		上ノ山	奈良・平安	遺物包含地
46		中ノ山	奈良・平安	遺物包含地
47		狐山	奈良・平安	遺物包含地
48		上沼	奈良・平安	遺物包含地
49		笑島	奈良・平安	遺物包含地
50		赤岡	奈良・平安	遺物包含地
51		塚ノ山	奈良・平安	遺物包含地
52		岡田	奈良・平安	遺物包含地
53		牛道	平安	遺物包含地
54		川根	平安・鎌倉	遺物包含地
55		市助島	平安・鎌倉	遺物包含地
56		鵜ノ子	平安	遺物包含地
57		茂島	平安	遺物包含地
58		清ノ山	平安	遺物包含地
59		八幡宮	平安	遺物包含地
60		早通南	平安・鎌倉	遺物包含地
61		前郷	縄文・平安・江戸	遺物包含地
62		曙	平安	遺物包含地
63	横越町	小丸山	縄文・弥生・奈良？～平安	遺物包含地
64		上田	縄文・弥生・奈良？～平安	遺物包含地
65		前郷	縄文・弥生・古墳？・奈良？～平安	遺物包含地
66		山ン家	弥生・古墳？・奈良？～平安	遺物包含地
67		新郷郷	奈良～平安	遺物包含地
68		駒込藤所	奈良～平安	遺物包含地
69		川根谷内	奈良～平安	遺物包含地
70		宮反島	古墳・奈良？・平安	遺物包含地
71		下郷	奈良～平安	遺物包含地
72		山のハサバ	奈良～平安	遺物包含地
73		藤山	平安・鎌倉	遺物包含地
74		江尻	平安	遺物包含地
75		居浦A	平安～室町	遺物包含地
76		平山	平安	遺物包含地
77		上の山	弥生・平安	遺物包含地
78		根岸寺	平安	遺物包含地
79		曽我墓所	平安	遺物包含地
80		川根谷内墓所	平安・室町	遺物包含地
81		天王砂	平安・鎌倉・南北朝	遺物包含地
82		上郷	古墳・奈良・平安	遺物包含地
83		上郷B	奈良・平安	遺物包含地
84		上郷C	平安	遺物包含地
85		新田島	平安	遺物包含地
86	豊栄市	笹山D	平安	遺物包含地
87		あかしやだん	縄文・平安	遺物包含地
88		内島見B	奈良・平安	遺物包含地
89		尾山A	縄文・古墳・平安・中世・近世	遺物包含地
90		尾山B	平安	遺物包含地
91		尾山C	平安	遺物包含地
92		横井	縄文・平安・中世・近世	遺物包含地
93		甲山	平安	遺物包含地
94		上土地亀	平安	遺物包含地
95		上土地亀2	奈良～平安	遺物包含地
96		下前川原	平安・室町	遺物散布地
97		森森	縄文・平安	遺物包含地
98		城の腰	古墳・平安・中世	遺物包含地
99		浦木	平安	遺物包含地
100		細内	平安	遺物包含地
101		星島野	平安	遺物包含地
102		岡新田	平安	遺物包含地
103		大夫曽根	平安	遺物包含地
104	豊栄市	上細田	平安	遺物包含地
105		村下	奈良～平安	遺物包含地
106		内沼端	奈良～平安	遺物包含地
107		川東	奈良～平安	遺物包含地
108		中道	奈良～平安	遺物包含地
109		中道2	奈良～平安	遺物包含地
110		神田	奈良～平安	遺物包含地
111		神田2	奈良～平安	遺物包含地
112		椛曽根	奈良～平安	遺物包含地
113		基幹	奈良～平安	遺物包含地
114		椛曽根2	奈良～平安	遺物包含地
115		池田	奈良～平安	遺物包含地
116		池田2	奈良～平安	遺物包含地
117		一本柳	奈良～平安	遺物包含地
118		五本柳2	奈良～平安	遺物包含地
119		曽郷	平安	遺物包含地
120		正尺A	古墳・平安	遺物包含地
121		居浦	古墳・奈良～平安	遺物包含地
122	阿賀野市	山岸屋敷	古墳・古代・中世	遺物包含地
123		曽根	平安	遺物包含地
124		城館	平安	城館跡
125		千湖	平安	遺物包含地
126		曽郷谷内	平安	遺物包含地
127		土居内西	弥生・平安・中世	遺物包含地
128		森	平安・中世	遺物包含地
129		曽田郷谷内C	平安・中世	遺物包含地
130		大曲川端	平安・中世	遺物包含地
131		はかい塚	弥生・平安	遺物包含地
132		村下	古墳・平安・中世	遺物包含地
133	新津市	舟戸	弥生・古墳・奈良・平安	集落跡
134		大坪	奈良・平安	遺物包含地
135		塩辛	弥生・古墳・奈良・平安	遺物包含地
136		七本松窯跡群	平安	窯跡
137		寺島	平安・鎌倉	遺物包含地
138		曽根	平安・鎌倉	遺物包含地
139		下興ノ木	平安・鎌倉・室町	遺物包含地
140		川根	平安・鎌倉・室町	遺物包含地
141		小戸下組	平安・鎌倉・室町	遺物包含地
142		結	古墳・奈良	遺物包含地
143		居村A	平安	製鉄跡
144		沖ノ羽	古墳・古代・中世	遺物包含地
145		西江浦	平安	遺物包含地
146		新保寺道上	平安	遺物包含地
147		上浦B	古墳・古代	集落跡
148		長沼	平安・鎌倉	遺物包含地
149		西沼	平安	遺物包含地
150		長左ェ門沼	平安	遺物包含地
151		城見山	縄文・古代・中世	遺物包含地
152		中郷	平安	遺物包含地
153		桜大門	平安	遺物包含地
154		八幡山	縄文・弥生・古墳・平安	集落跡
155		古津桐越A	奈良・平安	製鉄跡
156		大入	奈良・平安	製鉄跡
157		居村C	縄文・弥生・奈良・平安	製鉄跡
158		居村B	弥生・奈良・平安	製鉄跡
159		持田	縄文・奈良・平安	遺物包含地
160		古津桐越B	奈良・平安	製鉄跡
161		金津桐越A	奈良・平安	製鉄跡
162		秋葉ブドウ園	縄文・奈良・平安	遺物包含地
163		場谷窯跡	平安	窯跡
164		草水町2丁目窯跡	旧石器・縄文・平安	窯跡
165		薩興野	古代	遺物包含地
166		川口甲	平安	遺物包含地
167		江内	平安・中世・江戸	遺物包含地
168		草水町1丁目窯跡	平安	窯跡
169		古道	平安	遺物包含地
170		川口乙	平安	遺物包含地
171		金津桐越B	奈良・平安	遺物包含地
172		中谷内	古墳・平安・中世	遺物包含地
173		内野	平安・中世	遺物包含地
174		大下	平安	遺物包含地
175		舞鶴	平安	遺物包含地
176		結七島	奈良・平安	遺物包含地
177		久保	平安	遺物包含地
178		山王浦	平安	遺物包含地
179		道上	平安	遺物包含地
180		下新田島	古代～中世	遺物包含地
181		上浦A	平安	遺物包含地
182		秋葉	縄文・弥生・平安	遺物包含地
183		愛宕澤	縄文・平安・中世	遺物包含地
184		西島中谷内	奈良・平安	遺物包含地
185		二百刈	縄文・古代	遺物包含地
186		下久保	平安	遺物散布地
187		山島	平安	遺物包含地
188	阿賀野市	三郷稲荷	平安	遺物包含地
189		土橋	縄文・平安	遺物包含地
190		上の山	縄文・平安	遺物包含地
191	小須戸町	東新付	平安	遺物包含地
192		大沢谷内	平安	遺物包含地
193		六兵衛沢	平安	窯跡
194		横川浜堤外地	縄文・平安	遺物包含地
195		三沢B	平安	遺物包含地
196	五泉市	山崎窯跡	奈良	窯跡
197		小見山	縄文・弥生・古代	遺物包含地
198		丸田	平安	遺物包含地
199		江中	古代	遺物包含地
200		中野	奈良・平安	遺物包含地
201		堀下	奈良・平安	遺物包含地
202		村付	奈良・平安	遺物包含地
203		堀浜	奈良・平安・中世	遺物包含地
204		道金	奈良・平安	遺物包含地
205		福島	奈良・平安・中世	遺物包含地

（国土地理院　新潟・新津　1996年　1/50,000 → 1/100,000）

第５図　新津市周辺の中世遺跡分布図

第４表　新津市周辺の中世遺跡一覧表

	遺跡名		時代	種別
1	新潟市	阿賀野川河口	縄文・古墳・古代・中世	遺物散布地
2		古屋敷	室町・江戸	遺物包含地
3		山木戸	古墳・平安・中世	遺物包含地
4		竹尾	室町	遺物散布地
5		石動	縄文・弥生・古墳・平安・中世	遺物包含地
6		岡山の石仏	中世	石仏
7		狼ヶ馬場A	平安・室町	遺物散布地
8		狼ヶ馬場B	鎌倉～江戸	遺物包含地
9		下場	平安・中世	遺物包含地
10		石山	中世	遺物包含地
11		石仏山	中世	遺物包含地
12		大淵	平安・中世	遺物包含地
13		小丸山	縄文・古墳・平安・中世・近世	遺物包含地
14		松山	縄文・中世	遺物包含地
15		細山石仏	室町	石仏
16		城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	遺物包含地
17		大通外	平安・中世	遺物包含地
18		津島屋の石仏	中世（南北朝）	石仏
19		茗荷谷	縄文・奈良・平安・中世	遺物包含地
20	亀田町	早通前	平安・鎌倉	遺物包含地
21		市助藪	平安・鎌倉	遺物包含地
22		川西	平安・鎌倉	遺物包含地
23		手代山	鎌倉	遺物包含地
24		荒木前	鎌倉	遺物包含地
25		日水南	縄文・奈良～室町	遺物包含地
26		城山B	南北朝・室町・江戸	遺物包含地
27		三王山	室町	遺物包含地
28		笹山	縄文・奈良～室町	遺物包含地
29	横越町	藤山	平安・鎌倉	遺物包含地
30		明附A	平安～室町	遺物包含地
31		川根谷内墓所	平安・室町	遺物包含地
32		円通寺石仏	室町	石造物
33		横越館	室町	城館跡
34		下郷経塚	室町	経塚
35		天王杉	平安・鎌倉・南北朝	遺物包含地
36	豊栄市	内島見C	中世	遺物包含地
37		寺ノ山	室町	遺物包含地
38		下樋川原	平安・室町	遺物散布地
39		森下	室町	古銭出土地
40		長場	室町	遺物包含地
41		長場館跡	室町	城館跡
42		葛敷野石仏	中世	石仏
43		上新田石仏A	中世	石仏
44		上新田石仏B	中世	石仏
45		上新田石仏C	中世	石仏
46		たやしき	縄文・古墳・中世	遺物包含地
47		城の腰	古墳・平安・中世	遺物包含地
48		尾山A	縄文・古墳・平安・中世・近世	遺物包含地
49		横井	縄文・平安・中世・近世	遺物包含地
50	阿賀野市	山島屋敷	古墳・古代・中世	遺物包含地
51		要害	中世	製鉄跡
52		駒林要害	室町	城館跡
53		土居内	中世	製鉄跡
54		土居内西	弥生・平安・中世	遺物包含地
55		森	平安・中世	遺物包含地
56		寺西郷谷内C	平安・中世	遺物包含地
57		大曲川端	平安・中世	遺物包含地
58		下谷地	中世	遺物包含地
59		村下	古墳・平安・中世	遺物包含地
60		曽郷前	中世	遺物包含地
61		城	中世	製鉄跡
62		大割	中世	遺物包含地
63		町屋上	中世	集落跡
64		清水家	中世	石仏
65		下ノ橋館	室町	城館跡
66		下ノ橋	中世	製鉄跡
67		船渡	中世	遺物包含地
68		諏訪神社	中世	石仏
69		小河原	中世	石仏
70		七島館	中世	城館跡
71		森島諏訪社	中世	石仏
72	阿賀野市	坂上り	中世	遺物包含地
73		本田島	中世	遺物包含地
74	新津市	下新別当	古代～中世	遺物包含地
75		川原畑	中世	遺物包含地
76		長沼	平安・鎌倉	遺物包含地
77		江内	平安・中世・江戸	遺物包含地
78		沖ノ羽	古墳・古代・中世	遺物包含地
79		中谷内	古墳・平安・中世	遺物包含地
80		新久免の塚	室町～江戸	塚
81		内野	平安・中世	遺物包含地
82		寺崎	平安・鎌倉	遺物包含地
83		長崎（城跡）	室町	遺物包含地
84		川根	平安・鎌倉・室町	遺物包含地
85		小戸下組	平安・鎌倉・室町	遺物包含地
86		浄楽	室町	遺物包含地
87		蕨曽根	室町・安土桃山	遺物包含地
88		御旗神社石仏	中世	石仏
89		塩辛	中世	遺物包含地
90		新津城跡	室町	城館跡
91		程島館跡	戦国	城館跡
92		本町石仏	中世	石造物
93		民池の塚	室町	塚
94		満願寺石仏	中世	石造物
95		大関館跡	中世	城館跡
96		曽根	平安・鎌倉	遺物包含地
97		下新ノ木	平安・鎌倉・室町	遺物包含地
98		西島館跡	中世	城館跡
99		東島城跡	室町	城館跡
100		金津城跡	南北朝	城館跡
101		城見山	縄文・古代・中世	遺物包含地
102		愛宕澤	縄文・平安・中世	遺物包含地
103	阿賀野市	羽黒沼	中世	遺物包含地
104		土居内	中世	遺物包含地
105		浄楽寺の石造物	中世	石造物
106		藤の木	室町	遺物包含地
107		天神林	室町	石仏
108		中島神明宮	室町	石仏
109		中島の観音像	室町	石仏
110		玉泉寺石仏	中世	石仏
111		玉泉寺	室町	石仏
112		村下	室町	石仏
113		内山王	室町	遺物包含地
114		分田館跡	室町	城館跡
115		新明野	室町	遺物包含地
116		神宮寺	室町	石仏
117		上江端	室町	石仏
118		成田屋敷	室町	遺物包含地
119		下条館跡	室町	城館跡
120		居館	室町	遺物包含地
121	小須戸町	三沢	室町	製鉄跡
122		了専寺館	中世	寺院跡
123		西善寺石仏	中世	石造物
124		五本田館	室町	城館跡
125		西瓜屋山館	室町	城館跡
126	五泉市	船越古銭出土地その2	中世	遺物包含地
127		船越古銭出土地その1	中世	遺物包含地
128		下条館	中世	城館跡
129		森山石仏	中世	石仏
130		高山石造物群	南北朝	石仏
131		巣之内宝篋印塔	中世	石仏
132		堤	室町	遺物包含地
133		丸田館	室町	城館跡
134		延命寺石仏群	中世	石仏
135		大倉山尼寺跡	中世	寺院跡
136		榎表	奈良・平安・中世	遺物包含地
137		榎表南	鎌倉・南北朝	遺物包含地
138		五泉城	室町	城館跡
139		福島	奈良・平安・中世	遺物包含地
140		万福寺板碑	中世	板碑
141		丸田石仏群	中世	石仏

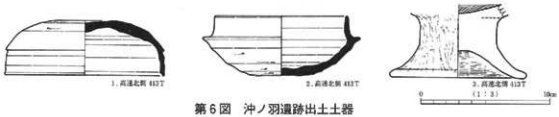
地方に少ない縄文時代草創期前半の石器（局部磨製石斧・石核等）が検出された。早期の遺跡は未確認であるが、居村遺跡E地点〔渡邊ほか1997〕では前期前半の遺物が、草水町２丁目窯跡では前期後半・中期・後期の遺物が出土している。

弥生時代の遺跡　市内で10遺跡が確認されている。主に八幡山遺跡〔渡邊・立木ほか2001、2004〕とその周辺の居村Ｃ遺跡（Ｄ・Ｅ地点）〔川上1996、渡邊ほか1997、渡邊・立木ほか2001〕があり、いずれも弥生時代後期に属する。特に八幡山遺跡は一定期間定住していた拠点集落と見られる高地性環濠集落で、二重の環濠・竪穴住居・炉跡・前方後方形墳墓が確認されている。遺物は東北系と北陸系の弥生土器や両系統の折衷土器（八幡山式）が出土しており、当該地域の弥生時代を考える上で重要な遺跡である。平野部の舟戸遺跡〔川上1995〕でも遺物が出土している。平成15年度の立会調査では秋葉遺跡から中期前半、塩辛遺跡から中期後半の土器が出土している〔渡邊・立木ほか2004〕。平成16年度の立会調査では八幡山遺跡の近隣で森田遺跡が新発見され後期の土器が出土している。特に塩辛遺跡は現地表より２m下から土器が出土しており、今後新津丘陵沿いの台地と沖積地の境界から遺跡が検出される可能性があり注意を要する。

古墳時代の遺跡　市内で12遺跡が確認されている。古墳時代初頭に八幡山遺跡前方後方墳、前期には八幡山遺跡の北西端に古津八幡山古墳が造営される（墳丘約60m・造り出し付き円墳）〔甘粕・川村ほか1992〕。古墳に隣接する舟戸遺跡・高矢C遺跡は中期の遺跡であり、丘陵縁辺や端部に立地する。平野部の沖ノ羽遺跡〔昼野ほか1996〕・上浦B遺跡では前・中期の土師器が出土し、結七島遺跡からは中期の土器が、結遺跡〔川上ほか1989〕では後期の内面黒色処理を施した高杯が出土している。また、平成15・16年度の本発掘調査で中谷内遺跡〔北村・菊地ほか2004〕から中～後期の土器が、確認・立会調査で塩辛遺跡〔渡邊・立木ほか2004〕・沖ノ羽遺跡から後期の土器が出土した。沖ノ羽遺跡（図版４）出土土器のうち第６図に代表的なものを図示した。１は須恵器杯蓋で、田辺陶邑編年〔田辺1966〕のTK47型式併行期（５世紀末～６世紀初頭）に比定される。２は須恵器杯で同じくMT15型式併行期（６世紀第１四半世紀）に比定される。３は古墳時代後期（６世紀）の内面黒色処理された高杯脚部である。その他に平成16年度の確認・立会調査では前述の森田遺跡から前～後期の土器が出土している。

奈良・平安時代の遺跡　奈良・平安時代の遺跡は市内で55遺跡確認されている。平野部には集落遺跡が多く立地し、丘陵裾部には製鉄遺跡、須恵器・土師器窯跡などの生産遺跡が集中している。新津丘陵窯跡群は新津丘陵北東斜面に分布し、七本松窯跡・草水町２丁目窯跡などがある。製鉄遺跡は居村遺跡・大入C遺跡などがあり、９世紀第２四半期以降とされる〔渡邊1997〕。平野部に位置する上浦Ａ・Ｂ遺跡〔渡邊1982、川上1997〕では掘立柱建物が発見され、上浦A遺跡では円面硯や銅製帯金具が、上浦B遺跡では三彩小壺や多量の墨書土器が出土している。上浦A遺跡の年代は出土遺物の年代観から９世紀と考えられる。上浦Ｂ遺跡については未報告であるので遺跡の概要は不明であるが、９世紀中葉～後葉の集落と考えられている。沖ノ羽遺跡を含む満日地区（旧満日村区域）には山王浦遺跡〔立木・澤野ほか2004〕、中谷内遺跡〔立木ほか1999、渡邊ほか2002〕、内野遺跡〔立木・高野ほか2002〕、無頭遺跡〔長澤2002〕など９世紀後半を中心とする遺跡が多く確認されている。

中世の遺跡　中世の遺跡は市内で29遺跡確認されているが、城館跡が８ヶ所、山城として東鳥城・金津



第６図　沖ノ羽遺跡出土土器

城〔横山・竹田ほか1987〕がある。集落跡は平野部微高地に立地する。自然堤防上の遺跡は実態がよく分からなかったが、江内遺跡〔春日ほか1996〕の発掘に伴い、14～15世紀の集落が発見された。また細池遺跡〔小池ほか1994〕では中世以降の圃場の各単位施設と思われる遺構が検出されている。また満日地区（旧満日村区域）では内野遺跡〔立木・高野ほか2002〕の発掘により14～15世紀の自然堤防上の集落の様相が明らかとなった。

近世の遺跡　集落跡は中世と同じ平野部微高地に立地しており、実態は不明である。前述の江内遺跡で17世紀前半からの集落の一部が明らかにされている。しかし新津丘陵を中心とした地域がいったいどのような状況にあったかは遺跡の存続時期を含め不明な点が多い。

3　歴史的環境

古墳時代の越後国については文献史料では不明な点が多い。越後平野に立地する古墳は巻町の菖蒲塚古墳・山谷古墳や三条市の保内三王山古墳群などいずれも前期のもので、5世紀代には越後平野で古墳は造営されなくなり、5世紀後半以降は高田平野・魚野川流域に造営されるようになる。

越国の領域については第1段階（3～4世紀）は旧越前国（越前・加賀・能登）、第2段階（5～6世紀）は旧越中国（頸城・古志・魚沼・蒲原4郡まで含む）まで、第3段階（7世紀中～）は渟足・磐舟柵までとし、次第に北上していく様が伺える〔米沢1965・1980〕。『続日本紀』大宝2年（702）3月条には越中国4郡を割いて越後国に編入するとあり、頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡がこれに当たるとされ、これにより越中国の領域が確定した。最終的に越後国の領域が確定するのは、和銅5年（712）にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して出羽国を建国したことによる。

古代の新津市域は蒲原郡に属し、その郡域は概ね三条市以北阿賀野川以西の越後平野と推定され、中世南北朝期に蒲原郡の郡域が旧沼垂郡を含む領域に拡大するまでは郡域に大幅な変更はないと思われる。古代の新津市域は7世紀段階には旧越中国の渟足柵に属する領域として整備され、8世紀には蒲原郡として成立したと見られる。蒲原郡内には10世紀成立の『和名類聚抄』に桜井・勇礼・青海・小伏・日置の5郷が見られ、桜井・勇礼・青海・小伏の4郷について所在地が比定できることから、新津市域は日置郷に当たると考えられ、郷域は新津丘陵の北端部を中心に阿賀野川以西信濃川以東、概ね新津市・五泉市・小須戸町・田上町の範囲と推定される。

宝亀11年（780）の「西大寺資財流記帳」（『寧楽遺文』中巻）には西大寺の荘園として蒲原郡に鵜橋庄・槐田庄が見られる。同史料「越後国水田井墾田地帳景雲三年」などとあることから、成立はいずれもそれ以前、8世紀中葉と見られる。所在地については式内社名から、鵜橋庄は五泉市橋田、槐田庄は三条市周辺とされている。これらの荘園に新津市域が含まれていたのかは不明である。

新津丘陵における須恵器生産は早ければ7世紀後半には始まり、8世紀前半～9世紀中頃が主な操業時期である。これは越後国内の他地域の須恵器生産動向とほぼ一致しており、いわゆる「一郡一窯体制」であった。しかし9世紀前半～中葉には佐渡小泊窯の製品が越後国全域に流通するという顕著的変化が生じる〔坂井1996〕。一方金津丘陵製鉄遺跡群は新津丘陵北西側の金津地区にあり、窯跡と近接するのは燃焼が薪や木炭と共通するためである。古代の新津市域の産業は新津丘陵の製鉄・窯跡群が中心で、低湿地や潟湖が大部分を占めていた越後平野の中で新津丘陵は重要な位置にあったと思われ、文献史料上は確認できないが、沼垂柵や国府津である蒲原津とも何らかの関係があった可能性がある。

11世紀後半に各地で成立し始めた公領のひとつである金津保は新津市域に所在したとされる。金津保の初見は建武3年(1336)11月18日「羽黒義成軍忠状写」で「同二日、引籠于金津保新津城、対于小国政光以下御

敵等、到数々合戦擧、」(『新潟県史』資料編4－1935)とあり、北朝方である三浦和田(羽黒)衆成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国政光らと戦ったとある。この史料によって金津保には新津城が含まれていたとわかり、この新津城とは新津城・程島館・東島城のいずれであろうとされる(木村1993)。また天正5年(1577)「三条衆給分帳」に「金津保之内遊川」(『新潟県史』資料編5－2704)とあり、遊川は田上町湯川と見られ、さらに天文13年(1544)10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副状」(『新潟県史』資料編4－1495・1496)に「金津保下条村」とあるのは、五泉市下条に当たるとされる。以上のことから金津保の領域は年代によって若干の違いがあった可能性はあるが、新津市～田上町北部と新津丘陵の五泉市側までも含む範囲であったと推定する。

院政期～鎌倉初期には建仁元年(1203)3月4日に「城四郎長茂并伴類新津四郎已下、於吉野奥被誅擧」(『吾妻鏡』)とあり、新津四郎はおそらく金津保に何らかの関連をもつ人物と見られるが、阿賀野川以北に勢力を持ち国衙勢力と対峙する城長茂と行動を共にしている。このことから公領である金津保は国衙勢力と城氏との間で不安定な状況であったことが予想される。また南北朝動乱期には阿賀野川以北の北朝方佐々木加地景綱らと、刈羽・魚沼地域に勢力を置く南朝方の小国氏らの蒲原津をめぐっての攻防が続き、阿賀野川流域である金津保つまり新津市域はその中で拠点の一つとして注目されていた。その後も越後守護となった上杉氏・守護代長尾氏にとって、その支配に抵抗する阿賀野川以北の国人層、本庄・色部・中条・佐々木加地氏らを統制するために金津保は地理的に極めて重要な拠点であった。そのため金津保は国衙領として守護の支配下に置かれることとなる。

天正6年(1578)3月上杉謙信が死去し、養子である景勝・景虎の間で後継争い「御館の乱」がおこる。この乱に景勝方として参戦した新津氏は、以後それまで金津保の勢力であった平賀氏に替わり領主となった。そして慶長3年(1598)景勝とともに会津へと国替えさせられるまで、新津氏が金津保を中心により発展することとなった。

中世における金津保を中心とした新津市域は、阿賀野川流域であり、蒲原津に近いという地理的環境や越後平野を一望することができるという新津丘陵の存在から常に不安定な政治的状況に置かれていた。先に金津保の領域に推定した範囲に新津丘陵を中心に中世城館が常に置かれていたのはそのことを示しているのだろう。

近世に入り、越後平野では新発田藩によって新田開発に伴う治水工事が行われるようになった。また近世後期には町人請負による新田開発が盛んになり、潟の干拓が行われた。阿賀野川などの河川も水害対策のために掘削を掘削するなどの普請がなされた。『中蒲原郡誌』によれば、遺跡の所在する現大字東金沢を含む旧阿賀浦村は元和元年(1615)に開発されたとみられ、旧阿賀浦村はこの開発により上興野・下興野・中興野・四興野に分かれ、その後上金沢・下金沢・大安寺・中新田に改称した。「興野」・「郷屋」の地名は天正から慶長期に成立した村に付けられたもので(金子1986)、新発田藩による治水土木工事も慶長期以降盛んに行われており、遺跡周辺が16世紀末～17世紀に開発されていることが窺える。

現在の遺跡周辺の景観はこの開発に基づいて形成されているが、古代から中世にかけての遺跡周辺は広大な湯潟や湿地が存在し、その中で微高地上の遺跡は当時の生活を知る上で非常に重要である。

第Ⅲ章　調査の概要

1　確認調査（図版4）

満日地区は場整備事業に伴う試掘・確認調査は、平成11・12年度に試掘・確認調査としては場整備事業区域全域の田部分を、平成13年度には畑部分と田部分を行っている。平成11年度には869.4㎡（1.4m×3m×207トレンチ）、平成12年度に659.4㎡（1.4m×3m×157トレンチ）を行い、平成13年度には823.2㎡（1.4m×3m×196トレンチ）を調査した。その後の協議で用・排水路部分の確認調査を行い、平成14年度から平成16年度（平成17年度以降継続予定）にかけて全体面積の約2／3を確認調査を行った。

今回の調査地点は平成13年度の畑部分の確認調査で213トレンチの現地表面（G・L）から0.35～0.45mで黒茶褐色～茶褐色土層の包含層相当層が確認され、畑部分を中心に包含層の広がりが予想された。以上の結果から、保護層が確保されない本発掘調査範囲は前述の通り畑部分（以下、3区とする）は約1,500㎡である。農道部分（用・排水管理設部分）については平成15年6月16日に追加の確認調査を実施した。農道部分に約20mおきに31.5㎡（1.5m×3m×7トレンチ）を調査した。その結果、354・359・360トレンチの現地表面（G・L）から1.0m前後で遺物が多量に出土した。この結果、その周辺を含めて約200㎡（本地点は以下、1区とする）の本調査を実施することとなった。さらに平成14年度の確認調査で確認された287～290トレンチにかけての約200㎡が本発掘調査必要範囲（以下、2区）となった。

2　沖ノ羽遺跡における既存の本発掘調査（図版5）

沖ノ羽遺跡における既存の本発掘調査は、平成2～4年度にかけて新潟県教育委員会が「磐越自動車道建設」にともない計96,069㎡を調査している。その結果、微高地上に古墳時代から中世にいたる集落跡・圃場跡などが検出されている〔石川ほか1994、星野ほか1996、春日ほか2003〕。特筆されるものとしては古墳時代中期の土器および古代の集落跡、さらに中世の圃場跡などである。平成13年度に「鮭川排水機場建設」に伴う本発掘調査が新津市教育委員会が主体となって行われ、2,332㎡が調査された。その結果、平安時代（9世紀後半）の集落域が確認された〔細野ほか2002〕。短期間に営まれた集落跡で遺物の出土状況も良好で、編年的に重要である。また、平成15年度には今回の本発掘調査と並行して東北電力（株）の「平成16年度東北電力西新潟線鉄塔建替工事」に伴なう本発掘調査を実施し、沖ノ羽遺跡の一部121.36㎡を調査し古代の溝と土器が出土している〔北村ほか2004〕。

3 発掘調査

A 調査方法

1）現　況

現況は畑・水田である。

2）グリッドの設定（図版5～7）

グリッドを設定するにあたっては、基準点はX座標201970.000Y座標点54820.000、緯度：37° 49′17″ 9226、経度：139° 07′10″ 1837を1A杭とした。基準点に対し国土地理院の第8系座標軸を用いて10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基点として短軸方向をアラビア数字、長軸方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。大グリッドをさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、「3B15」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

発掘調査区5点の座標（新座標）は次のとおりである。

6E（X座標：201920.000、Y座標：54860.000、緯度：37° 49′16″ 2922、経度：139° 07′11″ 8058）・11M（X座標：201870.000、Y座標：54940.000、緯度：37° 49′14″ 6532、経度：139° 07′15″ 0635）・27R（X座標：201710.000、Y座標：54990.000、緯度：37° 49′09″ 4528、経度：139° 07′17″ 0648）・23S（X座標：201750.000、Y座標：55000.000、緯度：37° 49′10″ 7480、経度：139° 07′17″ 4844）・25T（X座標：201730.000、Y座標：55010.000、緯度：37° 49′10″ 0972、経度：139° 07′17″ 8879）。7G杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分14秒東偏し、磁北は真北に対し7度40分00秒西偏する。

3）調査方法

①表土剥ぎ　確認調査によって遺物の出土が多量であることから、遺物包含層（V層）上面まで、遺物の出土に注意しながら重機（バックホウ）により除去した。排土は横置きした。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また、湧水防止のために、表土剥ぎと並行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2吋のポンプで強制排水を行った。土側溝は人力で掘削し、幅20cm、深さ20cm程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけたV字の溝を掘削した。土側溝により遺構の破壊が考えられたが、湧水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

②包含層掘削・遺構検出・発掘　重機で掘削後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構の検出にあたった。排土は人力で調査区外へ搬出した。

③実測・写真　実測図は断面図を1／20で作成した。平・断面図や各種測量点は測量業者に委託してトータルステーションを用いて作成し、あわせて俯瞰写真を撮影した。写真撮影は35㎜版・6×7版のカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。

④遺物取り上げ　包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は点数が少ない地点が多く、層位・小グリッド単位ごとに一括で取り上げた。

⑤自然科学分析　植物珪酸体分析・花粉分析・材樹種同定を行った。

B　調査経過

平成15年６月３日から諸準備を開始し、６月20日に器材搬入した。６月16日に用・排水路管部分の追加確認調査を行った。６月17日～７月12日まで、１区から順番に重機によってⅠ～Ⅴ層を除去した。表土剥ぎと並行して作業員約４名で排水路掘削、法面仕上げを行った。さらに７月14日作業員全員（約20名）で、１区から順番に包含層掘削を行い、７月15日から遺構検出作業を開始した。８月１日に１・２区空中写真撮影を実施する。８月28日新津市行政講座の一環で遺跡見学会（約25名）があった。さらに９月11日新津市民大学で21名の見学があった。9月19日に３区をほぼ完掘し、20日にローリングタワーから写真撮影を行い、23日にラジコンヘリコプターによる３区の空中写真撮影を行う。９月26日に機材撤収を行った。

最終的な発掘調査面積は、１区上端面積144.60㎡、１区下端面積115.82㎡、２区上端面積189.20㎡、２区下端面積159.87㎡、３区上端面積1525.00㎡、３区下端面積1455.84㎡である。合計面積は上端面積1858.80㎡、下端面積1731.53㎡である。

C　調査体制

【平成11年度】

調査主体　新津市教育委員会（教育長　中村　博）

担　　当　渡邊朋和（生涯学習課主査）

事 務 局　酒井峰雄（生涯学習課長）・森山則夫（同課長補佐）・荒木政幸（同係長）・小林尚紀（同主査）・立木宏明（同主事）・阿達哲二（同技士）・阿部泰之（同嘱託）

整理補助員　青野満穂子・伊藤操子・小柳勢伊子・川瀬純子・小菅和子・斎藤明子・斉藤早知子・坂口千賀子・須貝律子・高橋　操・田中暁穂・中山美奈子・広瀬智子・古川紀子・森岡綾子・湯上いずみ・渡辺淳子

【平成12年度】

調査主体　新津市教育委員会（教育長　中村　博）

担　　当　立木宏明（生涯学習課主査）

事 務 局　酒井峰雄（生涯学習課長）・森山則夫（同課長補佐）・荒木政幸（同係長）・小林尚紀（同主査）・渡邊朋和（生涯学習課主査）・阿達哲二（同技士）・山田貴子（同嘱託）

整理補助員　青野満穂子・伊藤操子・小柳勢伊子・川瀬純子・小菅和子・斎藤明子・坂口千賀子・須貝律子・田中暁穂・田中ルミ・遠山直美・広瀬智子・真木千寿子・森岡綾子・渡辺淳子

【平成13年度】

調査主体　新津市教育委員会（教育長　松井　弘）

担　　当　立木宏明（生涯学習課主査）

調 査 員　野水晃子（生涯学習課嘱託）・佐野博子（同嘱託）

事 務 局　石崎義郎（生涯学習課長）・目黒　正（同課長補佐）・荒木政幸（同係長）・田中茂夫（同主任）・渡邊朋和（同主任）・阿達哲二（同技士）・髙野裕子（同嘱託）

整理補助員　青野満穂子・五十嵐智子・伊藤操子・小柳勢伊子・川瀬純子・小菅和子・斎藤明子・坂口千賀子・須貝律子・田中暁穂・遠山直美・広瀬智子・真木千寿子・森岡綾子・渡辺淳子・石井杏奈

【平成14年度】

調査主体　新津市教育委員会（教育長　松井　弘）

担　　当　立木宏明（生涯学習課主査）

調 査 員　澤野慶子（生涯学習課嘱託）

事 務 局　羽生隆夫（生涯学習課長）・目黒　正（同課長補佐）・荒木政幸（同係長）・田中茂夫（同主任）・渡邊朋和（同主任）・阿達哲二（同技士）・高野裕子（同嘱託）・佐野博子（同嘱託）

作 業 員　笹川諭吉・石井勇次郎・斉藤正吾・白井利夫・柏木廣一・窪田忠栄・古窪毅・諸橋秋栄・坂爪昭栄・砂原智子・西郡洋子・原民枝・田代幸子・金子千恵子・神田千代子・諸橋よし子・毘ヒロコ

整理補助員　青野満穂子・五十嵐智子・伊藤操子・小柳勢伊子・川瀬純子・小菅和子・斎藤明子・坂口千賀子・須貝律子・田中暁穂・遠山直美・広瀬智子・真木千寿子・森岡綾子・山田正子・四柳成美・上杉裕美・渡辺淳子・帆苅奈緒子・波多野裕美・山田弘美・川岸美樹

【平成15年度】

調査主体　新津市教育委員会（教育長　松井　弘）

担　　当　立木宏明（生涯学習課主査）

調 査 員　澤野慶子（生涯学習課嘱託）

事 務 局　羽生隆夫（生涯学習課長）・目黒　正（同課長補佐）・荒木政幸（同係長）・田中茂夫（同主任）・渡邊朋和（同主任）・阿達哲二（同技士）・高野裕子（同嘱託）・白井利夫（同嘱託）

整理補助員　青野満穂子・五十嵐智子・伊藤操子・小柳勢伊子・川瀬純子・小菅和子・斎藤明子・坂口千賀子・須貝律子・田中暁穂・遠山直美・広瀬智子・真木千寿子・森岡綾子・山田正子・四柳成美・上杉裕美・渡辺淳子・帆苅奈緒子・波多野裕美・山田弘美・川岸美樹・笑喜正子

【平成16年度】

調査主体　新津市教育委員会（教育長　松井　弘）

担　　当　立木宏明（生涯学習課主査）

調 査 員　澤野慶子（生涯学習課嘱託）

事 務 局　羽生隆夫（生涯学習課長）・目黒　正（同課長補佐）・荒木政幸（同係長）・田中茂夫（同主任）・渡邊朋和（同主任）・阿達哲二（同技士）・高野裕子（同嘱託）・八藤後智人（同嘱託）・白井利夫（同嘱託）

整理補助員　青野満穂子・五十嵐智子・伊藤操子・小柳勢伊子・小菅和子・斎藤明子・須貝律子・田中暁穂・遠山直美・広瀬智子・真木千寿子・森岡綾子・四柳成美・上杉裕美・山田弘美・帆苅奈緒子・波多野裕美・田村由実子・中村寿子・笑喜正子・渡辺絵理・丸山久美子

4　整理作業

A　整理方法

1）遺物

遺物量はコンテナ（内径54.5×33.6×10.0cm）にして80箱である。古代の土器・石製品など各種におよぶ遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①洗浄。②注記。③グリッド別の種別の重量計測。④接合。⑤遺構・遺物の器種別の重量・個体数計測。⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図作成。観察表作成。⑧トレース図作成。⑨版下作成。実測図は整理補助員が原寸で作成し、整理補助員が2倍図版を基本にトレースを行った。

2）遺構

平面図を作成するにあたっては、まず測量業者に委託した1/40の遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。報告書の1/80と1/40の遺構平面図は測量業者が作成しデジタルデータとした。その他の図面は整理補助員がトレースを行い作成した。

B　整理経過

発掘調査終了後引き続き整理作業を開始した。出土遺物の水洗・注記・接合と、写真・図面整理を行い、併せて測量作業に委託した遺構平面図の校正作業を行った。遺物実測・トレースに6名で6か月を要した。遺構平面図は測量業者作成のデジタルデータを用いた。職員は原稿執筆、遺物写真の撮影、図版のレイアウト・報告書の編集にあたった。

第Ⅳ章 遺　　跡

1 遺跡の概要

沖ノ羽遺跡では古代の遺物が出土し、同時代の遺構が検出された。遺構としては掘立柱建物を中心とした古代（9世紀）の集落跡が検出された。

遺物量は遺物収納コンテナ（内径54.5×38.6×10.0cm）で約80箱である。ほとんど全てが古代の須恵器・土師器で石製品、鉄製品・鍛冶関連遺物が存在する。

古代の遺構は1区でSX（性格不明遺構）2基、SD（溝）3基、Pit（小土坑）1基、2区でSE（井戸）1基、SK（土坑）6基、Pit（小土坑）7基、3区でSE（井戸）1基、SK（土坑）5基、SD（溝）14基、Pit（小土坑）162基、SB（掘立柱建物）3基である。

2 層序（図版14・15・19）

沖ノ羽遺跡の基本層序は調査区全体に対応する。遺構確認面の標高は2.9~3.6mの標高で推移している。遺跡の基本層序は大きく6層に分けられ、7層に細分される。以下に基本層序を記す。

Ⅰ層　暗褐色土（10YR3/3）シルト層　粘性あり、しまりややあり、表土。
Ⅱ層　褐灰色土（10YR4/2）シルト層　粘性あり、しまりあり、水田床土・畑耕作土。
Ⅲa層　にぶい黄緑色土（10YR4/3）シルト層　粘性あり、しまり強くあり。褐鉄鉱少量付着する。
Ⅲb層　暗褐色土（2.5Y4/1）砂質土層　粘性ややあり、しまり強くあり。砂が多く入る。
Ⅳ層　黄灰色土（2.5Y4/1）シルト層　粘性強くあり、しまりあり。褐鉄鉱少量付着する。
Ⅴ層　オリーブ黒色土（5Y3/1）シルト層　粘性強くあり、しまりあり。古代遺物包含層。黒色炭化物が多く含まれる。
Ⅵ層　灰色土（7.5Y4/1）シルト層　粘性あり、しまりあり。砂質土が少量入る。地山。

Ⅰ・Ⅱ層は畑耕作土および水田床土面である。Ⅲ・Ⅳ層は遺物の出土はほとんど無い。Ⅴ層中から古代の遺物が出土する。遺構検出面はⅤ層中およびⅥ層上面である。現地表面から0.7~1.0m程で遺構確認面に達する。Ⅵ層以下は地山とした層であるが、地点によって粘性土の部分と砂質土の部分があり土質も粘性の強弱が認められる。

3　遺構各説（図版9～16、18～35）

遺構番号は区ごとに遺構に係らず付した。説明は1区から順番に井戸（以下、SEとする）、土坑（以下、SKとする）・性格不明遺構（以下、SXとする）、溝（以下、SDとする）、小土坑（以下、Pitとする）、掘立柱建物（以下、SBとする）の順に記す。

詳しい遺構の計測値等は別表1に示した。遺構出土土器の詳細は別表4に示しており、遺構の記述では石製品と合わせて一部省略した。遺跡から検出された遺構はSE2基、SK11基、SX2基、SD20基、Pit170基、SB3軒、河1基である。遺構の形態分類はSE、SK、SX、SDについては大まかに平面形は円形・楕円形・不正形・方形の4種類に、断面形は皿形・半円形・箱形・台形状の4種類に分類した。

遺構の所属時期はⅤ層からⅥ層上面を切って掘り込まれている遺構から古代の土器が出土している。したがって、全ての遺構が古代の遺構と考えられる。遺構は比較的切り合い関係が少なく、個々の遺構が独立的に存在する場合が多い。

遺構の分布は1・2区では調査区中心近くの標高3m前後の微高地状の高まりに土坑・井戸・溝などの遺構群が見られる。1・2区は地形的には調査区の中心に向かって微高地状の高まりとなることから周辺よりも高い場所での占地が考えられる。3区では河96を堺にして北側の微高地上に掘立柱建物を中心とする遺構群が展開する。また、24U・Vグリッド周辺に小土坑群が展開し、おそらくその周辺に掘立柱建物を中心とする集落が展開すると考えられる。遺構からは古代の遺物のみが出土しており、検出された遺構全てが古代に所属するものと考えられる。

A　古代の遺構

1）1区

SK5（図版9・11・14、写真図版8）

平面形は楕円形、断面形は皿形である。Pit6に切られる。北側半分が調査区外に延びる。須恵器無台杯、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

SX4（図版9・11・14、写真図版7）

平面形は不定形、断面形は台形で一部段を持つ。調査区外に北半分が延びる。須恵器無台杯・杯蓋・長頸壺、土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀が出土している。

SD1（図版9・11・14、写真図版8）

断面形は台形である。北西から南東に延び、両端が調査区外に延びる。出土遺物は比較的多く、須恵器無台杯・大甕、土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、砥石が出土している。

SD2（図版9・11・14、写真図版8）

断面形は台形である。北西から南東に延び、両端が調査区外に延びる。須恵器無台杯・大甕・長胴壺、土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、軽石製石製品が出土している。

SD3（図版9・11・14、写真図版8）

断面形は皿形である。北西から南東に不正形に延び、両端は調査区外に延びる。須恵器無台杯・杯蓋・大甕・横瓶、土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、細形土錘が出土している。

2）2区

SE 4（図版9・12・15、写真図版10）

平面形は円形、断面形は半円形である。約1／3が調査区外に延びる。途中に段を持つ。覆土は4層に分かれ、自然堆積で埋没したと考えられる。須恵器無台杯・大甕・長胴壺・横瓶、土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀が出土している。

SK 6（図版9・13・15、写真図版11）

平面形は不定形、断面形は台形である。一部が土側溝で破壊されている。覆土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

SK 7（図版9・13・15、写真図版11）

平面形は不定形、断面形は皿形である。土師器無台椀・長甕・小甕が出土している。

SK 9（図版9・13・15、写真図版11）

平面形は楕円形、断面形は皿形である。一部が土側溝で破壊されている。遺物の出土はない。

SK 5（図版9・13・16、写真図版11）

平面形は不正方形、断面形は皿形である。SK8に隣接する。一部が調査区外に延びる。覆土は2層に分かれる。遺物は比較的多く出土した。出土遺物は須恵器無台杯・杯蓋・大甕・長胴壺、土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、砥石、軽石製石製品がある。

SK 8（図版9・13・16、写真図版11・12）

平面形は楕円形、断面形は皿形である。SK5に隣接する。一部が調査区外に延びる。覆土は1層である。遺物は少量出土し、土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀が出土している。

SK10（図版9・13・16、写真図版12）

平面形はおそらく円形、断面形は皿形である。遺物は出土していない。

SD 1（図版9・12・16、写真図版12）

南北に延びる溝である。遺構の一部が検出され、調査区外に延びる。古代の遺構としたが図版2に見られる大正時代の耕地整理前の図面に現れている小河道の可能性もある。遺物は遺構基底部付近から少量出土し、須恵器有台杯・短頸壺、土師器長甕・小甕などがある。

SD 2（図版9・12・16、写真図版12）

断面形は深い台形の、北西から南東に延びる溝である。両端は調査区外に延びる。土師器無台椀・長甕が出土している。

SD 3（図版9・12・16、写真図版12）

断面形は皿形の、北西から南東に延びる溝である。両端は調査区外に延びる。須恵器無台杯、土師器無台椀が出土している。

3）3区

SE130（図版18・30・32・34、写真図版17）

平面形は楕円形、断面形は半円形である。断面形が半円形で他の土坑よりも比較的深いことから井戸として取り扱った。土師器鍋、黒色土器無台椀が出土している。

SK２（図版18・23・32、写真図版15）

平面形は楕円形、断面形は半円形である。覆土は４層に分かれる。SD１に隣接する。土師器無台椀・鍋、黒色土器無台椀が出土している。

SK128（図版18・25・29・32、写真図版16）

平面形は楕円形、断面形は台形である。覆土は１層である。土師器長甕の破片が２点のみ出土している。

SK18（図版18・26・32、写真図版16）

平面形は楕円形、断面形は皿形である。覆土は１層である。土師器無台椀が３点のみ出土している。

SK100（図版18・28・32、写真図版16）

平面形は円形、断面形は皿形である。覆土は２層に分かれる。遺物は出土していない。

SK171（図版18・29・32・34、写真図版16）

平面形は楕円形、断面形は皿形である。覆土は１層である。遺物は出土していない。

SD136（図版18・21・22・32、写真図版18）

断面形は皿形である。東西に延び、SD137に隣接する。両端が調査区外に延びるが東端はSD１あるいはSD24に合流する可能性がある。遺物は出土していない。

SD137（図版18・21・22・32、写真図版18）

断面形は皿形である。東西に延び、SD136に隣接する。両端が調査区外に延びるが東端はSD１あるいはSD24に合流する可能性がある。土師器無台椀、須恵器大甕が出土している。

SD135（図版18・21・22・32、写真図版18）

断面形は皿形である。東西に蛇行しながら延びる。西側の一部は二又に分かれる部分がある。土師器無台椀片が１点のみ出土している。

SD１（図版18・22・23・32・33、写真図版18）

断面形は皿形である。東西に延びるが途中蛇行しながら南北に流路を替える。土師器無台椀・長甕・小甕が少量出土している。

SD24（図版18・24・25・27・33、写真図版19・20）

断面形は台形、一部皿形である。東西に調査区を横断するようにある。両端は調査区外である。須恵器大甕、土師器無台椀・長甕・小甕・鍋が出土している。

SD43（図版18・25・33）

断面形は皿形である。南北に延び、SD24と直行するが切り合い関係は不明である。南端は調査区外に延びる。土師器無台椀、黒色土器無台椀が出土している。

SD44（図版18・25・27・33、写真図版19・20）

断面形は半円形である。東西に延び、東端は調査区外に延びる。土師器無台椀片が１点出土している。

SD３（図版18・27・33、写真図版20）

断面形は台形である。東西に延び、両端ともに調査区外に延びる。須恵器長頸瓶、土師器無台椀・小甕・鍋、黒色土器無台椀が出土している。

SD131（図版18・26・30・33・34、写真図版20・21）

断面形は皿形である。東西に延び、おそらくSD138と継がる可能性が高い。両端は調査区外に延びる。河96を切る。遺物は出土していない。

SD132（図版18・30・33・34、写真図版20・21）

断面形は皿形である。東西に延び、おそらくSD133と繋がる可能性が高い。両端は調査区外に延びる。河96を切る。遺物は出土していない。

SD139（図版18・30・33、写真図版21）

断面形は皿形である。東西に延び、おそらくSD134と繋がる可能性が高い。両端は調査区外に延びる。河96を切る。遺物は出土していない。

SD138（図版18・31・33、写真図版21）

断面形は皿形である。東西に延び、おそらくSD131と繋がる可能性が高い。両端は調査区外に延びる。河96を切る。遺物は出土していない。

SD133（図版18・31・33、写真図版21）

断面形は皿形である。東西に延び、おそらくSD132と繋がる可能性が高い。両端は調査区外に延びる。河96を切る。遺物は土師器無台椀が1点と礫石が出土している。

SD134（図版18・31、写真図版21）

断面形は皿形である。東西に延び、おそらくSD139と繋がる可能性が高い。両端は調査区外に延びる。河96を切る。遺物は出土していない。

Pit187（図版18・24・26・33、写真図版21）

木杭が残るPitである。直接打設された可能性がある。遺構との関係は不明である。

Pit188（図版18・28・33、写真図版21）

木杭が残るPitである。直接打設された可能性がある。遺構との関係は不明である。

河96（図版18・26・27・28・29・30・31・34、写真図版6・22・23・24）

東西に延びる旧河道である。Ⅵ層上面に確認面が検出されることから古代の自然流路と考えられる。幅4～6m、深さ0.5～1.5mの範囲で東西に流れ、途中南北に分岐する。層は大きく3層に分かれる。最下層には自然木があり、樹種同定の結果、広葉樹のコナラ属コナラ節が確認されている。遺物の多くは最下層から出土している。出土遺物としては須恵器無台杯・大甕・長頸壺・横瓶・鉢、土師器無台椀・有台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、磨石・軽石製品がある。

SB184（図版18・24・35、写真図版25）

1間1間の方形の掘立柱建物である。主軸はN－80°－Wである。雨落溝は確認されなかった。

SB185（図版18・25・35、写真図版25）

1間2間と推定される方形の掘立柱建物である。主軸はN－85°－Wである。雨落溝は確認されなかった。

SB186（図版18・27・35、写真図版25）

1間2間の方形の掘立柱建物である。主軸はN－90°－Wである。雨落溝は確認されなかった。

第Ⅴ章　遺　　物

沖ノ羽遺跡からは、古代（平安時代）の遺物が出土している。遺物出土総量はコンテナ（内径54.5×33.6×10cm）に80箱出土した。遺物の内容は古代の土器が74箱、石製品５箱、鉄製品・鍛冶関連遺物が１箱である。

1　古代の遺物

古代の土器類は土師器・須恵器と黒色土器がある。遺跡全体の重量比は土師器55.79％（23,596ｇ）、須恵器36.44％（15,407ｇ）、黒色土器７.77％（3,285ｇ）、点数比は土師器90.01％（4,446点）、須恵器７.31％（361点）、黒色土器２.68％（132点）である。

次に、各区毎に見ていくと、１区では重量比が土師器72.25％（11,897ｇ）、須恵器25.55％（4,206ｇ）、黒色土器２.20％（362ｇ）、点数比は土師器88.95％（1,966点）、須恵器８.47％（187点）、黒色土器２.58％（57点）である。包含層の重量比は土師器75.05％（8,073ｇ）、須恵器23.50％（2,527ｇ）、黒色土器１.45％（155ｇ）、点数比は土師器91.31％（1,333点）、須恵器７.73％（113点）、黒色土器０.96％（14点）である。遺構出土総体の重量比は土師器66.97％（3,824ｇ）、須恵器29.40％（1,679ｇ）、黒色土器３.63％（207ｇ）、点数比は土師器84.40％（633点）、須恵器９.87％（74点）、黒色土器５.73％（43点）である。

２区では重量比が土師器78.00％（7,625ｇ）、須恵器21.58％（2,110ｇ）、黒色土器０.42％（41ｇ）、点数比は土師器94.23％（1,423点）、須恵器５.17％（78点）、黒色土器０.60％（９点）である。包含層の重量比は土師器84.52％（5,119ｇ）、須恵器15.05％（911ｇ）、黒色土器０.43％（26ｇ）、点数比は土師器96.91％（944点）、須恵器２.57％（25点）、黒色土器０.52％（５点）である。遺構出土総体の重量比は土師器67.36％（2,506ｇ）、須恵器32.23％（1,199ｇ）、黒色土器０.41％（15ｇ）、点数比は土師器89.37％（479点）、須恵器９.88％（53点）、黒色土器０.75％（４点）である。

３区では重量比が土師器41.32％（6,630ｇ）、須恵器56.65％（9,091ｇ）、黒色土器２.03％（326ｇ）、点数比は土師器86.71％（1,057点）、須恵器７.87％（96点）、黒色土器５.42％（66点）である。包含層の重量比は土師器78.73％（3,994ｇ）、須恵器16.41％（832ｇ）、黒色土器４.86％（246ｇ）、点数比は土師器92.06％（592点）、須恵器２.49％（16点）、黒色土器５.45％（35点）である。遺構出土総体の重量比は土師器24.02％（2,636ｇ）、須恵器75.25％（8,259ｇ）、黒色土器０.73％（80ｇ）、点数比は土師器80.72％（465点）、須恵器13.89％（80点）、黒色土器５.39％（31点）である。

重量比・点数比ともに土師器の量が卓越している。後述する食膳具の遺構別比率（別表６参照）でも土師器食膳具の比率が高く特徴的である。ただ、３区遺構出土総体の重量比を見ると、須恵器が75.25％と高率を示している。これは３区の遺構から須恵器大甕の破片が多数検出されたためである。同じ３区の遺構出土総体の点数比を見ると、土師器が80.72％と高率であることから、３区の遺構でも他の区と同様に土師器の量が卓越していることが分かる。その他、土器以外には石製品（砥石他）、鉄製品・鍛冶関連遺物が出土している。

包含層出土遺物の出土状況を見ると、平安時代の遺物はⅤ層の遺物が大半を占める。１・２区包含層の古代土器の出土状況を図版８に、３区包含層の古代土器の出土状況を図版17に示した。それぞれの区で古代土器の重量を小グリッドごとに合計し提示した。その結果、１区では４Ｇグリッド周辺、２区では11Ｌグリッド周辺、３区では26Ｕグリッド周辺の遺物量の多さが目についた。包含層直上から遺物が集中しはじめた。その集中的な分布域は、遺構の集中度と相関的である。

本遺跡で出土した平安時代の土器類は、後述するが9世紀後半の年代観が想定される。

A　土器の分類と記述（第7・8図）

記述は最初に土器分類を行い、次に各区の遺構別・包含層出土土器を土師器・黒色土器・須恵器の順に記した。分類は形態・手法による分類はアルファベットで（A・B…）と表した。法量による分類はローマ数字で（Ⅰ・Ⅱ…）と表した。

成形・調整の表現・名称は、山三賀Ⅱ遺跡の報告書〔坂井1989〕の記載に従った。

1、「ロクロナデ」は轆轤回転を利用したなでで、その他のものは「ナデ」とした。

2、「ロクロケズリ」は回転を利用した削りである。

3、黒色土器無台椀などに見られる箆磨きは「ミガキ」とした。

4、須恵器大甕・横瓶・土師器長甕・鍋などの外見に見られる叩板工具を用いた成形痕を「タタキ」とし、内面の当て具工具を用いての成形痕を「当て具痕」とした。

次に本遺跡の特徴を整理するため器種分類を行い、器種ごとに説明を行う。以下、土師器・黒色土器・須恵器の順で概説する。須恵器胎土分類は山三賀Ⅱ遺跡の成果に準じた〔坂井ほか1989〕。土師器の胎土分類は多様で分類を行っていない。また、近年の調査成果〔渡邉ほか2001〕で還元炎焼成の須恵器と酸化炎焼成の須恵器の区別を行い報告しているが、沖ノ羽遺跡出土須恵器の全てが還元炎焼成であった。その他、詳細な計測値は別表2に示した。

土師器　食膳具と煮炊具と貯蔵具がある。食膳具には無台椀・有台椀がある。煮炊具には長甕・小甕・鍋がある。貯蔵具には甕がある。

無台椀　出土量は非常に多い。底部切り離し技法は糸切り後無調整のものがほとんどを占める。口縁部形態（A～C）と口径（Ⅰ～Ⅲ）の組み合わせ（例AⅠ類）で表した。口縁部形態の分類は底部から口縁部が内湾気味に立ち上がるものをA類、底部から口縁部が直線的に立ち上がるものをB類、底部から内湾気味に立ち上がり口縁端部で外反するものをC類とした。

口径は3分類し、12cm以下がⅠ類、12.1cm～13.9cmがⅡ類、14cm以上をⅢ類とした。

有台椀　1点のみ出土した。底部資料で、口縁部形態は不明である。底部切り離し技法は糸切り後無調整で、高台は張り付け輪高台である。

長甕　口縁端部の形態から3分類した。口縁端部が受け口状になるものをA類、口縁端部が上方に短く屈曲するものをB類、口縁端部が屈曲せずに丸く収まるもの、もしくは口縁端部に面を持つものをC類とした。

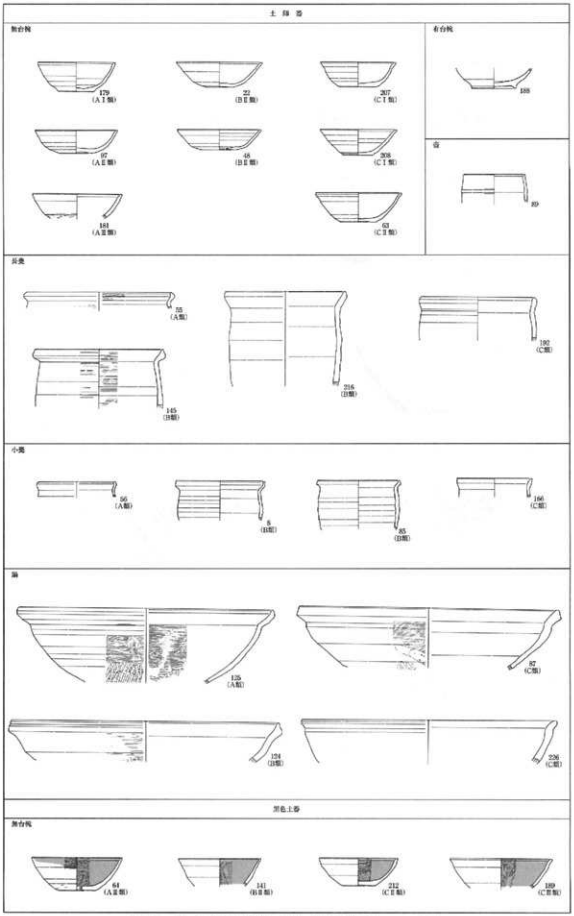
小甕　口縁端部の形態から3分類した。口縁端部が受け口状になるものをA類、口縁端部が上方に短く屈曲するものをB類、口縁端部が屈曲せずに丸く収まるもの、もしくは口縁端部に面を持つものをC類とした。底部は平底で、糸切り後無調整である。

鍋　口縁端部の形態から3分類した。口縁端部が受け口状になるものをA類、口縁端部が上方に短く屈曲するものをB類、口縁端部が屈曲せずに丸く収まるもの、もしくは口縁端部に面を持つものをC類とした。

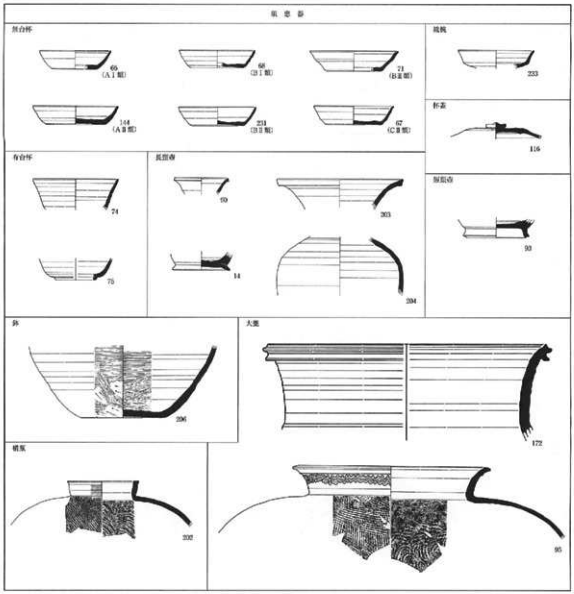
壺　1点のみ出土した。体部から口縁部にかけて円筒状に立ち上がる器形で、胴部上位に稜を持つ。底部形態は不明であるが、胴部径と同じ大きさの平底が付くと考える。

黒色土器　食膳具の無台椀が出土している。主に内側を黒化処理した「内黒」の土器である。

無台椀　主に底部は糸切り後ミガキ、体部外面下半はロクロケズリが施されている。体部内面にはミガキが施され、口縁端部は外面も磨かれるものが多い。分類は土師器無台椀同様、口縁部形態・口径の組み合わせで行った。



第７図　沖ノ羽遺跡土師器・黒色土器分類図（Ｓ＝１／６）



第８図　沖ノ羽遺跡須恵器分類図（S＝１／６）

須恵器　食膳具と貯蔵具がある。食膳具には無台杯・有台杯・杯蓋・稜椀がある。貯蔵具には大甕・長頸壺・短頸壺・鉢・横瓶がある。

無台杯　口縁部形態（A～C）と口径（Ⅰ～Ⅲ）の組み合わせで分類した。口縁部形態の分類は底部から口縁部が内彎気味に立ち上がるものをA類、直線的に立ち上がるB類、内彎気味に立ち上がり口縁端部で外反するC類に分類した。口径は３分類し、12cm以下がⅠ類、12.1cm～13.9cmがⅡ類、14cm以上をⅢ類とした。底部は全てヘラ切り後無調整である。

有台杯　杯のうち高台を持つもの。量的には少なく、全体形が分かる資料が出土していないため、細分類はしていない。

杯蓋　少量出土している。有台杯に伴う蓋である。縁は宝珠状で中央が突出するものが１点出土している。

稜椀　１点のみ出土した。体部が明瞭な稜を持って屈曲し、口縁部が外反する。高台が付くものと思われる。

大甕　大形の丸底の甕を一括した。破片数は多いが全体形が分かる資料が無く、細分類は行っていない。

長頸壺　長い頸部を持つ瓶あるいは壺を一括した。口縁部の出土は少なく、体部・高台の形態から判断した。

短頸壺　口縁部は出土していないが、体部・高台の形態から、短頸壺と判断した。出土数は少ない。

鉢　1点のみ出土している。底部から体部が大きく開いて立ち上がり、底部外面と体部外面下半がヘラケズリで調整される。口縁部形態は不明である。

横瓶　俵状の体部に短く直立する口縁部が付くもの。全体形が分かる資料は出土していない。

B　沖ノ羽遺跡出土土器等各説

1）1区

a）遺構出土土器

SX 4（図版36、写真図版28）

土師器無台椀（1・2）・長甕（6・7）・小甕（8～11）・鍋（12・13）、黒色土器無台椀、須恵器無台杯（3・4）・杯蓋（5）・長頸壺（14）が出土している。

土師器無台椀は1がBⅡ類で、2は底部資料である。須恵器無台杯は3がAⅠ類で、4がBⅡ類である。5は杯蓋で、天井部が丸みを持つ。経は出土していない。土師器長甕6はB類で、口縁部が屈曲した後端部が丸く収まる形態である。7は体部資料である。6・7はともにSD 1と接合関係にある。小甕は8・9がB類で、どちらも口縁部が屈曲した後、端部が丸く収まる。10・11は底部資料である。11は底部の糸切りが右回転であった。鍋12はC類で、口縁部は屈曲せずに丸く収まり、口縁部外面がやや厚くなる。13は体部破片である。14は底部のみの資料であるが、高台の形態等から須恵器長頸壺とした。底部のヘラ切りは右回転である。

SK 5（図版36、写真図版28）

須恵器無台杯（15・16）、土師器長甕（18）・小甕・鍋（17）が出土した。須恵器無台杯は15・16ともにAⅠ類である。土師器長甕18、鍋19は体部資料である。

SD 1（図版36～38、写真図版27～29）

土師器無台椀（19～24）・長甕（31～33）・小甕（34・35）・鍋（36・37）、黒色土器無台椀（25・26）、須恵器無台杯（27～30）・大甕（38～40）が出土している。土師器無台椀は19・22がBⅡ類、21がCⅠ類、20がCⅡ類である。21は墨書土器で体部外面に横位で墨書されているが、文字は判読できなかった。また、21はSD 2と接合関係にある。22は底部の糸切りが右回転であった。23・24は底部資料である。24はSD 2と接合関係にある。25は黒色土器無台椀でCⅡ類である。内面の剥落が著しく、ミガキは認められなかった。26は底部資料である。須恵器無台杯は29がBⅠ類、27・28・30がBⅡ類である。土師器長甕は31がB類で、口縁端部が尖る形態となる。32はC類で、口縁端部に面を持つものである。33は底部資料である。小甕は34・35ともにB類で、口縁端部が尖る形態である。34はSX 4と接合関係にある。鍋36・37はともに体部破片である。38～40は須恵器大甕で、いずれも体部資料である。

SD 2（図版38、写真図版29）

土師器無台椀（41・42）・長甕（45・46）・小甕・鍋、須恵器無台杯（43・44）・長胴壺・大甕（47）が出土している。土師器無台椀は41がAⅡ類、42は底部資料である。須恵器無台杯は43がAⅠ類である。44は口縁端部の破片で残存率も低く、細分はできなかった。土師器長甕は45がB類で口縁端部が丸く収まる形態のものである。46は体部資料である。須恵器大甕47も体部資料である。

SD 3（図版38・39、写真図版27・29）

土師器無台椀（48・49）・長甕（54・55）・小甕（56・57）、黒色土器無台椀、須恵器無台杯（50～52）・杯蓋（53）・

大甕（58）・横瓶（59）、細形土錘（60）が出土している。土師器無台椀は48がＢⅡ類、49は口縁端部の破片資料であるが、端部が外反していることからＣⅡ類とした。須恵器無台杯は51がＢⅠ類、50・52がＢⅡ類である。53は杯蓋で端部のみの資料である。土師器長甕は54がＣ類で、口縁端部に面を持つ。55はＡ類で、口縁端部が受け口状に屈曲している。小甕56・57もＡ類である。須恵器大甕58・横瓶59はともに体部破片資料である。

ｂ）包含層出土土器（図版39・40、写真図版27・29・30）

１区包含層出土遺物のうち完形に近い資料や、器種的に特筆される資料を中心に選択して図化し、掲載を行った。

土師器無台椀（61～63）・長甕（78～80）・小甕（81～85）・鍋（86～88）・壺（89）、黒色土器無台椀（64・65）、須恵器無台杯（66～73）・有台杯（74・75）・杯蓋（76・77）・長頸壺（90・91）・短頸壺（92・93）・大甕（94・95）、紡錘車（96）を図化した。

土師器無台椀は61がＡⅡ類、62がＢⅢ類、63がＣⅡ類である。61・63は底部の糸切りが右回転であった。黒色土器無台椀は64がＡⅢ類、65が底部資料である。須恵器無台杯は66がＡⅠ類、68・70がＢⅠ類、69・72がＢⅡ類、71がＢⅢ類、67がＣⅡ類である。67は底部のヘラ切りが左回転であった。73は底部外面に墨書されている。破片資料のため文字は判読できなかった。74は有台杯の口縁部資料である。高台は出土していない。75は有台杯底部資料で、高台は内端接地である。杯蓋76・77はともに体部破片で、紐などの形態は不明である。土師器長甕は78がＡ類で口縁端部が受け口状に屈曲する。79はＢ類で口縁部が屈曲した後、口縁端部が丸く収まる形態となる。80は体部資料である。外面を縦方向にヘラナデで調整している。小甕は81がＡ類、83・85がＢ類で、82・84は底部資料である。84は底部外面と体部外面下半がヘラケズリで成形される。また、83と84は同一個体だと思われるが、体部資料が接合しなかったため、各々で図化した。鍋86～88はいずれもＣ類である。86・87は口縁端部に面を持つ形態で、88は口縁端部がそのまま丸く収まる形態のものである。89は土師器の壺とした。体部から口縁部にかけてやや窄まりながら円筒状に立ち上がり、体部上位に稜を持つ。体部下半から底部にかけての形態は不明であるが、体部径と同じ大きさの平底の底部が付くものと思われる。分類上は小甕となる可能性も考えられる。90・91は須恵器長頸壺の口縁部・頸部資料である。92は口縁部が出土していないが、肩部の張りが強い形態であることから、短頸壺の体部とした。93は高台を持つ底部で、内端接地となることから短頸壺の底部とした。94は大甕の体部破片である。95は口縁部から肩部にかけての資料である。口縁部が大きく開き、口縁部下端に突帯がめぐる。頸部外面には波状文がめぐる。

2）2区

a）遺構出土土器

SE 4（図版41、写真図版31）

土師器無台椀（97・98）・長甕（100・101）・小甕（102）・鍋（103・104）、黒色土器無台椀、須恵器無台杯（99）・大甕（105）・横瓶（106）・長胴壺が出土している。土師器無台椀は97がAⅡ類である。98は底部資料で、体部外面にロクロケズリを施している。底部の糸切りは左回転であった。99は須恵器無台杯AⅡ類である。土師器長甕は100がA類で口縁端部が受け口状になっている。101は体部破片資料である。小甕102はB類で、口縁部が屈曲した後端部が丸く収まる形態を持つものである。鍋は103がB類であるが、口縁部残存率が低かったため口径は計測できなかった。104は体部資料である。須恵器大甕105、横瓶106はともに体部破片資料である。

SK 5（図版41・42、写真図版27・31）

土師器無台椀（107～112）・長甕（117・118）・小甕（119～122）・鍋（123～125）、黒色土器無台椀（113）、須恵器無台杯（114・115）・杯蓋（116）・大甕（126）・長胴壺が出土した。土師器無台椀は107～109がAⅡ類、111がBⅡ類、110がCⅡ類、112がCⅢ類である。107～109は底部の糸切りがすべて右回転であった。黒色土器無台椀113は底部資料である。須恵器無台杯は114がBⅡ類、115は底部資料で底部のヘラ切りは左回転であった。また、115は転用硯で内面に使用痕が残る。杯蓋116は宝珠状の紐を持つ。116も転用硯で、内面に使用痕を残す。土師器長甕は117が体部資料である。118はC類で、口縁端部が屈曲せずそのまま丸く収まる形態となる。小甕は119がB類、120がA類である。121・122は底部資料である。121は底部の糸切りが右回転であった。また、SK 4と接合関係にある。鍋は123がC類、124がB類、125がA類である。須恵器大甕126は体部資料である。

SK 7（図版42、写真図版31）

土師器無台椀（127）・長甕（128）・小甕（129・130）が出土している。土師器無台椀127は底部資料である。長甕128は体部破片資料である。小甕は129がB類で、130が底部資料である。

SK 8（図版42、写真図版31）

土師器無台椀・長甕（131）、黒色土器無台椀が出土している。土師器長甕131は体部破片である。

SD 1（図版42、写真図版31）

須恵器有台杯（132）・短頸壺、土師器長甕（133）・小甕が出土している。須恵器有台杯132は口縁部のみの資料であるが、傾き等から有台杯とした。土師器長甕133は体部破片である。

SD 2（図版42、写真図版31）

土師器無台椀（134）・長甕（135）が出土した。土師器無台椀134は口縁端部が外反するC類である。破片資料のため細分はできなかった。長甕135はC類で口縁端部に面を持つ。

SD 3（図版42、写真図版31）

土師器無台椀、須恵器無台杯（136）が出土した。須恵器無台杯136はAⅠ類である。

b）包含層出土土器（図版42・43、写真図版27・31・32）

2区包含層出土遺物のうち完形に近い資料や、器種的に特筆される資料を中心に選択して図化し、掲載を行った。

土師器無台椀（137～140）・長甕（145～148）・小甕（149～151）・鍋（152～154）、黒色土器無台椀（141）、須恵器無台杯（142～144）・横瓶（155）・大甕（156）を図化した。

土師器無台椀は137～140いずれも底部資料であり、分類はできなかった。底部切り離し技法はすべて糸切り後無調整で、回転方向は右回転である。黒色土器無台椀141はＢⅡ類である。須恵器無台杯は142がＢⅠ類、143がＢⅡ類であった。144はＡⅡ類である。底部に厚みがあり、傾き・胎土等から新津産と考えられる。底部ヘラ切りは右回転であった。土師器長甕は145～148がいずれもＢ類であった。146は口縁部が上方に屈曲した後、端部が丸く収まる形態で、145・147・148は口縁端部が尖る形態のものである。小甕は149・150がＢ類で、口縁端部が尖る形態となる。151は底部資料である。鍋は152～154ともにＢ類で、口縁部が上方に短く屈曲した後、端部が尖るものである。須恵器横瓶155は体部破片資料である。大甕156は頸部資料で、径は不明であるが大型のものになると考える。

3）3区

a）遺構出土土器

SK２（図版44、写真図版32）

土師器無台椀（157・158）・鍋（161）、黒色土器無台椀（159・160）が出土した。土師器無台椀は157がＡⅡ類、158がＢⅡ類である。黒色土器無台椀は159がＣⅡ類で、160は底部資料である。土師器鍋161は体部破片資料である。

SK18（図版44、写真図版32）

土師器無台椀が３点出土した。うち１点（162）を図化した。ＣⅠ類に分類される。

SK128（図版44、写真図版32）

土師器長甕が２点出土した。うち１点（163）を図化した。体部破片である。外面は平行タタキ目が見えるが、内面の当て具に文様を彫刻しない工具が使用されている。

SD１（図版44、写真図版32）

土師器無台椀（164）・長甕（165）・小甕（166）が出土した。土師器無台椀164は口縁端部が外反するＣⅡ類である。長甕165は口縁部が屈曲せず、端部が丸く収まるＣ類である。小甕166もＣ類で、口縁端部が丸く収まる形態である。

SD３（図版44、写真図版32）

土師器無台椀・小甕（167）・鍋（168）、黒色土器無台椀、須恵器長頸壺が出土した。このうち土師器小甕と鍋を図化した。土師器小甕167は底部資料で、鍋168は体部破片資料である。

SD24（図版44、写真図版32・33）

土師器無台椀・長甕・小甕（169・170）・鍋（171）、須恵器大甕（172・173）が出土した。土師器小甕169は口縁端部の形態からＣ類とした。口縁残存率が低く、口径は計測できなかった。170は底部資料で、底部の糸切りは右回転であった。鍋171は体部破片資料である。須恵器大甕172は大型の口縁部である。口縁部は緩く外反しながら伸び、口縁端部外面に断面三角形の突帯が２条めぐる。173は体部資料である。172・173は同

一個体と思われるが、頸部等の破片が無く口縁部と体部が接合しなかった。よって、各々で図化した。また、173には図化しなかったが、同一と思われる体部資料が多数検出されている。

SD43（図版44、写真図版32）

土師器無台椀１点と、黒色土器無台椀２点の計３点が出土した。このうち土師器無台椀、黒色土器無台椀の２点を図化した。土師器無台椀174はＢⅡ類である。黒色土器無台椀175は口縁端部が外反するＣ類とした。口縁部破片で残存率が低く口径は計測できなかったため、細分はしていない。

Pit５（図版45、写真図版32）

土師器小甕（176）が１点出土している。口縁端部が受け口状となるＡ類である。

Pit17（図版45、写真図版32）

土師器無台椀が３点出土している。うち１点（177）を図化した。口縁端部が外反するＣⅢ類に分類される。

Pit155（図版45、写真図版32）

土師器無台椀（178）が１点出土している。口縁端部がやや外反していることから、ＣⅢ類とした。

河96（図版45・46、写真図版27、32～34）

土師器無台椀（179～187）・有台椀（188）・長甕（191～193）・小甕（194～196）・鍋（197～199）、黒色土器無台椀（189・190）、須恵器無台杯・大甕（200・201）・横瓶（202）・長頸壺（203～205）・鉢（206）が出土した。土師器無台椀は179がＡⅠ類、181がＡⅢ類、180がＢⅡ類、183がＣⅠ類、182・184・185がＣⅡ類である。179は底部の糸切りが右回転であった。180は墨書土器で体部外面に墨書されているが、文字は判読できなかった。底部の糸切りは右回転である。186・187は底部資料である。186は体部外面の下半と底部にロクロケズリを施している。188は有台椀で、底部に糸切り痕が見える。回転方向は右回転であった。高台は貼り付け輪高台である。底部資料のため、口縁部形態・器高等は不明である。黒色土器無台椀は189がＣⅢ類で、190は底部資料である。土師器長甕は191が口縁部の破片資料で、端部が受け口状に屈曲していることからＡ類とした。192は口縁部が屈曲せず、端部が丸く収まるＣ類である。193は体部資料である。小甕194～196はすべて底部資料である。194は底部に糸切り痕が見られず粘土紐痕が残っており、歪みが著しい。195・196の底部切り離し技法は糸切り後無調整で、いずれも右回転であった。鍋は197・198がＢ類で、199がＣ類である。199は口縁端部が丸く収まる形態である。須恵器大甕は200・201ともに体部破片資料である。201は大型品であると思われる。横瓶202は口縁部から肩部にかけての資料である。体部から口縁部が直立して伸び、口縁端部に面を持つ。長頸壺は203が口縁部資料である。口縁部が大きく開き、口縁端部に突帯がめぐる。204・205は長頸壺の体部資料である。口縁・頸部は見られないが、肩の張りが弱く、なで肩になる形態から長頸壺の体部と判断した。206は鉢である。底部から体部が大きく開いて立ち上がり、底部外面をケズリで調整している。体部内外面にはカキ目がめぐり、外面の一部と内面底部付近におそらくカキ目と同一の工具で不規則なハケ目を施している。また、外面の体部下半はヘラケズリで調整している。口縁部形態は不明である。

ｂ）包含層出土土器（図版46～48、写真図版27・34）

３区包含層出土遺物のうち完形に近い資料や、器種的に特筆される資料を中心に選択して図化し、掲載を行った。

土師器無台椀（207～211）・長甕（215・216）・小甕（217～221）・鍋（222～228）、黒色土器無台椀（212～214）を図化した。

土師器無台椀は207～209がＣⅠ類、210がＡⅠ類である。207・210は底部の糸切りが右回転であった。211

は底部資料で、底部糸切り方向は右回転である。黒色土器無台椀は212がCⅡ類、213がCⅢ類であった。214は底部資料である。長甕は215・216ともにB類で、口縁端部が丸く収まる形態となる。小甕217は口縁部が屈曲せず、端部に面を持つC類である。218・219は口縁端部が上方に短く屈曲するB類である。口縁端部の破片資料であり、口径は計測できなかった。端部は丸く収まる。220は体部資料である。221も底部破片資料で、底部の糸切りは右回転であった。鍋は222がB類で、口縁端部が上方に短く屈曲し、尖る形態となる。口縁部の破片資料で口縁残存率が低く、口径を計測することができなかった。223～227はC類である。223は口縁部が体部から直線的に伸び、端部が丸く収まる。224・225は口縁部内面が内湾して伸び、口縁部外面に沈線がめぐる。226は体部から口縁部にかけて短く屈曲し、端部を丸く収める。227は口縁部内面に沈線がめぐり、端部に面を持つ形態となる。228は口縁部の破片資料であるが、端部が尖る形態であることからB類とした。

4）補足確認調査360T出土土器（図版48、写真図版35）

土師器無台椀（229・230）・長甕（234）・小甕（235・236）・鍋（237）、須恵器無台杯（231）・有台杯（232）・稜椀（233）・大甕（238）を図化した。

土師器無台椀229はAⅢ類で、230は底部破片である。230の底部切り離し技法は糸切り後無調整で、回転方向は右回転であった。須恵器無台杯231はBⅡ類である。底部のヘラ切りは左回転であった。232は口縁部のみの資料であるが、焼き等から有台杯とした。233は稜椀である。体部が明瞭な稜を持って屈曲し、口縁部が外反する。高台が付くものと思われるが、接合するような資料は出土していない。土師器長甕234は口縁部が上方に屈曲せず、口縁端部に面を持つC類である。小甕は235がA類で、口縁端部が受け口状になる。236は底部資料である。鍋237は口縁端部の破片資料であるが、口縁部の屈曲は見られず、端部が丸く収まることからC類とした。須恵器大甕238は体部資料である。この他に、360Tから出土した長頸壺が1区SX4の長頸壺と接合した。

5）満日地区確認調査17T出土土器（図版48、写真図版35）

図版4の満日地区圃場整備事業に伴う確認調査の磐越自動車道北側調査区17Tから土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器が検出された。同じ沖ノ羽遺跡ではあるが、本調査区と17Tは750mほど離れている。市内で施釉陶器の出土例〔若林2004〕が少ないため、17Tから出土した土器のうち灰釉陶器を図化し、本遺跡の参考資料として掲載した。

239は灰釉陶器の皿である。底部付近から口縁部が内湾しながら伸び、口縁端部が外反する。高台が付くと思われるが、出土はしていない。口縁部破片であり、高台も出土していないので時期・窯の特定は困難である。

C 沖ノ羽遺跡周辺の遺跡から出土した遺物

1）中谷内遺跡

中谷内遺跡は沖ノ羽遺跡の北側に位置し、沖ノ羽遺跡と同じく沖積地に立地する遺跡である。これまでに古墳時代の遺構・遺物、平安時代の遺構・遺物、中世の遺物が確認されている〔立木ほか1999、渡邊ほか2002、北村ほか2004〕。平成16年度には立会調査と確認調査を実施した。本報告書では沖ノ羽遺跡と中谷内遺跡が隣接し、主体となる平安時代の時期もほぼ同様であることから、関連する資料として平成16年度に行った立会調査と確認調査で検出した遺物の中から特筆される資料を選択し、本遺跡の参考資料として掲載した。

a）立会調査出土土器（図版48、写真図版35）

排水路改修工事に伴う立会調査でコンテナ（内径54.5×33.6×10cm）に7箱の遺物が検出された。出土位置は図版4の満日地区圃場整備事業に伴う確認調査の、磐越自動車道北側調査区265T・269Tの周辺で、平成10年の本発掘調査〔立木ほか1999〕の際に設定したグリッド5P付近の排水路内である。今回の立会調査で検出した遺物のうち、ある程度判読可能な墨書土器3点を掲載した。

須恵器無台杯（240～242）を図化した。240は体部が内湾気味に立ち上がるA1類である。底部外面に「手」と墨書されている。底部のヘラ切りは右回転であった。241は底部資料である。墨書部位は底部外面で、「□」〔右ヵ〕と記されている。242も底部資料で、底部外面に「□□」〔神祝ヵ〕と墨書されている。241・242はともに底部のヘラ切りが左回転であった。

b）確認調査出土土器（図版49、写真図版35）

開発に伴う確認調査でコンテナ（内径54.5×33.6×10cm）に3箱の遺物が検出された。調査は図版4の満日地区圃場整備事業に伴う確認調査の、磐越自動車道北側調査区232Tの西側で、平成12年の本調査区〔渡邊ほか2002〕の南側に6箇所のトレンチを設定し、実施した。今回掲載したのは調査区南端の3Tから出土した資料である。

須恵器浅甕（243a・243b）を図化した。広口の口縁で、短胴の体部を持つ。口縁端部は上方に短く屈曲する。胴部に半円状の取手（243b）が横位で付く。内外面はタタキで成形される。胎土等から新津産のものと考えられる。北野博司氏によると、括れの弱い鉢（括れ鉢）の特大品で、胴部の取手には半円状・角状・三叉状のものがあり、運搬用に供されたことが窺えるという。分類上は鉢に分類することも可能であると指摘している（北野1999）。類例は少ない。

D 石製品、鉄製品・鍛冶関連遺物（図版50・51、写真図版36）

沖ノ羽遺跡の古代に所属する石製品、鉄製品・鍛冶関連遺物の出土点数は26点である。内訳は砥石8点、敲石1点、磨石1点、軽石製石製品9点、鉄製品2点、鉄滓5点である。全て図化を行った。それ以外に旧河道等に投げ込まれた搬入礫が存在する。一部に焼成を受けた礫も見られ、竈等の施設に用いられた構築物の可能性があるが、性格を推定できるものは少数である。石製品、鉄製品・鍛冶関連遺物の数値観察表は別表3に示した。

砥石（1・3・7・8・11～14）

8点確認された。おおまかに中砥石、荒砥石の2種類がある。砥石の分類は石材（産地）で分類する場合

と機能を推定して分類する場合、重量による分類、砥石の目の細かさによる分類等に分けられるようであるが、ここでは形状と石材から類推したおおまかな区分とした。

中砥石（3・11～13）

中形の砥石を一括した。4点出土している。現在も使用される錺砥石に類似する。形状は棒状の直方体状で砥面が湾曲し複数面存在するものが多いが、一部不定形なものがある。ほとんどが破損品である。3は1区包含層出土で、断面形が方形に復元され一端が破損し、5面砥面が残る。11は3区SD133出土の4面砥面が残る砥石である。端部が欠損する。12は3区包含層出土の砥石である。破損面も砥石面として使用しており、合わせて5面が砥面として使用されている。13は3区河96出土で4面が利用されている。端部が欠損する。

荒砥石（1・7・8・14）

中・大形の砥石で置砥石である。4点出土した。1・7・8・14は礫を用いた置砥石の断片である。1・8は川原石を用いている。1が1区SD1、7・8は2区SK5、14が3区包含層から出土した。

砥石に使用されている緑色凝灰岩・凝灰岩の石材産地については、近隣では阿賀野川あるいは信濃川流域の第三紀中新世七谷層中に含まれる。

敲石（4）

円礫に敲打痕が残る石器である。1点出土した。4は1区包含層出土で、端部に敲打面が残る。

磨石（15）

磨り面が見られる石器を磨石とした。1点出土している。15は3区包含層出土で、川原石を利用し両面に磨り痕が見られる。

軽石製石製品（2・5・6・9・10・16～19）

軽石の円礫の一部に擦痕が残る石器を一括した。9点出土している。磨石あるいはある種の砥石としての機能が推定される。5・6・9・10・17～19は小形品で6はスリット状の刻みが入る。2・16は比較的大形品の破損品である。2は1区SD2、5・6は1区包含層、9は2区SK5、10は3区河96、16～19は3区包含層からそれぞれ出土した。

軽石は阿賀野川あるいは小阿賀野川の河川敷で現在でも採取可能である。特に地下数mを工事する際に表出する旧河床中に多く含まれることから、原石は近隣からの採取品であろう。

鉄製品（20・21）

3区包含層から2点出土している。比較的薄手の製品であるが器種等は不明である。

鍛冶関連遺物（22～26）

5点出土している。22・23は断面の形態から硫形滓であろう。若干、湾曲する。24～26は鉄滓の破片である。全点メタル度はない。24・26は3区SD24から、22・23・25は3区包含層から出土した。

第Ⅵ章　新津市沖ノ羽遺跡における自然科学分析

1　沖ノ羽遺跡における植物珪酸体分析

杉山真二（株式会社古環境研究所）

A　はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山, 2000）。

B　試　　料

分析試料は、古代とされる２区ＳＥ４（井戸）および３区河96から採取された計９点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

C　分　析　法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原, 1976）を用いて、次の手順で行った。

（１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
（２）試料約１gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
（３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
（４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
（５）沈底法による20μm以下の微粒子除去
（６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
（７）検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10−5g）をかけて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は２.94（種実重は1.03）、ヨシ属（ヨシ）は６.31、ススキ属（ススキ）は１.24、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である（杉山, 2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

D 分析結果

1）分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕

クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、地下茎部起源、未分類等

〔樹木〕

その他

2）植物珪酸体の検出状況

（1）2区SE4（井戸）

古代とされるSE4（井戸）の埋土について分析を行った。その結果、埋土底部の4層（試料4）では、イネやクマザサ属型が比較的多く検出され、ウシクサ族A、ミヤコザサ節型なども検出された。イネの密度は2,800個/gと比較的高い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている3,000個/gに近い。その上位の3層（試料3）でも、おおむね同様の結果であるが、同層ではヨシ属が出現している。埋土中部の2層（試料2）では、ヨシ属が極めて多量に検出され、イネは見られなくなっている。また、キビ族型や樹木（その他）が出現しており、クマザサ属型はほとんど見られなくなっている。ヨシ属の密度は39,000個/gと極めて高い値である。1層（試料1）では、ヨシ属が減少している。おもな分類群の推定生産量によると、1層～3層ではヨシ属が優勢であり、とくに2層ではヨシ属が圧倒的に卓越している。

（2）3区河96

古代とされる河96（旧河道）の堆積層について分析を行った。その結果、河底のⅣ層（試料4）では、ウシクサ族A、クマザサ属型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。3層（試料3）では、ヨシ属が出現しており、2層（試料2）ではキビ族型、ススキ属型、樹木（その他）も出現している。1b層（試料1b）では、ヨシ属が増加しており、イネも出現している。イネの密度は4,500個/gと高い値である。1a層（試料1a）でも、おおむね同様の結果である。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢であり、1b層ではイネも多くなっている。

E 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

1）2区SE4（井戸）

古代とされるSE4（井戸）の埋土底部の堆積当時は、周辺で稲作が行われていたと考えられ、そこから何らかの形で井戸内にイネの植物珪酸体が混入したと推定される。また、埋土中部ではヨシ属が極めて多量に検出されることから、ヨシ属が何らかの形で井戸内に入れられていた可能性が考えられる。

2）3区河96

古代とされる河96（旧河道）の埋土底部の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺にはササ類などが分布していたと推定される。1b層～1a層の堆積当時には、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと考えられ、周辺にはヨシ属が多く生育する湿地的なところが分布していたと推定される。

文献

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

表1　新津市・沖ノ羽遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	地点・試料	2区，SE4				3区，河96				
			1	2	3	4	1a	1b	2	3	4
イネ科	Gramineae (Grasses)										
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)				28	28	21	46			
キビ族型	Paniceae type		7	7				8	7		
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		86	391	84		55	71	7	34	
ススキ属型	*Miscanthus* type								7		
クシダマ属A	Andropogoneae A type		14		7	7		65	25	21	7
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)										
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakosasa*)		14	7	70	78	14	52	7	7	22
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakosasa*		14		7	7	7	13	7	14	15
未分類等	Others		22		28	50	14	19		48	22
その他のイネ科	Others										
带状毛起源	Hook hair origin			15	21		28	13	7	21	15
棒状起源	Rod - shaped		259	251	303	43	145	311	270	371	74
茎部起源	Stem origin		108	44	14		7	32	40	7	37
地下茎部起源	Underground stem origin		14	88	35				13	7	
未分類等	Others		375	391	453	227	259	383	316	399	243
樹木起源	Arboreal										
その他	Others		7	7					7		
（海綿骨針）	Sponge		58		7		7				7
植物珪酸体総数	Total		922	1201	1129	440	559	992	712	928	438

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)			0.42	0.83	0.61	1.33			
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	5.45	24.65	5.28		3.68	4.90	0.42	2.17	
ススキ属型	*Miscanthus* type							0.68		
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakosasa*)	0.11	0.06	0.52	0.59	0.10	0.39	0.05	0.05	0.17
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakosasa*	0.04		0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.04	0.04
タケ亜科の比率（%）										
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*									
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*									
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakosasa*)	71	100	98	96	83	91	71	56	79
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakosasa*	29		4	4	17	9	29	44	21

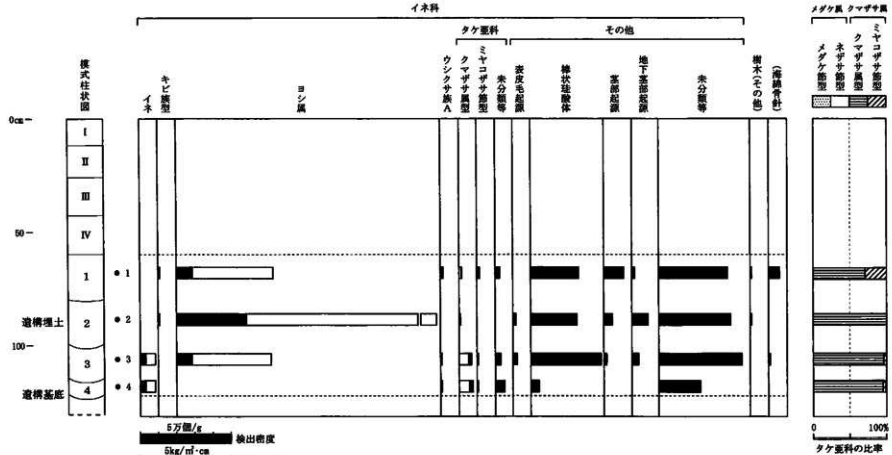


図1　沖ノ羽遺跡、2区SE4における植物珪酸体分析結果

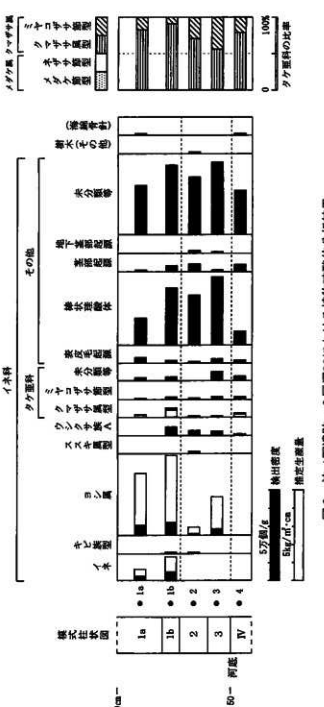
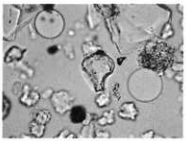
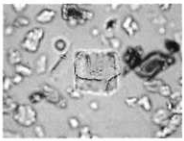


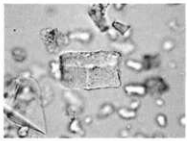
図2　沖ノ羽遺跡、3区西96におけるプラント・オパール分析結果



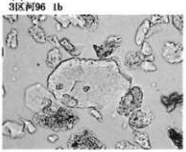
イネ
3区河96　1b



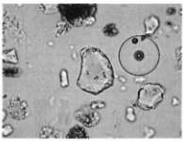
イネ(側面)
3区河96　1b



キビ族型
2区SE4　2



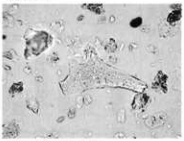
ヨシ属
2区SE4　1



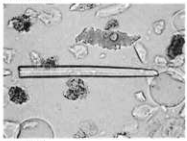
クマザサ属型
2区SE4　3

棒状珪酸体
3区河96　3

イネ科の茎部起源
2区SE4　1



イネ科の地下茎部起源
2区SE4　3



海綿骨針
2区SE4　1

植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真　　50μm

2 沖ノ羽遺跡における花粉分析

金原正子（株式会社古環境研究所）

A　はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

B　試　　料

試料は、2区SE4（井戸）および3区河96から採取された計4点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

C　方　　法

花粉粒の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

（1）5％水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
（2）水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
（3）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
（4）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
（5）再び氷酢酸を加えて水洗処理
（6）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
（7）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

D　結　　果

1）分　類　群

出現した分類群は、樹木花粉34、樹木花粉と草本花粉を含むもの4、草本花粉24、シダ植物胞子2形態の計64である。分析結果を表1に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、イチイ科？イヌガヤ科？ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属？アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属？ケヤキ、エノキ属？ムクノキ、サンショウ属、

センダン属、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、ツバキ属、エゴノキ属、モクセイ科、トネリコ属、ツツジ科、ニワトコ属？ガマズミ属、スイカズラ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科？イラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属？ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、タデ属、タデ属サナエタデ節、アカザ科？ヒユ科、ナデシコ科、コウホネ属、キンポウゲ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、アカバナ科、セリ亜科、シソ科、ナス科、オオバコ属、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

2）花粉群集の特徴

（1）2区SE4

4層では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、シダ植物胞子も多い。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科が多く、アカザ科？ヒユ科などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属が比較的多く、スギなどが伴われる。3層では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）が優占し、ヨモギ属、カヤツリグサ科、キク科などが伴われる。樹木花粉では、スギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属が多く、マツ属複維管束亜属などが伴われる。

（2）3区河96

3層では、樹木花粉より草本花粉の占める割合がやや高い。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）、カヤツリグサ科、ヨモギ属が多く、サジオモダカ属、ガマ属?ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、キク亜科などが伴われる。樹木花粉では、スギ、コナラ属コナラ亜属が多く、ハンノキ属、マツ属複維管束亜属などが伴われる。2層では、イネ科やコナラ属コナラ亜属が増加し、カヤツリグサ科、ヨモギ属、スギは減少している。

E　花粉分析から推定される植生と環境

1）2区SE4

古代とされるSE4（井戸）の埋土底部の堆積当時は、イネ科、ヨモギ属、アカザ科？ヒユ科、キク亜科などが生育する陽当たりの良い人里の環境であったと考えられ、周辺では稲作が行われていたと推定される。また、遺跡周辺にはコナラ属コナラ亜属やハンノキ属などの落葉広葉樹林が分布していたと考えられ、スギ林やマツ林も見られたと推定される。

2）3区河96

古代とされる河96（旧河道）の埋土底部の堆積当時は、ガマ属？ミクリ属などの水生植物、およびサジオモダカ属やオモダカ属などが生育する湿地の環境であったと考えられ、周辺にはイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などの草本類が分布していたと推定される。また、遺跡周辺にはコナラ属コナラ亜属やハンノキ属などの落葉広葉樹林が分布していたと考えられ、スギ林やマツ林なども見られたと推定される。

文献

中村純（1973）花粉分析．古今書院，p.82-110.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p.248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryzasativa）を中心として．第四紀研究，13，p.187-193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p.21-30.

表1　沖ノ羽遺跡における花粉分析結果

分類群		2区SE4		3区P96	
学名	和名	3	4	2	3
Arboreal pollen	樹木花粉				
Abies	モミ属				1
Picea	トウヒ属			1	
Tsuga	ツガ属	1		1	
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	12	1	6	6
Pinus subgen. *Haploxylon*	マツ属単維管束亜属			2	
Cryptomeria japonica	スギ	56	5	34	62
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1			1
Salix	ヤナギ属			7	
Juglans	クルミ属				4
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ	3	2	6	1
Alnus	ハンノキ属	28	12	54	16
Betula	カバノキ属	1	1	5	6
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ			7	2
Castanea crenata	クリ	2	2	2	3
Castanopsis	シイ属	1		2	2
Fagus	ブナ属	3	1	10	2
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	30	10	106	53
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	4	1	8	3
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	7		5	2
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ	1		2	3
Zanthoxylum	サンショウ属		1	1	2
Melia	センダン属	1			
Ilex	モチノキ属			4	1
Celastraceae	ニシキギ科				1
Acer	カエデ属	1	1	9	2
Aesculus turbinata	トチノキ	1	1	2	1
Vitis	ブドウ属			2	3
Camellia	ツバキ属			1	
Styrax	エゴノキ属			1	1
Oleaceae	モクセイ科		1	4	
Fraxinus	トネリコ属			1	
Ericaceae	ツツジ科			1	
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属			7	1
Lonicera	スイカズラ属			1	1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉				
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科		2	8	8
Rosaceae	バラ科				1
Leguminosae	マメ科				2
Araliaceae	ウコギ科	1			1
Nonarboreal pollen	草本花粉				
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属		3	1	2
Alisma	サジオモダカ属			1	8
Sagittaria	オモダカ属			1	1
Gramineae	イネ科	149	25	160	65
Oryza type	イネ属型	1			1
Cyperaceae	カヤツリグサ科	18	15	30	34
Aneilema keisak	イボクサ			1	
Polygonum	タデ属		1		
Polygonum sect. *Persicaria*	タデ属サナエタデ節	1		1	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1	6	1	1
Caryophyllaceae	ナデシコ科		1		1
Nuphar	コウホネ属			1	
Ranunculus	キンポウゲ属			1	
Cruciferae	アブラナ科			1	
Impatiens	ツリフネソウ属				1
Onagraceae	アカバナ科				1
Apioideae	セリ亜科	2	3	2	
Labiatae	シソ科	1			
Solanaceae	ナス科				1
Plantago	オオバコ属	1			
Actinostemma lobatum	ゴキヅル			6	1
Lactucoideae	タンポポ亜科				1
Asteroideae	キク亜科	4	1		5
Artemisia	ヨモギ属	20	25	33	64
Fern spore	シダ植物胞子				
Monolate type spore	単条溝胞子	15	35	2	8
Trilate type spore	三条溝胞子	11	18	3	4
Arboreal pollen	樹木花粉	153	39	294	182
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	1	2	8	12
Nonarboreal pollen	草本花粉	198	81	240	208
Total pollen	花粉総数	352	122	542	402
Unknown pollen	未同定花粉	8	10	12	6
Fern spore	シダ植物胞子	26	53	5	12
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)

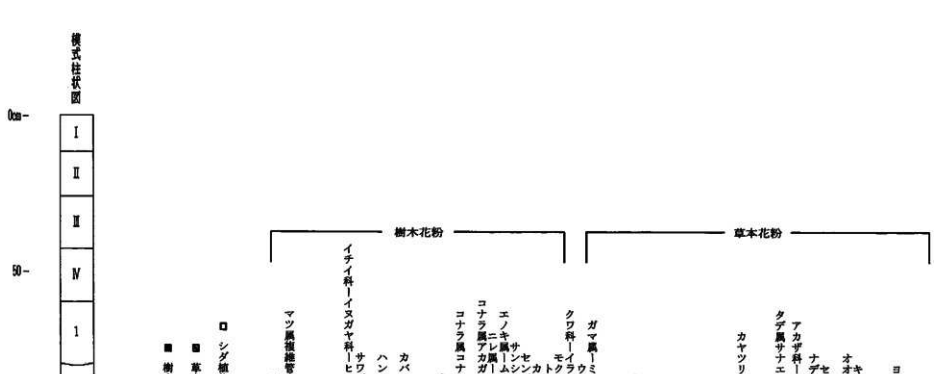


図1　沖ノ羽遺跡、2区SE4における花粉ダイアグラム

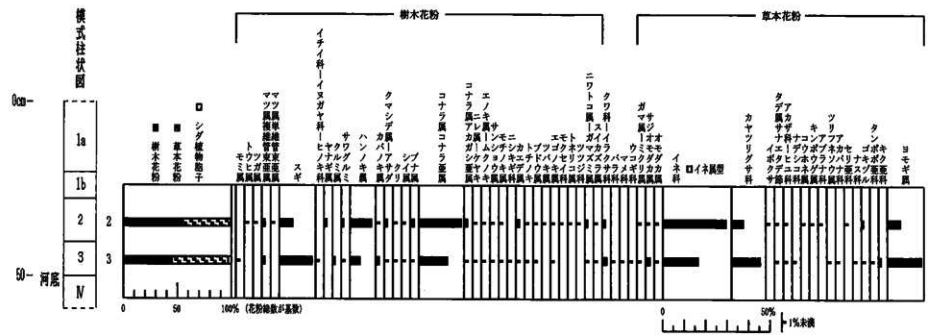
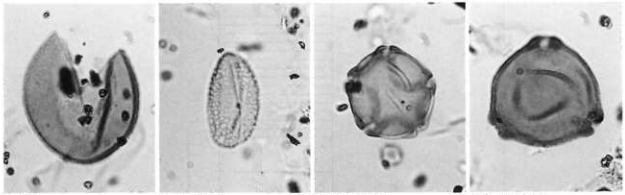


図2　沖ノ羽遺跡、3区河96における花粉ダイアグラム

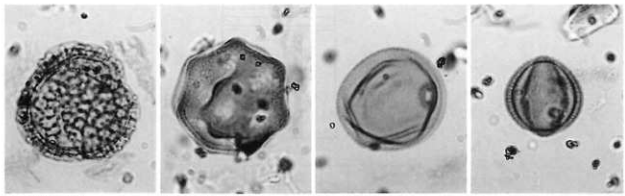
沖ノ羽遺跡の花粉



1 スギ　2 ヤナギ属　3 ハンノキ属　4 カバノキ属

5 シイ属　6 コナラ属コナラ亜属　7 コナラ属アカガシ亜属　8 ニレ属ーケヤキ

9 モチノキ属　10 トチノキ　11 ブドウ属　12 エゴノキ属



13 モクセイ科　14 オモダカ属　15 イネ科　16 ヨモギ属

10μm

3　沖ノ羽遺跡における樹種同定

金原　明（株式会社古環境研究所）

A　はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

B　試　　料

試料は、3区河96から出土した木材5点である。

C　方　　法

カミソリを用いて新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

D　結　　果

表2結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

コナラ属コナラ節Quercussect. Prinusブナ科図版1・2・3

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1～2列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が散在ないし火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

E　所　　見

分析の結果、3区河96から出土した木材は、いずれもコナラ属コナラ節と同定された。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強靭で弾力に富み、建築材などに用いられる。

文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.49-100.

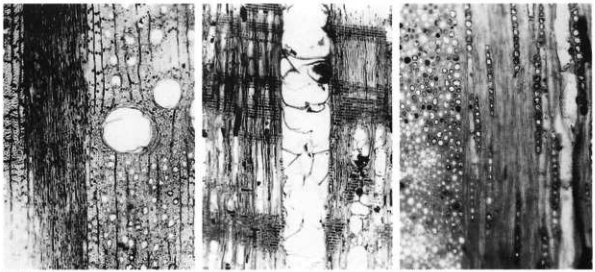
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第1号，植生史研究会，p.242

表1　沖ノ羽遺跡における樹種同定結果

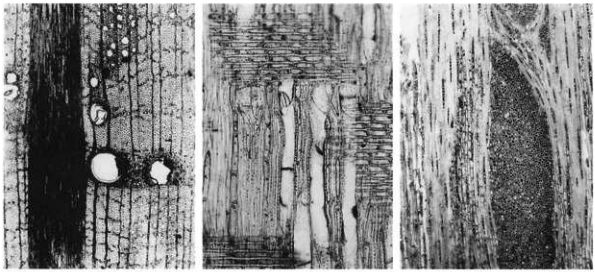
試料	結果（学名／和名）	
※1	Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節
※2	Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節
※3	Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節
※4	Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節
※5	Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節

沖ノ羽遺跡の木材



横断面 ——— : 0.5mm　放射断面 ——— : 0.5mm　接線断面 ——— : 0.2mm

1．木1　コナラ属コナラ節



横断面 ——— : 0.5mm　放射断面 ——— : 0.2mm　接線断面 ——— : 0.5mm

2．木2　コナラ属コナラ節

横断面 ——— : 0.5mm　放射断面 ——— : 0.2mm　接線断面 ——— : 0.2mm

3．木5　コナラ属コナラ節

第Ⅶ章　総　　括

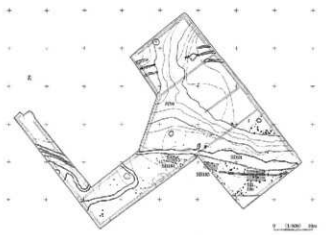
1　沖ノ羽遺跡の遺構について

沖ノ羽遺跡３区では掘立柱建物が３棟確認されている。３棟とも比較的小形の柱穴を持つ建物である。第９図に遺跡の模式図を示した。

河96は等高線と現在の流路を勘案すると３区調査区を東から西に流れる。この流路は前述したように古代包含層を切る流路であり、遺物も河基底を中心に古代の土器が出土し、図版２に示した大正時代の図面にも見られないことから古代の流路と判断した。

この河96の河岸を中心に遺構が確認されている。SB184・185・186はともに東西に主軸を持ち、１間１間あるいは１間２間程度の束柱を持たない形態である。雨落溝などは付属しない。全て径20cm前後の小穴で構成されている。住居域というよりは倉庫としての機能を有する建物の可能性がある。さらに、周辺の小土坑（Pit）群も明らかに出来なかった倉庫等の小形建物柱の可能性が高く、居住域は調査区外であろう。推定ではあるが浅い溝状遺構であるSD24は河96と並行してあり、そこを堺に河側（北側）には遺構がほとんどなく、SD24の南側にはSB184・185・186などの倉庫群が存在することからSD24は用排水の機能とともに、小河道が増水時の洪水対策として設けられた施設の可能性もある。また小河道と遺構の関係は新津市内では中谷内遺跡〔立木ほか1999、渡邊ほか2001、北村・菊地ほか2004〕等で確認されているが、そこにおいても小河道のすぐ近くでは倉庫の柱と推定される小土坑群があり、若干関係性が見出せる。河に対して直行する軸に倉庫群が並ぶ状況は計画的な集落配置を暗示するものと考える。近隣の山王浦遺跡〔立木・澤野ほか2004〕の集落域２でも住居群と倉庫群・井戸などがセットとなる構成の集落域を検出しており、今回の沖ノ羽遺跡の調査でも未発掘区に住居域・井戸などが見出せると推定される。また、北東に隣接する2001年度の沖ノ羽遺跡本発掘調査区〔細野ほか2002〕でも、同様に住居と倉庫・井戸の集落構成が確認されている。現在のところ、後述する土器の編年観から今回の沖ノ羽遺跡３区倉庫群と山王浦遺跡集落域２はほぼ同時期と考えられ（春日編年Ⅵ２・３期）〔春日1997a・2003b〕、2001年度沖ノ羽遺跡本発掘調査集落域（春日編年Ⅴ２期）と若干の編年差が存在するが、現状では総合的な差異の判断は難しい。今後の調査の進行で時期ごとの集落の差異を明らかにしたい。

最後に今回の調査での遺跡の性格について述べると、遺物の面からは特殊な遺物は確認されていない。遺構の点からも特殊な集落とは言えない。自然科学分析の結果、近隣で米栽培なども想定されており、それらを勘案すると９世紀後半の「農民層」の集落遺跡の一部として評価される。



第９図　沖ノ羽遺跡３区遺構構成図

2　沖ノ羽遺跡の古代土器について

沖ノ羽遺跡では発掘調査によって遺構からある程度まとまった一括資料が出土した。本稿では周辺地域の土器編年を参考に、沖ノ羽遺跡の編年的位置付けを示す。主要遺構の器種組成図を第10図に、食膳具の法量分布図を第11図に示した。組成比は口縁部残存率をもとに算出した。

今回の調査では1区から3区までの調査区を設定した。以下、各区ごとに土器の様相について述べる。

1区は調査区の幅が2m程度で、遺構の構成等は十分な検討ができなかったが、遺物は一定量出土した。中でもSX4・SD1・SD3から土器がまとまって出土している。各構成比率を見ていくと、SX4は全体の種類別構成比で土師器67.1%、須恵器32.9%となっている。一方、食膳具の種類別構成比では土師器が42%、須恵器58%と須恵器が主体を占めている。SD1では全体の構成比で、土師器63.1%、黒色土器25.5%、須恵器11.4%、食膳具では土師器60%、黒色土器28%、須恵器12%で、土師器が主体となり黒色土器が一定量出土している。SD3では、全体の種類別構成比で土師器70.4%、須恵器29.6%で土師器が高率である。食膳具でも土師器65.1%、須恵34.9%と、土師器が主体となっている。

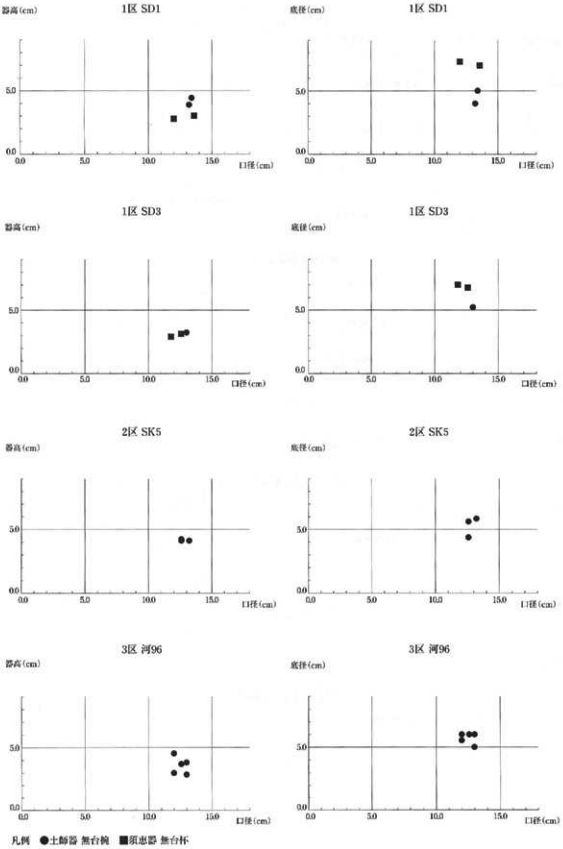
全体の種類別構成比では土師器が60%以上で、須恵器が一定量出土するという同様の様相が見られる。ただ、SX4・SD3で黒色土器が見られないのに対し、SD1では須恵器を上回る比率を占めている。煮炊具では口縁部が外反し、端部に面を持つC類だけでなく、口縁端部が上方に短く屈曲するB類も同様に出土が見られる。また、貯蔵具に関しては包含層からの出土ではあるが、大甕で口縁部に波状文を施すものも出土している。

2区でも調査区の幅が2m程度で、遺構の構成等は十分な検討ができなかった。また、2区全体から出土した遺物もそれほど多くなく、遺構からも一括資料としてまとまった出土が見られたのはSK5のみであった。SK5は全体の種類別構成比で土師器が94.8%、黒色土器0.7%、須恵器4.5%と、土師器が圧倒的に多数を占めている。食膳具の構成比も同様に土師器が90%以上を占めている。須恵器食膳具では宝珠状の鈕を持つ杯蓋が1点出土している。煮炊具を見ると、1区と同様C類とB類が混在しているが、口縁端部が上方に短く屈曲するB類が主体となっている。その他に、2区包含層出土土器ではあるが、新津産の須恵器無台杯が1点確認された。

3区は調査区が広範囲で、前述したように遺構の構成・セット関係等は検討することができたが、各遺構からのまとまった一括資料はほとんど見られなかった。唯一、検討できるだけの資料数が出土したのは河96である。旧河道出土資料は遺構内の遺物が元位置を留めていない可能性があり、一括性に疑問が生じる場合がある。しかし、河96の遺物出土状況を見ると、ほとんどの土器が河基底より出土し、若干上層からの出土が見られる程度である。この出土状況からは旧河道出土資料でも一括性にそれほど問題は無いと考え、3区では河96からの出土資料を検討していく。

河96の構成比を見ていくと、全体の種類別構成比で土師器83.6%、黒色土器1.9%、須恵器14.5%、食膳具では土師器96.2%、黒色土器2.5%、須恵器1.3%と、いずれも土師器が圧倒的に高い比率を占めている。土師器無台椀の形態を見ると、器高指数が38のものが1点あり、全体的にも器壁が薄く口縁部が外反するC類が主体を占める。また、体部外面下半にケズリを施すものも出土している。煮炊具ではB類・C類ともに定量見られる。3区の他の遺構出土土器を見ていくと、土師器無台椀の形態が河96と同様、C類が主体となっている。一方、須恵器食膳具は出土していない。包含層からも須恵器食膳具の出土はほとんど見られない。

第10図　沖ノ羽遺跡主要遺構別の器種組成図



第11図　沖ノ羽遺跡主要遺構別食膳具の法量分布図

沖ノ羽遺跡出土土器の年代を考えていく上で指標の一つとなるのは須恵器食膳具である。沖ノ羽遺跡出土の須恵器食膳具はほとんどが佐波小泊産須恵器であった。小泊産須恵器は９世紀以降、越後国内への供給が始まり、９世紀後半以降は越後国内の須恵器の大半を占めるようになる。小泊産須恵器が流通を開始するのは下口沢窯段階からで、その後カメ畑窯段階、江ノ下窯段階と続く〔春日1991、坂井ほか1991〕。

沖ノ羽遺跡の各区を見ていくと、１区から出土した須恵器無台杯はすべて佐波小泊産で、器壁が薄く、外傾度が高いものが大半を占めている。また口径15cm以上の大型品が無く、底径も７cm前後に収まっている。杯蓋では径15cmのものが１点出土している。以上の特徴から、１区から出土した須恵器無台杯はカメ畑窯段階に相当すると考える。構成比を見ていくと、ＳＸ４では食膳具で須恵器の割合が土師器を上回っている。一方、ＳＤ１・ＳＤ３では土師器の比率が60％前後あり、食膳具の主体を占めている。１区の遺構間で構成比率が異なっているが、出土した須恵器無台杯に形態差は見られなかった。したがって、これらの差異は時期差ではなく、遺構の機能差であると考え、１区の遺構は同時期のものとして捉えた。新津市内の同時期の遺跡と比較すると、須恵器の割合が高いこと、黒色土器が一定量出土していることなどは中谷内遺跡〔立木ほか1999〕の１期、山王浦遺跡〔立木・澤野ほか2004〕の１期に相当する。これらのことから１区は春日真実氏の編年〔春日1997a・2003b〕（以下春日編年）によるⅥ１期で、実年代では９世紀第３四半期に相当すると考える。

２区ＳＫ５では須恵器無台杯はすべて佐波小泊産のもので、１区と同様に器壁が薄く外傾度が高いものがほとんどである。資料数が少ないため個体毎の検討はできなかったが、須恵器無台杯で底径が１区のものより小型化しているものが１点出土している。構成比を見ると食膳具で土師器が90％以上を占め、須恵器の割合が少なくなっている。１区のＳＸ４・ＳＤ１・ＳＤ３と比較すると２区ＳＫ５は新相を示していると考える。新津市内の同時期の遺跡では中谷内遺跡〔立木ほか1999〕の２・３期、山王浦遺跡〔立木・澤野ほか2004〕の２期が同様の様相となっている。これらのことから２区ＳＫ５は春日編年のⅥ２・３期に並行するものと考える。実年代では９世紀第４四半期に相当する。

３区河96では須恵器無台杯が図示できるほどの良好な資料はなく、破片資料のみであったため形態から時期を判断するのは困難である。３区の他の遺構からも須恵器食膳具の出土は見られなかった。河96の構成比率を見ると、食膳具で土師器の割合が90％以上と高率になっている。また、土師器無台椀では器高指数が38のものが確認できる。春日氏は土師器無台椀について、器高指数35以上のものは９世紀第４四半期から10世紀のごく初頭に存在すると指摘している〔春日1997a〕。これらのことから３区河96は春日編年のⅥ２・３期以降であると考えられる。ここで春日編年Ⅵ２・３期とした２区と比較すると、調査区全体の須恵器出土量は異なるものの、土師器無台椀に関しては明確な形態差は見られない。よって、３区もⅦ期まで下ることは無いと考え、２区と同様、Ⅵ２・３期に比定できると考える。

沖ノ羽遺跡では他にも発掘調査が行われている。近隣では新津市が調査を行った2002年の沖ノ羽遺跡〔細野ほか2002〕（以下沖ノ羽遺跡市排水機場地点）と新潟県が調査を行った2003年報告の沖ノ羽遺跡Ⅲ（Ｃ地区）〔春日2003a〕（以下沖ノ羽遺跡県Ｃ地区）がある。各年代観を見ていくと、沖ノ羽遺跡市排水機場地点では主体となる時期をＶ１期としている。沖ノ羽遺跡県Ｃ地区ではＶ１期～Ⅵ２期までの変遷が追える。本報告ではⅥ１・２・３期の土器が出土しており、他の２つの調査と大きな時期差は見られない。このことから、今回の調査区周辺では９世紀初頭から恒常的に集落が営まれていたことが窺える。

引用・参考文献

ア 甘粕　健・川村浩司ほか　1992　『古津八幡山古墳Ⅰ』　新津市教育委員会
イ 飯坂盛泰ほか　2002　『一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書　蔵ノ坪遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
家田順一郎　1986　『小丸山遺跡』　横越村教育委員会
石川智紀ほか　1994　『磐越自動車道関係発掘調査報告書　沖ノ羽遺跡Ⅰ（A地区）』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
石川智紀ほか　2001　『国営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　新保遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
石坂圭介　1997　『岩田遺跡　第2次発掘調査報告書』　越路町教育委員会
伊藤　崇　1998　『松山窯跡　新潟県北蒲原郡黒川村大字塩沢地内における古代窯跡の発掘調査報告書』　黒川村教育委員会
伊藤秀和　2001　『鬼倉遺跡－国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書－』　加茂市教育委員会
ウ 植田　真・渡竹陽一郎ほか　2003　『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』　新津市教育委員会
上野一久・春日真実　1997　『横蒙バイパス関係発掘調査報告書　上郷遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
宇野隆夫　1989　『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』　真陽社
宇野隆夫　1991　『律令社会の考古学研究　北陸を舞台として』　桂書房
宇野隆夫　1992　「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集　国立歴史民俗博物館
カ 春日真実　1991　「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会』第8号　新潟考古学談話会
春日真実　1994　「第Ⅵ章まとめ　2古墳時代後期の土器」『北陸自動者道　上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ　一之口遺跡東地区（本文編）』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実　1995　「古代集落の展開」『研究紀要』　（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実　1997a　「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第6号　北陸古代土器研究会
春日真実　1997b　「越後における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号　北陸古代土器研究会
春日真実　1997c　「第Ⅶ章まとめ　B平安時代」『横蒙バイパス関係発掘調査報告書　上郷遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実　1998　「中組遺跡出土の緑釉陶器について」『町史研究　よしだ』第2号　吉田町教育委員会
春日真実　1999　「第4章古代　第2節土器編年と地域性」『新潟県の考古学』　高志書院
春日真実　2000　「考古編 第5章 まとめ」『吉田町史 資料編1 考古・古代・中世』　吉田町
春日真実　2003a　『磐越自動車道関係発掘調査報告書　沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実　2003b　「消費遺跡出土佐渡小泊産須恵器のロクロ回転方向－越後出土の資料を中心に」『研究紀要』第4号　（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実ほか　1996　『磐越自動車道関係発掘調査報告書　江内遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実・笹沢正史　1999　「越後・佐渡の様相」『北陸古代土器研究』第8号　北陸古代土器研究会
川上貞雄　1981　『山崎須恵窯跡』　五泉市教育委員会
川上貞雄　1982a　『平遺跡緊急発掘調査報告書』　新津市教育委員会
川上貞雄　1982b　『中の山遺跡発掘調査報告書』　亀田町教育委員会
川上貞雄　1992　『川口甲遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
川上貞雄　1993　『山ん家遺跡緊急発掘調査報告書』　横越村教育委員会
川上貞雄　1994　『八幡山遺跡Ⅰ　遺構編』　新津市教育委員会
川上貞雄　1995　『舟戸遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
川上貞雄　1996　『金津丘陵製鉄遺跡群　居村B・D地区』　新津市教育委員会
川上貞雄　1997　『上浦A遺跡　新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』　新津市教育委員会
川上貞雄ほか　1983　『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』　白根市教育委員会
川上貞雄ほか　1991　『発久遺跡発掘調査報告書』　笹神村教育委員会
川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫　1989　『新津市史』資料編第1巻　原始・古代・中世　新津市
川村　尚　2002　「佐渡郡羽茂町小泊窯跡」『新潟県考古学会第14回大会　研究発表会発表要旨』　新潟県考古学会
キ 北野博司　1999　「須恵器貯蔵具の器種分類案」『北陸古代土器研究』第8号　北陸古代土器研究会
北村　淳・菊池康一郎ほか　2004　『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
木村宗文　1989　「資料解説－古代越後国と蒲原郡」『新津市史』資料編第1巻　原始・古代・中世　新津市
コ 小池邦明　1999　『山木戸遺跡第2次発掘調査概要』　新潟市教育委員会
小池邦明・藤塚　明　1993　『新潟市的場遺跡　的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』　新潟市教育委員会
小池邦明・本間圭吉　1992　『山木戸遺跡第1次発掘調査概要』　新潟市教育委員会
小池邦明・本間圭吉　1995　『小丸山遺跡　直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』　新潟市教育委員会
小池義人ほか　1994　『磐越自動車道関係発掘調査報告書　細池遺跡　寺道上遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
小池義人ほか　1998　『上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ　関川谷内遺跡Ⅰ』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
小鍛冶快弘　1999　『茨塚遺跡発掘調査報告書』　村松町教育委員会
サ 酒井和男　1980　『三王山遺跡』　亀田町教育委員会
坂井秀弥　1988　「越後・佐渡における古代土器の生産と流通－8～10世紀を中心として－」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編　石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
坂井秀弥　1989a　「北陸型土師器長甕の製作技法」『新潟考古学談話会会報』第3号　新潟考古学談話会
坂井秀弥　1989b　「第Ⅶ章まとめ　2奈良・平安時代の土器」『新新バイパス関係発掘調査報告書　山三賀Ⅱ遺跡』　新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所
坂井秀弥　1994　「庁と館、集落と屋敷－東国古代遺跡における館の形成－」『城と館を掘る・読む－古代から中世へ－』　山川出版社
坂井秀弥　1996　「水辺の古代官衙遺跡－越後平の内水面・舟運・漁業」『越と古代の北陸』　名著出版
坂井秀弥　1999　「第Ⅳ章古代　第1節総論」『新潟県の考古学』　高志書院
坂井秀弥ほか　1984　『上新バイパス関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ　今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』　新潟県教育委員会
坂井秀弥ほか　1986　『北陸自動車道　上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅱ　一之口遺跡西地区』　新潟県教育委員会
坂井秀弥ほか　1989　『新新バイパス関係発掘調査報告書　山三賀Ⅱ遺跡』　新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所
坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実　1991　「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号　新潟県考古学会
坂上有紀　2003　『磐越自動車道関係発掘調査報告書　上浦遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
笹澤正史　1998　「Ⅶ.付編　高田平野における平安時代前半期の食膳具について」『保坂遺跡発掘調査報告書』　上越市教育委員会

笹澤正史　2001　「須恵器瓶類の口縁頸部接合痕跡」『北陸古代土器研究』第９号　北陸古代土器研究会
笹澤正史ほか　1997　『保坂遺跡発掘調査報告書』　上越市教育委員会
シ 品田高志・伊藤啓雄　1997　『前掛り－新潟県柏崎市・前掛り遺跡発掘調査報告書－』　柏崎市教育委員会
品田高志・伊藤啓雄　1999　『角田－新潟県柏崎市・角田遺跡発掘調査報告書－』　柏崎市教育委員会
清水潤三　1955　「新潟県中蒲原郡川根独木舟」『日本考古学年報』３　日本考古学協会
上越市　2003　『上越市史』資料編２　考古
ス 鈴木俊成　1994　「第Ⅵ章まとめ　１平安時代の土器」『北陸自動車道　上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ　一之口遺跡東地区（本文編）』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成ほか　1998　『県営ほ場整備事業（神林村）関連埋蔵文化財発掘調査報告書　天王前遺跡・有明的場遺跡・石川遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成・遠藤孝司　1988　『北陸自動車道　糸魚川地区発掘調査報告書Ｖ　小出越遺跡』　新潟県教育委員会
鈴木俊成・春日真実・高橋一功　1994　『北陸自動車道　上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ　一之口遺跡東地区（本文編）』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
タ 高野裕子・渡邊朋和　2003　『川口乙遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
高橋与右エ門　1984　「須恵器大甕にみられる「放射状当て具痕」について」『紀要』Ⅳ　（財）岩手県埋蔵文化財センター
滝沢規朗ほか　1995　『磐越自動車道関係発掘調査報告書　大阪上道遺跡・猿額遺跡・中棚遺跡・牧ノ沢遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
田嶋明人　1988　「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編　石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
田中　靖　1996　『門新遺跡　外割田地区』　和島村教育委員会
田中　靖ほか　1995　『門新遺跡』　和島村教育委員会
田辺昭三　1966　『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ
ツ 立木宏明ほか　1998　『細池遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
立木宏明ほか　1999　『中谷内遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
立木宏明ほか　2000　『川根遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
立木宏明・高野裕子ほか　2002　『内野遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
立木宏明・澤野慶子ほか　2003　『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅰ』　新津市教育委員会
立木宏明・澤野慶子ほか　2004a　『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
立木宏明・澤野慶子ほか　2004b　『山王浦遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
鶴巻康志・若林知美ほか　2003　『桑ノ口遺跡発掘調査報告書』　新発田市教育委員会
ト 東北中世考古学会編　2001　『東北中世考古学叢書２　掘立と竪穴　中世遺構論の課題』　東北中世考古学会編
土橋由理子　1999　『国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ　牛道遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
ナ 長岡市　1992　『長岡市史』資料編１考古
長澤展生ほか　2002　『無頭遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
ニ 新潟古代土器研究会　2004　『越後阿賀北地域の古代土器様相』
ハ 秦　繁治・中村美恵子　1988　『新潟県上越市四ッ屋遺跡発掘調査報告書』　四ッ屋遺跡調査団
新潟市史編さん原始古代中世史会　1994　『新潟市史』資料編１原始古代中世　新潟市
ヒ 廣野耕造　2000　『前田遺跡　県営かんがい排水事業に伴う発掘調査報告書』　新潟市教育委員会
廣野耕造・朝岡政康　1999　『大淵遺跡　宅地開発事業に伴う発掘調査報告書』　新潟市教育委員会
フ 藤塚　明・小池邦明・渡邊朋和　1982　『新潟市小丸山遺跡発掘調査概報』　新潟市教育委員会
古川百作　1982　「川根の丸木舟発掘」『新津郷土誌』第９号　新津郷土誌料研究会
古庄浩明ほか　2003　『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』　新津市教育委員会
ホ 星野信明ほか　1996　『磐越自動車道関係発掘調査報告書　沖ノ羽遺跡Ⅱ（Ｂ地区）』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
細野高伯ほか　2002　『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
マ 満日郷土史編纂委員会　1977　『満日郷土史』
モ 望月精司　1997　「第２章各地域の土師器生産と土師器焼成遺構　第4節北陸」『古代の土師器生産と焼成遺構』　真陽社
ヤ 山崎　天　1999a　『橋田B遺跡』　五泉市教育委員会
山崎　天　1999b　『小実山遺跡』　五泉市教育委員会
山中雄志　1998　「福島県会津地方の越後・出羽日本海系ロクロ長胴甕－そのアウトラインについての研究ノート－」『東国史論』第13号　群馬考古学研究会
山本　仁　1996　『村松町城下遺跡発掘調査報告書』　村松町教育委員会
横山勝栄・竹田和夫ほか　1987　『新潟県中世城跡等分布調査報告書』　新潟県教育委員会
ヨ 吉井雅男　1994　『古谷地Ｂ遺跡・寺田遺跡・赤井遺跡　県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』　荒川町教育委員会
吉井雅男　2001　『田島遺跡 県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』　荒川町教育委員会
吉井雅男ほか　1999　『元山窯跡群　平成９・10年度町内遺跡試掘確認調査報告書』　荒川町教育委員会
吉井雅勇ほか　2002　『鴨侍遺跡－一級河川乙日川（鳥川工区）統合一級河川整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　荒川町教育委員会
ワ 若林知美　2004　「新潟県出土の古代施釉陶器」『新潟考古学談話会会報』第28号　新潟考古学談話会
渡邊朋和　1991　『長沼遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
渡邊朋和　1992　『上浦遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
渡邊朋和　1994a　『八幡山遺跡発掘調査報告書－平成５年度範囲確認調査－』　新津市教育委員会
渡邊朋和　1994b　『平成５年度　新津市内遺跡確認調査報告書』　新津市教育委員会
渡邊朋和　1999　「第４章第４節第３項製鉄」『新潟県の考古学』　新潟県考古学会
渡邊朋和ほか　1997　『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ　居村遺跡Ｅ・Ａ・Ｃ地点、大入遺跡Ａ地点』　新津市教育委員会
渡邊朋和ほか　1998　『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ（分析・考察編）』　新津市教育委員会
渡邊朋和ほか　2001　『寺道上遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
渡邊朋和ほか　2002　『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』　新津市教育委員会
渡邊朋和・立木宏明ほか　2001　『八幡山遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
渡邊朋和・立木宏明ほか　2004　『八幡山遺跡群発掘調査報告書－第11・12・13・14次調査－』　新津市教育委員会
渡辺ますみ　1991　『荒木前遺跡』　亀田町教育委員会
渡邊ますみ　1994　『緒立Ｃ遺跡発掘調査報告書』　黒崎町教育委員会
渡邊ますみ　1998　「第２章　原始・古代－緒立遺跡－第３節出土遺物第３項　奈良・平安時代の遺物１」『黒埼町史資料編１』原始・古代・中世　黒埼町
渡邊美穂子・田中耕作　2001　『坂ノ沢Ｃ遺跡Ⅱ（平安時代編）』　新発田市教育委員会

別表1　沖ノ羽遺跡遺構計測表

図版No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模(m) 上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	底面標高(m)	形態 平面	形態 断面	覆土	遺物の有無	遺物図版頁
	1区	SX4	4G7	古代	VI	N - 52° - W	1.12	-	0.80	-	2.86	不定形	台形		○	36
	1区	SK5(Pit6)	5E10,5F6	古代	VI	N - 13° - W	2.24	(1.52)	1.84	1.20	2.80	楕円形	弧形		○	36
	1区	SD1	4G3·4·8·9	古代	VI	N - 42° - W	1.52	-	1.44	-	2.88	-	台形		○	36·37·38·50
	1区	SD2	4F15·19·20	古代	VI	N - 32° - W	1.76	-	1.44	-	2.89	-	台形		○	38·50
	1区	SD3	4F18·19·23·24	古代	VI	N - 56° - W	1.76	-	1.36	-	2.90	-	皿形		○	38·39
	2区	SE4	10M23·24,11M3	古代	VI	N - 53° - E	2.72	-	0.80	-	2.70	円形	半円形		○	41
	2区	SK6	11M6	古代	VI	N - 63° - E	0.72	0.64	0.48	0.40	3.04	不定形	台形		×	-
	2区	SK7	11L9	古代	VI	N - 75° - E	1.36	(0.32)	0.88	(0.32)	3.24	不定形	箱形		○	42
	2区	SK9	12L1	古代	VI	N - 60° - W	1.12	0.72	1.04	0.56	3.30	楕円形	箱形		×	-
	2区	SK5	11L13·14·18	古代	VI	N - 75° - E	2.24	(1.44)	1.76	(1.2)	3.14	不正方形	箱形		○	41·42·50
	2区	SK8	11L13·17·18	古代	VI	N - 17° - W	(1.12)	1.04	(0.96)	0.88	3.30	楕円形	箱形		○	42
	2区	SK10(Pit12)	12K5	古代	VI	-	0.96	(0.4)	0.80	(0.32)	3.29	円形	箱形		×	-
	2区	SD1	8O25,9O5	古代	VI	-	(2.4)	-	(1.92)	-	2.79	-	台形		○	42
	2区	SD2	9O7·8·12·13	古代	VI	N - 46° - W	1.36	-	0.64	-	2.76	-	台形		○	42
	2区	SD3	9O11·16	古代	VI	N - 38° - W	0.72	-	0.48	-	3.04	-	箱形		○	42
	3区	SK2	26R6·7·11·12	古代	VI	N - 90° - E	1.68	1.44	0.56	0.56	3.12	楕円形	半円形		○	44
	3区	SK128	25T11·12·16·17	古代	VI	N - 44° - E	0.80	(0.4)	0.56	(0.32)	3.45	楕円形	台形		○	44
	3区	SK18	25S2·7	古代	VI	N - 25° - E	1.44	1.20	1.12	(0.8)	3.40	楕円形	箱形		○	44
	3区	SK100	24U23·24	古代	VI	N - 43° - W	1.20	1.12	0.96	(0.8)	3.47	円形	皿形		×	-
	3区	SK171	24T25,25T5	古代	VI	N - 5° - W	0.64	0.56	0.24	0.24	3.41	楕円形	皿形		×	-
	3区	SE130	22R20·25	古代	VI	N - 25° - E	1.84	1.68	0.48	0.32	3.90	楕円形	半円形		○	-
	3区	SD136	25O14·15·19·20·25	古代	VI	N - 78° - W	1.76	-	0.72	-	0.52	-	皿形		×	-
	3区	SD137	25P16·17·18·21·22·23·25	古代	VI	N - 78° - W	0.88	-	0.72	-	3.49	-	皿形		○	-
	3区	SD135	26P1·2·3·7·8·9·13·14·15·20,26Q16,25P21,16P3·4	古代	VI	N - 69° - W	1.44	-	1.04	-	3.47	-	皿形		○	-
	3区	SD1	26Q22·23·24·25,26R1·6·7·12·13·16·17·21,27P5,17Q1·2·3·4·6	古代	VI	N - 75° - E	1.36	-	1.20	-	3.48	-	皿形		○	44
	3区	SD24	25R17~20,25S16~20,25T16~25,25U16·17·21~25,25V21·22,26T5,26U1~5,26V1·2·3	古代	VI	N - 80° - E	3.20	-	2.96	-	3.74	-	台形		○	44·51
	3区	SD43	25S20·25,25T11·16	古代	VI	N - 5° - E	0.56	-	0.40	-	3.55	-	皿形		○	44
	3区	SD44	26T8·9·10,26U6·7·8·9·10,26V6·7	古代	VI	N - 90° - E	0.32	-	0.16	-	3.71	-	半円形		○	-
	3区	SD8	26T8·9·10,26U21·22·23,27U1·2·3·6·7	古代	VI	N - 90° - E	-	-	-	-	3.52	-	台形		○	44
	3区	SD131	23R18·19·20	古代	VI	N - 69° - E	0.56	-	0.40	-	3.48	-	皿形		×	-
	3区	SD132	23R13·14·15	古代	VI	N - 66° - E	0.56	-	0.16	-	2.40	-	皿形		×	-
	3区	SD139	23R7·8·9	古代	VI	N - 70° - E	0.56	-	0.48	-	3.50	-	皿形		×	-
	3区	SD138	23T6·7·8·9	古代	VI	N - 92° - W	0.64	-	0.48	-	3.44	-	皿形		×	-
	3区	SD133	23S5·9·10,23T1·2·3	古代	VI	N - 74° - E	2.00	-	1.36	-	3.45	-	皿形		○	50
	3区	SD134	22T21·22	古代	VI	N - 75° - E	0.56	-	0.32	-	3.47	-	皿形		×	-
	3区	Pit187	25S12	古代	VI	-	-	-	-	-	3.13	-	-		×	-
	3区	Pit188	24U7	古代	VI	-	-	-	-	-	3.02	-	-		×	-
	3区	河96	[illegible]	古代	VI	N - 83° - W	9.44	-	1.76	-	2.78	-	弧形		○	45·46
	3区	SB184	25S21·22·23,26S2·3	古代	VI	N - 80° - W	-	-	-	-	-	-	-		-	-
	3区	SB185	26T1·2·3·7·8	古代	VI	N - 85° - W	-	-	-	-	-	-	-		-	-
	3区	SB186	26U7·8·9·12·13·14	古代	VI	N - 90° - W	-	-	-	-	-	-	-		-	-

別表2　沖ノ羽遺跡古代土器・土製品観察表

凡例
1　出土位置　遺構名・グリッド名を記した。
2　層位　第V層に記した。
3　器高指数　器高/口径×100
4　底径指数　底径/口径×100
5　法量　口径・底径・器高を示す。括弧付の数値は残存率の低いものである。
6　胎土　須恵器・土師器について胎土中に含まれる砂粒・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「[illegible]」は[illegible]、「白」は白色[illegible]、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。
7　色調　『新版標準土色帖』「小山・竹原　1967」の記号を記した。
8　焼成　酸化炎焼成・還元炎焼成の区別を記した。須恵器で酸化したものは褐色あるいは橙色の色調で軟質なものを表す。白色・灰白色のものは含めていない。
9　手法　特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」・「ヘラ切り」はいずれも回転台を用いたものである。「無調整」はそれが認められないもの。回転方向は回転台の回転方向を表す。底部調整やロクロケズリ・ロクロナデから判断した。
10　遺存率　分数表示で遺存割合を示した。
11　備考　今回出土した須恵器は報告書No.144・343以外、すべて佐渡小泊産であった。

図版No.	報告書No.	出土位置 区	出土位置 遺構名	出土位置 グリッド	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	器高指数	底径指数	胎土	色調	焼成	手法 外面	手法 内面	手法 底部	回転方向	遺存率 口縁部	遺存率 底部	遺存率 全体	備考
36	1	1区	SX4	4G7·6	V層	土師器	無台椀	(13.4)					石・長・海	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
36	2	1区	SX4	4G7·11	V層	土師器	無台椀		7.2				石・長・海	橙(5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		21/36		
36	3	1区	SX4	4G7		須恵器	無台杯	12.0					石・長・白	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
36	4	1区	SX4	4G7		須恵器	無台杯	12.8					石・長・白	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
36	5	1区	SX4	4G7		須恵器	杯蓋	15.0					石・長・白	灰白(7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ,ケズリ	ロクロナデ			4/36			
36	6	1区	SX4	4G3·7		土師器	長甕	18.2					石・長	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			SD1
36	7	1区	SX4	3H15·16,4G3·7·11,4F24	V層	土師器	長甕						石・長・海	黄灰(2.5Y4/1)	酸化	カキメ,ハケメ,平行タタキメ	カキメ,ハケメ,同心円当て具痕						内外面スス　SD1
36	8	1区	SX4	4G7		土師器	小甕	14.0					石・長・雲・白	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36			内面スス
36	9	1区	SX4	4G7		土師器	小甕	16.0					石・長・チ	にぶい黄橙(7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36			
36	10	1区	SX4	4G7	V層	土師器	小甕		6.6				石・長・白	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				25/36		
36	11	1区	SX4	4G7·8	V層	土師器	小甕		7.6				石・長	にぶい橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		21/36		
36	12	1区	SX4	4G7		土師器	鍋	(40.6)					石・長・海・角	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
36	13	1区	SX4	4G7		土師器	鍋						石・長・チ・角	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕						
36	14	1区	SX4	4G7·11	V層	須恵器	長頸瓶		9.0				石・長・白	灰(10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右		29/36		[illegible]360T
36	15	1区	SK5	5F6		須恵器	無台杯	(11.8)					石・長	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
36	16	1区	SK5	5F6		須恵器	無台杯	(12.0)					石・長	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
36	17	1区	SK5	5F6		土師器	鍋						石・長・チ	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	ハケメ,平行タタキメ	カキメ,ハケメ						
36	18	1区	SK5	5F6		土師器	長甕						石・長・角	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ハケメ,平行タタキメ	ハケメ,同心円当て具痕,平行タタキメ						
36	19	1区	SD1	4G3·4	V層	土師器	無台椀	13.1					石・長・海	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
36	20	1区	SD1	4G3		土師器	無台椀	13.4	5.0	4.5	34	37	石・長・角	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		4/36	12/36	8/36	
36	21	1区	SD1	4G4		土師器	無台椀	11.8					石・長	灰白(2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36			墨書体部外面横位「□」　SD2
37	22	1区	SD1	4G3·4	V層	土師器	無台椀	13.2	4.0	3.9	30	30	石・長・海	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	29/36	36/36	34/36	内外面黒斑
37	23	1区	SD1	4G3		土師器	無台椀		4.6				石・長・海・白	灰白(5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36		
37	24	1区	SD1	4G4		土師器	無台椀		4.6				石・長・角	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36		SD2
37	25	1区	SD1	4G3·7·8	V層	黒色土器	無台椀	18.0					石・角	浅黄橙(7.5YR8/6)	酸化	ケズリ	ロクロナデ			12/36			
37	26	1区	SD1	4G3		黒色土器	無台椀		5.0				石・長	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ケズリ	ミガキ	糸切り後ミガキ			11/36		
37	27	1区	SD1	4G3		須恵器	無台杯	13.6	7.0	3.0	22	51	石・長・白	灰白(N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6/36	11/36	9/36	
37	28	1区	SD1	4G3		須恵器	無台杯	(13.0)					石・長・白	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
37	29	1区	SD1	4G3		須恵器	無台杯	12.0	7.4	2.8	23	62	石・長・白	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		3/36	11/36	9/36	
37	30	1区	SD1	4G4		須恵器	無台杯	(12.6)					石・長・白	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
37	31	1区	SD1	4G3		土師器	長甕						石・長・チ・海	にぶい橙(7.5YR7/3)	酸化	カキメ	カキメ			1/36			
37	32	1区	SD1	4G4		土師器	長甕						石・長・チ・角	にぶい橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			
37	33	1区	SD1	4G3		土師器	長甕						石・長・角	にぶい黄橙(7.5YR7/3)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕						
37	34	1区	SD1	4G3·7		土師器	小甕	11.0					石・長・白	灰白(2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36			SX4
37	35	1区	SD1	4G3		土師器	小甕	(13.2)					石・長・角	灰白(2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	カキメ			2/36			
37	36	1区	SD1	4G3·4		土師器	鍋						石・長・雲・角	褐灰(10YR6/1)	酸化	カキメ,平行タタキメ	カキメ,平行当て具痕						
37	37	1区	SD1	4G3·7·8	V層	土師器	鍋						石・長・雲	灰褐(7.5YR6/2)	酸化	カキメ,平行タタキメ	カキメ						
37	38	1区	SD1	3H15,4G3	V層	須恵器	大甕						石・長・白	灰(5Y6/1)	還元	ハケメ,格子タタキメ	同心円当て具痕						
37	39	1区	SD1	4G3		須恵器	大甕						石・長・白	灰白(2.5Y7/1)	還元	格子タタキメ	平行当て具痕,同心円当て具痕						
38	40	1区	SD1	4G3		須恵器	大甕						石・長・白	灰白(2.5Y7/1)	還元	格子タタキメ	平行当て具痕,同心円当て具痕						
38	41	1区	SD2	4F20		土師器	無台椀	(14.0)					石・長	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
38	42	1区	SD2	4F20		土師器	無台椀		5.0				石・長・白	にぶい橙(5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			7/36		
38	43	1区	SD2	4F20		須恵器	無台杯	(12.0)					石・長	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
38	44	1区	SD2	4F20		須恵器	無台杯						石・長	灰白(2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			
38	45	1区	SD2	4F20		土師器	長甕	19.0					石・長・チ	灰白(10YR8/2)	酸化	カキメ	ロクロナデ			5/36			
38	46	1区	SD2	4F20		土師器	長甕						石・長・海	明褐灰(7.5YR7/2)	酸化	平行タタキメ	ハケメ						
38	47	1区	SD2	4F15·20		須恵器	大甕						石・長・白	黄灰(2.5Y6/1)	還元	ハケメ,格子タタキメ	ハケメ,平行当て具痕,同心円当て具痕						
38	48	1区	SD3	4F24		土師器	無台椀	13.0	5.2	3.2	25	40	石・長	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			14/36	15/36	12/36	
38	49	1区	SD3	4F19		土師器	無台椀	(13.4)					石・長	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
38	50	1区	SD3	4F19·24		須恵器	無台杯	12.6	6.8	3.1	25	54	石・長・白	灰白(7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		4/36	13/36	11/36	
38	51	1区	SD3	4F19		須恵器	無台杯	11.8	7.0	2.9	25	59	石・長・白	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		9/36	15/36	11/36	
38	52	1区	SD3	4F19		須恵器	無台杯	(13.2)					石・長・白	灰白(N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
38	53	1区	SD3	4F19		須恵器	杯蓋	(14.2)					石・長・白	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
37	54	1区	SD3	4F24		土師器	長甕	(25.0)					石・長・海・白	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	カキメ			2/36			
38	55	1区	SD3	4F19,4G7	V層	土師器	長甕	(23.0)					石・長・白	明褐灰(7.5YR7/2)	酸化	カキメ	カキメ			3/36			
38	56	1区	SD3	4F19		土師器	小甕	(12.0)					石・長・海	にぶい橙(5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
38	57	1区	SD3	4F19		土師器	小甕	(17.6)					石・長	灰褐(7.5YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
38	58	1区	SD3	4F19		須恵器	大甕						石・長	灰(10Y6/1)	還元	ハケメ,平行タタキメ	同心円当て具痕						
39	59	1区	SD3	4F19·24		須恵器	横瓶						石・長・白	灰(N6/)	還元	ハケメ,平行タタキメ	同心円当て具痕						
39	60	1区	SD3	4F24		土製品	土錘	長-4.65	幅-1.20	厚-1.10			長	灰白(10YR8/2)	酸化	指頭圧痕							重量4.60g
39	61	1区		4G4	IV層	土師器	無台椀	12.6	5.0	3.8	30	40	石・長・海	淡橙(5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	7/36	36/36	18/36	外面黒斑
39	62	1区		4F24	IV層	土師器	無台椀	15.6					石・長	淡橙(5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36			
39	63	1区		3H16	IV層	土師器	無台椀	13.6	5.7	4.6	34	42	石・長	橙(7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	33/36	12/36	

図版No.	報告書No.	出土位置 区	遺構名	グリッド	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	器高指数	底径指数	胎土	色調	焼成	手法 外面	内面	底部	回転方向	残存率 口縁部	底部	全体	備考
39	64	1区		4G8	V層	黒色土器	高台碗	14.2	5.6	5.2	37	39	石・長・角	灰白(10YR8/2)	酸化	ミガキ,ケズリ	ミガキ	糸切り後ケズリ		7/36	12/36	11/36	
39	65	1区		5F2	V層	黒色土器	高台碗		6.5				石・長	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ケズリ	ミガキ	糸切り後ケズリ			13/36		粉土
39	66	1区		4G11	V層	須恵器	高台杯	11.2	7.0	3.0	27	63	石・長・白	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		4/36	10/36	7/36	
39	67	1区		4G7-8	V層	須恵器	高台杯	12.8	8.8	3.0	23	69	石・長・白	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	13/36	26/36	19/36	
39	68	1区		5E14-22	V層	須恵器	高台杯	12.0	8.4	2.8	23	70	石・長・白	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6/36	18/36	10/36	
39	69	1区		3H16	V層	須恵器	高台杯	13.0	7.8	3.1	24	60	石・長・白	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		1/36	7/36	10/36	
39	70	1区		4G8	V層	須恵器	高台杯	11.8	7.5	3.3	28	64	石・長	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		4/36	4/36	4/36	
39	71	1区		3H15	V層	須恵器	高台杯	14.2	8.8	3.3	23	62	石・長・角	灰白(10Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		4/36	4/36	6/36	
39	72	1区		3H12	V層	須恵器	高台杯	12.6	7.0	2.8	22	56	石・長・白	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		7/36	11/36	9/36	
39	73	1区		5E14	V層	須恵器	高台杯		8.0				石・長・白	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			9/36		墨書底部外面「□」
39	74	1区		4G7-8	V層	須恵器	高台杯	13.6					石・長・白	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			10/36			
39	75	1区		3H15	V層	須恵器	高台杯		(6.2)				石・長・白	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36		
39	76	1区		4G11	V層	須恵器	杯蓋						石・長・白	灰(N6/)	還元	ロクロナデ,ケズリ	ロクロナデ						
39	77	1区		4G7	V層	須恵器	杯蓋						石・長・白	灰白(N7/)	還元	ロクロナデ,ケズリ	ロクロナデ						
39	78	1区		4G7	V層	土師器	長甕	(19.6)					石・長・雲・角	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	カキメ	カキメ			3/36			
39	79	1区		4G7	V層	土師器	長甕	(24.0)					石・長・雲	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	カキメ	カキメ			3/36			
39	80	1区		5F6	V層	土師器	長甕						石・長・雲	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ヘラナデ	ロクロナデ						
40	81	1区		3H16	V層	土師器	小甕	11.4					石・長	にぶい橙(5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			26/36			
40	82	1区		4G11	V層	土師器	小甕		7.0				石・長・白・角	灰黄褐(10YR5/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				7/36		
40	83	1区		4G11	V層	土師器	小甕	16.0					石・長・白	浅黄橙(7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ,カキメ			10/36			No.84と同一? 同一個体多数
40	84	1区		4G11	V層	土師器	小甕		7.6				石・長・白	浅黄橙(7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ,ケズリ	ロクロナデ,カキメ	ケズリ			27/36		No.83と同一?
40	85	1区		3H16	V層	土師器	小甕	13.0					石・長・チ・角	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
40	86	1区		5E19	V層	土師器	鍋	40.0					石・長・雲・角	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ			4/36			
40	87	1区		5E19	V層	土師器	鍋	(41.0)					石・長・角	灰白(10YR8/2)	酸化	カキメ,ケズリ,タタキ	ロクロナデ			2/36			粉土
40	88	1区		4F20	V層	土師器	鍋	(41.6)					石・長・チ・角	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	カキメ	カキメ			3/36			
40	89	1区		5E18	V層	土師器	甑	9.6					石・長・角	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36			
40	90	1区		5E14	V層	須恵器	長頸壺	8.6					石・長	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
40	91	1区		4G8	V層	須恵器	短頸壺						石・長	オリーブ灰(2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						
40	92	1区		5F6	V層	須恵器	短頸壺						石・長	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						
40	93	1区		4G7	V層	須恵器	短頸壺		9.3				石・長	灰白(N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		22/36		
40	94	1区		5E14	V層	須恵器	大甕						石・長・白	暗青灰(5B4/1)	還元	格子タタキメ	同心円当て具痕						
40	95	1区		3H16	V層	須恵器	大甕	30.0					石・長・白	灰(N6/)	還元	平行タタキメ	同心円当て具痕			5/36			口縁部外面波状紋
40	96	1区		3H15	V層	土製品	紡錘車	直径8.0cm					長・チ	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ナデ							重量17.54g
41	97	2区	SE4	10M23		土師器	高台碗	12.8	5.0	3.6	28	39	石・長・雲	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	33/36	28/36	
41	98	2区	SE4	10M23		土師器	高台皿		5.0				石・長	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	ケズリ	ロクロナデ	糸切り	左		11/36		
41	99	2区	SE4	10M23	上層	須恵器	高台杯	(13.2)					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
41	100	2区	SE4	10M23		土師器	長甕	(20.0)					石・長	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
41	101	2区	SE4	10M23		土師器	長甕						石・長	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕,ハケメ						
41	102	2区	SE4	10M23	上層	土師器	小甕	(11.6)					石・長・雲	淡赤橙(2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			内面スス
41	103	2区	SE4	10M23	上層	土師器	鍋						石・長・角	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	カキメ	カキメ			1/36			
41	104	2区	SE4	10M23		土師器	鍋						石・長	にぶい橙(10YR7/2)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕						
41	105	2区	SE4	10M23	下層	須恵器	大甕						石・長・白	灰(N6/)	還元	平行タタキメ,ハケメ	同心円当て具痕						
41	106	2区	SE4	10M19-22-23	下,V層	須恵器	横瓶						石・長	灰(7.5Y6/1)	還元	格子タタキメ	同心円当て具痕,ハケメ						同一有り
41	107	2区	SK5	11L13		土師器	高台碗	13.2	5.8	4.1	31	44	石・長・雲	灰白(2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	8/36	19/36	15/36	
41	108	2区	SK5	10M23,11L13-14		土師器	高台碗	12.6	4.4	4.2	33	35	石・長・雲	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	17/36	36/36	20/36	SE4
41	109	2区	SK5	11L13-14		土師器	高台碗	12.6	5.6	4.1	33	44	石・長・雲・白	にぶい橙(5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	24/36	36/36	30/36	
41	110	2区	SK5	11L13		土師器	高台碗	(13.6)					石・長	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
41	111	2区	SK5	11L13-14		土師器	高台碗	13.4					石・長	にぶい橙(5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36			
41	112	2区	SK5	11L13		土師器	高台碗	14.0					石・長	橙(7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
41	113	2区	SK5	11L13		黒色土器	高台碗		7.0				石・長	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	ケズリ	ミガキ	糸切り後ミガキ			7/36		
41	114	2区	SK5	11L13-14		須恵器	高台杯	13.0					石・長・白	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36			
41	115	2区	SK5	10M23,11L13	下層	須恵器	高台杯		6.5				石・長	灰(N8/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		23/36		転用硯 内面墨 SE4
41	116	2区	SK5	11L13-14		須恵器	杯蓋						石・長・白	灰(N8/)	還元	ロクロナデ,ケズリ	ロクロナデ						転用硯 内面墨
41	117	2区	SK5	11L14		土師器	長甕						石・長・白	にぶい橙(7.5YR6/3)	酸化	平行タタキメ	ハケメ,平行当て具痕						
41	118	2区	SK5	11L13		土師器	長甕	(26.0)					石・長・角	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	カキメ	ロクロナデ			2/36			
42	119	2区	SK5	11L13		土師器	小甕	(13.0)					石・長・角	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
42	120	2区	SK5	11L13		土師器	小甕	(13.8)					石・長・チ	にぶい橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
42	121	2区	SK5	10M23,11L13		土師器	小甕		6.6				石・長・雲	褐灰(10YR6/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右				SE4
42	122	2区	SK5	11L14		土師器	小甕		(7.0)				石・長・雲・角	にぶい橙(7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			3/36		
42	123	2区	SK5	11L13		土師器	鍋						石・長・角	にぶい橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			
42	124	2区	SK5	10M18,11L13-17	V層	土師器	鍋	(43.0)					石・長・角	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	カキメ,タタキ	ロクロナデ			2/36			
42	125	2区	SK5	11L13-14		土師器	鍋	(40.4)					石・長・雲・角	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	カキメ,ハケメ,平行タタキメ	カキメ,平行当て具痕			2/36			
42	126	2区	SK5	11L13		須恵器	大甕						石・長・白	灰(N5/)	還元	格子タタキメ,ハケメ	同心円当て具痕						
42	127	2区	SK7	11L9		土師器	高台碗		5.2				石・長	明褐灰(7.5YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			9/36		
42	128	2区	SK7	11L9		土師器	長甕						石・長・雲	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	平行タタキメ	同心円当て具痕						
42	129	2区	SK7	11L9		土師器	小甕	(11.6)					石・長・白	にぶい黄橙(7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
42	130	2区	SK7	11L9		土師器	小甕		5.0				石・長・雲	にぶい橙(7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36		
42	131	2区	SK8	11L13		土師器	長甕						石・長	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕						
42	132	2区	SD1	8P21		須恵器	高台杯	11.8					石・長	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
42	133	2区	SD1	8P21		土師器	長甕						石・長・角	灰(N5/)	酸化	平行タタキメ	同心円当て具痕,ハケメ						
42	134	2区	SD2	9O8		土師器	高台碗						石・長・チ・角	にぶい橙(10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			
42	135	2区	SD2	9O7		土師器	長甕	(18.0)					石・長	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
42	136	2区	SD3	9O16		須恵器	高台杯	(11.6)					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			

図版No.	報告No.	出土位置 区	遺構名	グリッド	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	器高指数	底径指数	胎土	色調	焼成	手法 外面	内面	底部	回転方向	残存率 口縁部	底部	全体	備考
42	137	2K		9N23	V層	土師器	高台付坏		5.8				石・長・雲・角	にぶい橙(7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		25/36		
42	138	2K		9N23	V層	土師器	高台付坏		4.8				石・長・雲	橙(7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			20/36		
42	139	2K		10M24	V層	土師器	高台付坏		5.0				石・長・白	橙(5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		30/36		
42	140	2K		10M22	V層	土師器	高台付坏		6.0				石・長・雲・白	淡橙(5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			36/36		
43	141	2K		12K16	V層	黒色土器	高台付坏	13.0					石・長・雲	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ミガキ			5/36			
43	142	2K		10M20	V層	須恵器	高台付坏	12.0					石・長	青灰(10BG6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
43	143	2K		9O12	V層	須恵器	高台付坏	(13.0)					石・長・白	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
43	144	2K		9N25	V層	須恵器	高台付坏	13.2	9.0	2.9	22	68	石・長・白	灰白(N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	7/36	21/36	26/36	新治産
43	145	2K		13J11	V層	土師器	長甕	20.2					石・長・角	灰白(10YR8/2)	酸化	カキメ	カキメ			6/36			
43	146	2K		12K9	V層	土師器	長甕	20.0					石・長・白	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	カキメ	ロクロナデ			6/36			
43	147	2K		10N11	V層	土師器	長甕	(21.4)					石・長	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	カキメ	カキメ			3/36			
43	148	2K		9O16	V層	土師器	長甕	18.0					石・長・チ	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	カキメ	ロクロナデ			4/36			
43	149	2K		9N25	V層	土師器	小甕	(16.0)					石・長・雲・角	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ,カキメ	ロクロナデ			3/36			
43	150	2K		9N25	V層	土師器	小甕	15.2					石・長・角	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
43	151	2K		13J3	V層	土師器	小甕		6.8				石・長・雲	浅黄橙(10YR8/4)	酸化	ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右		17/36		
43	152	2K		11L10-18	V層	土師器	甑	40.0					石・長・チ・白	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	カキメ	カキメ			6/36			
43	153	2K		11K25	V層	土師器	甑	(40.0)					石・長・チ・角	灰白(2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
43	154	2K		9N23	V層	土師器	甑	(42.0)					石・長・雲・角	にぶい橙(5YR7/4)	酸化	カキメ	カキメ			2/36			
43	155	2K		10M23	V層	須恵器	短頸壺						石・長・白	灰(N6/)	還元	格子タタキメ,ハケメ	同心円当て具痕						
43	156	2K		13J3	V層	須恵器	大甕						石・長・白	灰(N6/)	還元	平行タタキメ	同心円当て具痕						
44	157	3K	SK2	26R11		土師器	高台付坏	12.6	6.0	3.3	26	48	石・長	にぶい橙(5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		6/36	8/36	7/36	
44	158	3K	SK2	26R6-11		土師器	高台付坏	(13.0)					石・長・雲	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
44	159	3K	SK2	26R11		黒色土器	高台付坏	13.0					石・長	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ミガキ,ケズリ	ミガキ			4/36			
44	160	3K	SK2	26R11		黒色土器	高台付坏		(6.0)				石・長・角	黒褐(7.5YR3/1)	酸化	ロクロナデ	摩耗しているため不明	糸切り			3/36		
44	161	3K	SK2	26R6		土師器	甕						石・長・角	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕						
44	162	3K	SK18	25S7		土師器	高台付坏	(12.0)					石・長・角	にぶい橙(5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
44	163	3K	SK128	25T12		土師器	長甕						石・長・雲・角	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	平行タタキメ	ロクロナデ						
44	164	3K	SD1	27U1		土師器	高台付坏	(13.0)					石・長	橙(7.5YR6/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
44	165	3K	SD1	26Q24		土師器	長甕						石・長・雲・礫・角	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			
44	166	3K	SD1	26R17		土師器	小甕	12.0					石・長・角	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
44	167	3K	SD3	26U23		土師器	小甕		5.0				石・長	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				8/36		
44	168	3K	SD3	26U23		土師器	甕						石・長・雲	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	平行タタキメ	摩滅が著しい						
44	169	3K	SD24	25S17		土師器	小甕						石・長・雲・白	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			
44	170	3K	SD24	25S19		土師器	小甕		5.0				石・長・雲・角	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		21/36		
44	171	3K	SD24	25S19		土師器	甕						石・長・雲・角	にぶい橙(10YR7/3)	酸化	平行タタキメ	ロクロナデ						
44	172	3K	SD24	25S19		須恵器	大甕	(45.0)					石・長	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			No.173と同一　同一個体多数
44	173	3K	SD24	25S19		須恵器	大甕						石・長・白	灰(N6/)	還元	格子タタキメ	平行同心円並列当て具痕						No.172と同一
44	174	3K	SD43	25T11・16	V層	土師器	高台付坏	12.9	5.4	3.5	27	42	石・長・雲	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		5/36	5/36	5/36	
44	175	3K	SD43	25T11		黒色土器	高台付坏						石・長	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ミガキ			1/36			
45	176	3K	Pit5	26Q14		土師器	小甕	(13.2)					石・長	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
45	177	3K	Pit17	25S21		土師器	高台付坏	(14.0)					石・長・角	橙(7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
45	178	3K	Pit156	25R14		土師器	高台付坏	(14.0)					石・長・雲・角	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
45	179	3K	P96	25U13	3層	土師器	高台付坏	12.0	5.6	4.6	38	47	石・長・角	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	10/36	30/36	20/36	
45	180	3K	P96	23S6	3層	土師器	高台付坏	13.0	5.0	2.9	22	38	石・長・雲・角	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	24/36	11/36	墨書体部外面横位「□」
45	181	3K	P96	24S11・12・16	1-3層	土師器	高台付坏	14.0					石・長・角	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ケズリ	ロクロナデ			19/36			
45	182	3K	P96	24R25	3層	土師器	高台付坏	13.0					石・長	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			9/36			
45	183	3K	P96	23S1・7	3層	土師器	高台付坏	12.0	6.0	3.0	25	50	石・長・雲	淡橙(5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		14/36	36/36	20/36	
45	184	3K	P96	24R20	1層	土師器	高台付坏	13.0	6.0	3.7	28	46	石・長・雲	灰褐(7.5YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		4/36	11/36	7/36	
45	185	3K	P96	24S17	3層	土師器	高台付坏	12.6	6.0	3.6	29	48	石・長	橙(5YR7/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		4/36	7/36	4/36	
45	186	3K	P96	23S6	3層	土師器	高台付坏		6.4				石・長	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ケズリ	ロクロナデ	糸切り後,ケズリ			27/36		
45	187	3K	P96	23R5-10	3層	土師器	高台付坏		5.4				石・長・白	橙(5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			24/36		
46	188	3K	P96	23S21	3層	土師器	高台付坏		(6.0)				石・長・雲	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		2/36		
45	189	3K	P96	23S17・22	1-3層	黒色土器	高台付坏	16.0					石・長・雲	明褐灰(7.5YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ミガキ			4/36			
45	190	3K	P96	24R20	1層	黒色土器	高台付坏		4.2				石・長	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ケズリ	ミガキ	糸切り後ミガキ			9/36		
45	191	3K	P96	24R25	1層	土師器	長甕						石・長	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			
45	192	3K	P96	23R5-10	3層	土師器	長甕	18.0					石・長・雲・礫・白	橙(5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			12/36			
45	193	3K	P96	23S21,24S9	3層	土師器	長甕						石・長	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	平行タタキメ	指頭圧痕						
45	194	3K	P96	24R20,24S21	1-3層	土師器	小甕		5.8				石・長・雲	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			31/36		
45	195	3K	P96	23S1	3層	土師器	小甕		5.0				石・長・雲	にぶい黄橙(7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		32/36		
45	196	3K	P96	26R20,24S21	1-3層	土師器	小甕		5.5				石・長・角	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		23/36		
45	197	3K	P96	23S6	3層	土師器	甕						石・長	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			
45	198	3K	P96	24R24	1層	土師器	甑	(38.0)					石・長・雲	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
45	199	3K	P96	23S6・23R5	3層	土師器	甑	(42.0)					石・長・雲・角	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ			3/36			
46	200	3K	P96	24S18		須恵器	大甕						石・長・白	灰(N4/)	還元	ハケメ,格子タタキメ	平行同心円並列当て具痕						
46	201	3K	P96	23R21,23S1	3層	須恵器	大甕						石・長・白	灰(10Y5/1)	還元	平行タタキメ,ハケメ	同心円当て具痕,ハケメ						
46	202	3K	P96	24R20,24S1-3	1-3層	須恵器	短頸壺	10.8					石・長・白	灰(N6/)	還元	平行タタキメ,カキメ,ハケメ	同心円当て具痕			15/36			
46	203	3K	P96	23R5・10	3層	須恵器	長頸瓶	20.4					石・長・白	灰白(10Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36			
46	204	3K	P96	22R5,23R10	3-V層	須恵器	長頸瓶						石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						
46	205	3K	P96	23R10,23S10・11	3層	須恵器	長頸瓶						石・長	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						
46	206	3K	P96	23S14,23R5・10,23S1	1-3-V層	須恵器	甕		13.0				石・長・白	灰白(5YR7/1)	還元	カキメ,ケズリ	カキメ,ハケメ				18/36		
46	207	3K		22S12	V層	土師器	高台付坏	12.0	6.0	4.1	34	50	石・長・雲・角	にぶい橙(7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	25/36	24/36	24/36	
46	208	3K		22R20	V層	土師器	高台付坏	12.0	4.8	4.0	33	40	石・長・白	橙(2.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		14/36	11/36	12/36	
46	209	3K		25S21	V層	土師器	高台付坏	11.4					石・長・角	浅黄橙(10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36			

図版No.	報告書No.	出土位置 区	遺構名	グリッド	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	器高指数	底径指数	胎土	色調	焼成	手法 外面	内面	底部	回転方向	残存率 口縁部	底部	全体	備考
47	210	3区		26S2	V層	土師器	無台椀	11.4	5.0	3.2	28	44	石・長	褐灰(7.5YR4/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	24/36	36/36	34/36	内外面スス
47	211	3区		26T9	V層	土師器	無台椀		5.6				石・長・雲・角	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			22/36		
47	212	3区		25S16	V層	黒色土器	無台椀	12.4	5.2	4.4	35	42	石・長・雲	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ミガキ	糸切り後ミガキ		20/36	23/36	15/36	
47	213	3区		26T10	V層	黒色土器	無台椀	14.0					石・長・雲	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ミガキ			6/36			
47	214	3区		26U13	V層	黒色土器	無台椀		6.4				石・長・雲・角	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ミガキ	糸切り			23/36		
47	215	3区		25V15	V層	土師器	長甕	22.0					石・長	浅黄橙(10YR8/4)	酸化	カキメ	カキメ			4/36			
47	216	3区		25U7	V層	土師器	長甕	(18.8)					石・長・雲	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
47	217	3区		25S11	V層	土師器	小甕	(15.2)					石・長・白	橙(5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
47	218	3区		26R22	V層	土師器	小甕						石・長・雲・角	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			
47	219	3区		26P9	V層	土師器	小甕						石・長	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			
47	220	3区		25R25	V層	土師器	小甕						石・長・雲・雲	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						
47	221	3区		25S11	V層	土師器	小甕		6.0				石・長・白	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		8/36		
47	222	3区		24R25	V層	土師器	甕						石・長・雲	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			
47	223	3区		25S21	V層	土師器	甕	(42.0)					石・長・雲・角	灰黄(7.5YR8/2)	酸化	カキメ	カキメ			2/36			
47	224	3区		26U14	V層	土師器	甕	(40.0)					石・長・白	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			
47	225	3区		26T18	V層	土師器	甕	(40.0)					石・長・雲・雲	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	カキメ、ケズリ	ロクロナデ			2/36			内面スス
47	226	3区		27Q3	V層	土師器	甕	(40.0)					石・長・雲・角	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
48	227	3区		26R2	V層	土師器	甕	40.6					石・長・チ	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	カキメ	ロクロナデ			5/36			
48	228	3区		27Q9	V層	土師器	甕	(39.2)					石・長・チ	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	カキメ	ロクロナデ			2/36			
48	229	[illegible]	360T			土師器	無台椀	(14.0)					石・長・白	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
48	230	[illegible]	360T			土師器	無台椀		6.0				石・長	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		7/36		
48	231	[illegible]	360T			須恵器	無台杯	12.3	8.0	3.0	24	65	石・長	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	3/36	11/36	7/36	
48	232	[illegible]	360T			須恵器	有台杯	13.8					石・長	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36			
48	233	[illegible]	360T			須恵器	[illegible]	12.0					石・長	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36			
48	234	[illegible]	360T			土師器	長甕	20.6					石・長・雲・白	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	カキメ	カキメ			5/36			
48	235	[illegible]	360T			土師器	小甕	(12.2)					石・長・チ	にぶい橙(7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			内外面スス
48	236	[illegible]	360T			土師器	小甕		5.6				石・長	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				18/36		
48	237	[illegible]	360T			土師器	甕						石・長	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						
48	238	[illegible]	360T			須恵器	大甕						石・長	灰(N4/)	還元	平行タタキメ	同心円当て具痕						
48	239	[illegible]	17T			灰釉陶器	皿	12.2					石・長	灰白(7.5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36			
48	240	[illegible]				須恵器	無台杯	11.5	7.2	2.8	24	63	石・長・雲・白	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	22/36	6/36	8/36	墨書底部外面「千」
48	241	[illegible]				須恵器	無台杯		8.8				石・長・白	灰白(5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		12/36		[illegible]
48	242	[illegible]				須恵器	無台杯		6.7				石・長・白	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		16/36		[illegible]
49	243a	[illegible]	3T			須恵器	長甕	47.8					石・長	灰(5Y8/1)	還元	カキメ、ハケメ、平行タタキメ	カキメ、ハケメ、同心円当て具痕			7/36			新津産
49	243b	[illegible]	3T			須恵器	長甕(取手)						石・長	灰(5Y8/1)	還元	手捏ね	手捏ね						新津産

別表3　沖ノ羽遺跡石製品、鉄製品・鍛冶関連遺物観察表

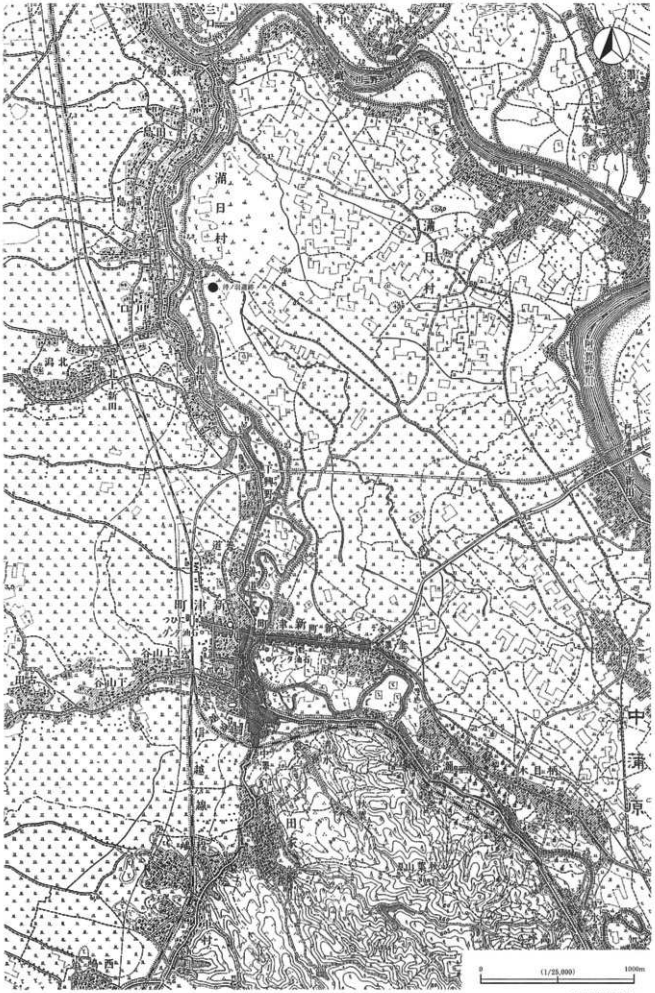
図版No.	報告書No.	出土位置 区	遺構名	グリッド	層位	時代	器種	石材	法量 長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
50	1	1区	SD1	4G-3		古代	砥石	緑色凝灰岩	83.40	55.50	42.30	232.51	
50	2	1区	SD2	4F-20		古代	軽石製石製品	軽石	34.85	52.55	22.90	13.37	
50	3	1区		5F-2	包含層	古代	砥石	緑色凝灰岩	106.30	78.50	57.40	301.57	
50	4	1区		4G-7	包含層	古代	軽石製石製品	軽石	52.75	40.30	28.10	20.87	
50	5	1区		4G-8	包含層	古代	軽石製石製品	軽石	34.55	36.60	13.40	5.32	
50	6	1区		4G-11	包含層	古代	砥石	凝灰岩	73.10	86.40	61.20	304.24	
50	7	2区	SK5	11L-13		古代	砥石	凝灰岩	83.35	57.15	51.80	211.12	
50	8	2区	SK5	11L-13		古代	砥石	凝灰岩	115.15	74.45	28.70	295.32	
50	9	2区	SK5	11L-13		古代	軽石製石製品	軽石	37.85	25.70	20.65	7.89	
50	10	3区	P596	24S-6	3層	古代	軽石製石製品	軽石	37.60	39.50	21.60	7.58	
50	11	3区	SD133	23S-19		古代	砥石	緑色凝灰岩	88.40	33.70	24.05	65.59	
50	12	3区		25S-17	包含層	古代	砥石	緑色凝灰岩	54.50	36.30	17.80	39.78	
50	13	3区	P596	24R-20	1層	古代	軽石製石製品	軽石	79.10	34.15	31.30	42.35	
51	14	3区	P596	25U-7	3層	古代	軽石製石製品	軽石	56.60	48.05	44.35	40.04	
51	15	3区		25S-17	包含層	古代	砥石	砂岩	134.80	118.90	79.30	1838.17	
51	16	3区		26S-6	包含層	古代	砥石	凝灰岩	83.90	48.60	33.65	184.10	
51	17	3区	P595	23R-5	1層	古代	砥石	凝灰岩	98.85	63.95	53.30	543.63	
51	18	3区	P595	24S-21	3層	古代	軽石製石製品	軽石	148.80	117.50	61.70	471.08	
51	19	3区		26R-2	包含層	古代	軽石製石製品	軽石	49.35	38.50	24.30	12.74	
51	20	3区		25V-6	包含層	古代	不明鉄製品		42.60	55.40	10.65	29.99	
51	21	3区		26V-6	包含層	古代	不明鉄製品		30.05	25.80	5.10	5.26	
51	22	3区		26S-21	包含層	古代	椀形滓		73.00	98.50	45.60	349.09	
51	23	3区		26U-23	包含層	古代	椀形滓		68.10	80.70	35.60	349.12	
51	24	3区	SD24	26U-2		古代	鉄滓		31.80	37.90	28.70	18.33	
51	25	3区		25R-25	包含層	古代	鉄滓		19.30	33.80	13.50	7.22	
51	26	3区	SD24	26U-2		古代	鉄滓		21.10	45.30	23.20	21.26	

別表4　沖ノ羽遺跡遺構出土古代土器器種構成率

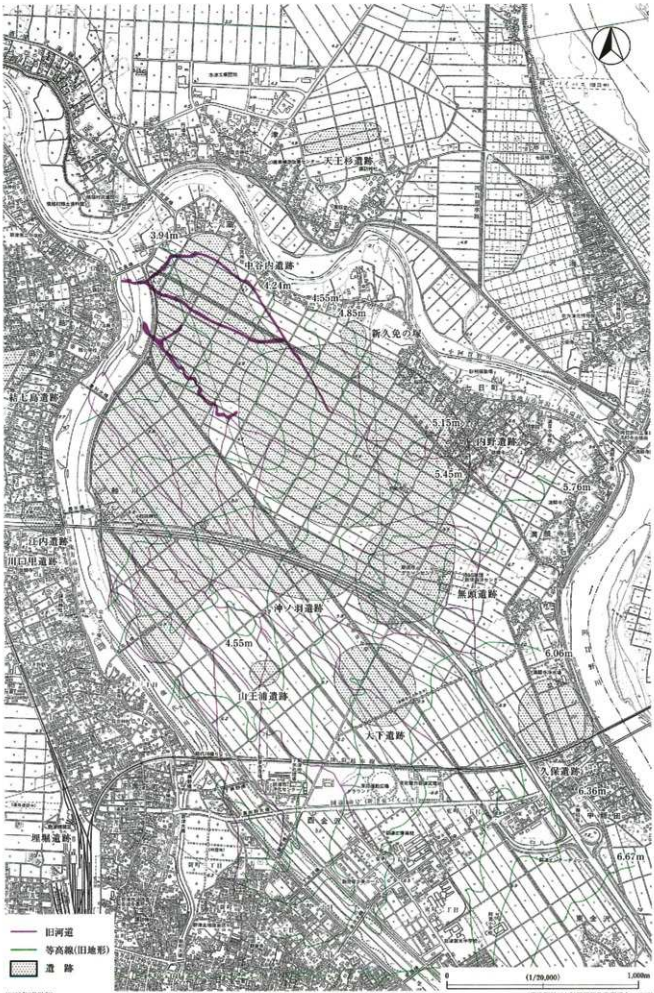
1　平安時代の遺構から出土した土器（土師器・黒色土器・須恵器）の構成比率を示した表である。
2　土器の計測法は口縁部残存率法（宇野1992、春日1994）とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
3　口縁・底部残存率によって得られた数値は"/36を示し、それぞれ口残値・底残値と略記した。

遺構名		計測法	食膳具 土師器 無台碗	食膳具 土師器 有台碗	食膳具 黒色土器 無台碗	食膳具 須恵器 無台杯	食膳具 須恵器 有台杯	食膳具 須恵器 杯蓋	煮炊具 土師器 長甕	煮炊具 土師器 小甕	煮炊具 土師器 鍋	貯蔵具 須恵器 大甕	貯蔵具 須恵器 長頸瓶	貯蔵具 須恵器 短頸壺	貯蔵具 須恵器 長頸壺	貯蔵具 須恵器 横瓶	貯蔵具 須恵器 鉢	合計
1区	SX4	口残値	0.35 31.25%			0.36 32.14%		0.06 5.36%	0.06 5.36%	0.25 22.32%	0.04 3.57%							1.12 100%
		口縁数(点)	7 33.33%			4 19.05%		1 4.76%	2 9.52%	5 23.81%	2 9.52%							21 100%
		底残値	0.79 27.05%			0.56 19.18%				1.26 43.15%			0.31 10.62%					2.92 100%
		底部数(点)	5 31.25%			4 25.00%				6 37.50%			1 6.25%					16 100%
		破片数(点)	89 35.74%		1 0.40%	11 4.42%		1 0.40%	83 33.33%	60 24.10%	4 1.61%		1 0.40%					249 100%
		重量(g)	171 11.59%		1 0.07%	70 4.74%		21 1.42%	647 43.86%	371 25.15%	119 8.07%		76 5.15%					1,475 100%
1区	SK5	口残値				0.11 78.57%			0.03 21.43%									0.14 100%
		口縁数(点)				2 66.67%			1 33.33%									3 100%
		底残値																
		底部数(点)																
		破片数(点)				3 20.00%			9 60.00%	2 13.33%	1 6.67%							15 100%
		重量(g)				10 5.29%			108 57.14%	6 3.17%	65 34.39%							189 100%
1区	SD1	口残値	1.60 [illegible]		0.84 [illegible]	0.42 [illegible]			0.05 [illegible]	0.17 [illegible]	0.05 [illegible]							[illegible] 100%
		口縁数(点)	19 38%		13 26%	5 10%			1 2%	1 2%	1 2%							50 100%
		底残値	4.53 [illegible]		2.55 [illegible]	1.36 14.47%				0.67 7.13%								9.41 100%
		底部数(点)	14 45.16%		8 25.81%	6 19.35%				3 9.68%								31 100%
		破片数(点)	103 44.02%		36 15.38%	15 6.41%			45 19.23%	19 8.12%	4 1.71%	12 5.13%						234 100%
		重量(g)	389 [illegible]		186 7.76%	145 5.99%			554 [illegible]	81 3.35%	229 9.46%	813 [illegible]						2,421 100%
1区	SD2	口残値	0.51 75.00%			0.06 8.82%			0.11 16.18%									0.68 100%
		口縁数(点)	14 82.35%			2 11.76%			1 5.88%									17 100%
		底残値	0.89 66.92%			0.44 33.08%												1.33 100%
		底部数(点)	4 57.14%			3 42.86%												7 100%
		破片数(点)	57 44.53%			6 4.69%			57 44.53%	1 0.78%	1 0.78%	6 4.69%			1 0.78%			128 100%
		重量(g)	116 [illegible]			39 [illegible]			407 [illegible]	5 0.66%	23 3.05%	141 [illegible]			13 1.72%			755 100%
1区	SD5	口残値	0.69 55.20%			0.31 24.80%		0.06 4.80%	0.08 6.40%	0.11 8.80%								1.25 100%
		口縁数(点)	7 35%			3 15%		1 5%	1 5%	8 40%								20 100%
		底残値	1.94 59.33%			1.33 40.67%												3.27 100%
		底部数(点)	7 46.67%			8 53.33%												15 100%
		破片数(点)	27 21.95%		6 4.88%	14 11.38%		1 0.81%	50 40.65%	22 17.89%		2 1.63%				1 0.81%		123 100%
		重量(g)	127 15.36%		10 1.21%	125 15.11%		2 0.24%	296 35.79%	62 7.50%		65 7.86%				140 16.93%		827 100%
2区	SE4	口残値	0.36 [illegible]			0.08 [illegible]			0.08 [illegible]	0.08 [illegible]	0.03 4.74%							0.63 100%
		口縁数(点)	6 50%			2 16.67%			1 8.33%	2 16.67%	1 8.33%							12 100%
		底残値	1.08 80.47%			0.27 19.53%												1.35 100%
		底部数(点)	4 80%			1 20.00%												5 100%
		破片数(点)	24 37.50%		2 3.13%	3 4.69%			24 37.50%	1 1.56%	4 6.25%	4 6.25%			1 1.56%	1 1.56%		64 100%
		重量(g)	139 19.09%		2 [illegible]	14 2.06%			263 [illegible]	12 [illegible]	121 [illegible]	241 [illegible]			10 [illegible]	24 [illegible]		728 100%
2区	SK7	口残値								0.06 100%								0.06 100%
		口縁数(点)								1 100%								1 100%
		底残値	0.33 61.11%							0.21 38.89%								0.54 100%
		底部数(点)	2 66.67%							1 33.33%								3 100%
		破片数(点)	8 53.33%						1 6.67%	6 40%								15 100%
		重量(g)	28 59.57%						6 12.77%	13 27.66%								47 100%
2区	SK5	口残値	2.47 [illegible]		0.02 0.71%	0.15 [illegible]			0.17 [illegible]	0.18 [illegible]	0.11 [illegible]							[illegible] 100%
		口縁数(点)	49 80.33%		1 1.64%	2 3.28%			3 4.92%	4 6.56%	2 3.28%							61 100%
		底残値	7.19 81.15%			0.58 [illegible]				0.31 [illegible]								8.86 100%
		底部数(点)	32 86.49%			3 8.11%				2 5.41%								37 100%
		破片数(点)	270 65.06%		1 0.24%	12 2.89%		5 1.20%	72 17.35%	16 3.86%	17 4.10%	14 3.37%			8 1.93%			415 100%
		重量(g)	1015 37.08%		2 0.07%	60 2.19%		129 4.71%	291 10.63%	77 2.81%	473 17.28%	577 21.08%			113 4.13%			2,737 100%
2区	SK8	口残値																
		口縁数(点)																
		底残値																
		底部数(点)																
		破片数(点)	7 46.67%		1 6.67%				7 46.67%									15 100%
		重量(g)	11 22%		10 20%				29 58%									50 100%
2区	SD1	口残値					0.08 100%											0.08 100%
		口縁数(点)					1 100%											1 100%
		底残値																
		底部数(点)																
		破片数(点)					1 14.29%		1 14.29%	4 57.14%				1 14.29%				7 100%
		重量(g)					5 10.64%		14 29.79%	14 29.79%				14 29.79%				47 100%
2区	SD2	口残値	0.03 27.27%						0.08 72.73%									0.11 100%
		口縁数(点)	1 50%						1 50%									2 100%
		底残値																
		底部数(点)																
		破片数(点)	2 22.22%						7 77.78%									9 100%
		重量(g)	5 13.89%						31 86.11%									36 100%
2区	SD3	口残値				0.06 100%												0.06 100%
		口縁数(点)				1 100%												1 100%
		底残値																
		底部数(点)																
		破片数(点)	3 50%			3 50%												6 100%
		重量(g)	14 60.87%			9 39.13%												23 100%
2区	Pit17	口残値																
		口縁数(点)																
		底残値																
		底部数(点)																
		破片数(点)	1 100%															1 100%
		重量(g)	1 100%															1 100%
3区	SK2	口残値	0.25 69.44%		0.11 30.56%													0.36 100%
		口縁数(点)	4 80%		1 20%													5 100%
		底残値	0.33 45.83%		0.39 54.17%													0.72 100%
		底部数(点)	3 42.86%		4 57.14%													7 100%
		破片数(点)	14 51.85%		8 29.63%						5 18.52%							27 100%
		重量(g)	80 44.20%		20 11.05%						81 44.75%							181 100%
3区	SK126	口残値																
		口縁数(点)																
		底残値																
		底部数(点)																
		破片数(点)							2 100%									2 100%
		重量(g)							32 100%									32 100%

遺構名		計測法	供膳具 土師器 無台椀	供膳具 土師器 有台椀	供膳具 黒色土器 無台椀	供膳具 須恵器 無台杯	供膳具 須恵器 有台杯	供膳具 須恵器 杯蓋	煮炊具 土師器 長甕	煮炊具 土師器 小甕	煮炊具 土師器 鍋	貯蔵具 須恵器 大甕	貯蔵具 須恵器 [illegible]	貯蔵具 須恵器 [illegible]	貯蔵具 須恵器 [illegible]	貯蔵具 須恵器 [illegible]	貯蔵具 須恵器 鉢	合計
3区	SK18	[illegible]	0.05 100%															0.05 100%
		[illegible]	1 100%															1 100%
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]	3 100%															3 100%
		[illegible]	7 100%															7 100%
3区	SE130	[illegible]			0.19 100%													0.19 100%
		[illegible]			4 100%													4 100%
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]			11 78.57%						3 21.43%							14 100%
		[illegible]			20 32.25%						42 67.74%							62 100%
3区	SD127	[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]	1 50%									1 50%						2 100%
		[illegible]	4 3.17%									110 94.83%						116 100%
3区	SD135	[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]	1 100%															1 100%
		[illegible]	1 100%															1 100%
3区	SD1	[illegible]	0.17 85%						0.03 15%									0.20 100%
		[illegible]	3 75%						1 25%									4 100%
		[illegible]	0.08 100%															0.08 100%
		[illegible]	1 100%															1 100%
		[illegible]	7 77.78%						1 11.11%	1 11.11%								9 100%
		[illegible]	16 47.37%						16 47.37%	2 5.26%								[illegible] 100%
3区	SD84	[illegible]										0.06 100%						0.06 100%
		[illegible]										1 100%						1 100%
		[illegible]	0.06 100%															0.06 100%
		[illegible]	1 100%															1 100%
		[illegible]	4 [illegible]						5 13.79%	4 [illegible]	1 [illegible]	28 [illegible]						[illegible] 100%
		[illegible]	35 [illegible]						48 1.11%	38 0.88%	117 2.71%	4,081 [illegible]						4,317 100%
3区	SD43	[illegible]	0.03 50%		0.03 50%													0.06 100%
		[illegible]	1 50%		1 50%													2 100%
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]	1 33.33%		2 66.67%													3 100%
		[illegible]	2 50%		2 50%													4 100%
3区	SD44	[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]	1 100%															1 100%
		[illegible]	1 100%															1 100%
3区	SD3	[illegible]								0.17 100%								0.17 100%
		[illegible]								1 100%								1 100%
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]	2 25%		2 25%					2 25%	1 12.50%		1 12.50%					8 100%
		[illegible]	4 [illegible]		2 [illegible]					18 [illegible]	65 [illegible]		6 [illegible]					109 100%
3区	SD139	[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]	1 100%															1 100%
		[illegible]	3 100%															3 100%
3区	[illegible]96	[illegible]	4.21 [illegible]		0.11 [illegible]	0.06 1.01%			0.44 7.43%		0.20 3.38%	0.22 3.72%	0.22 3.72%			0.36 6.08%		5.92 100%
		[illegible]	77 77.78%		1 1.01%	1 1.01%			11 11.11%		5 5.05%	1 1.01%	1 1.01%			2 2.02%		99 100%
		[illegible]	8.59 [illegible]	0.08 0.70%	0.31 2.73%	0.11 0.97%				2.11 18.56%							0.17 1.50%	11.37 100%
		[illegible]	24 [illegible]	2 4.44%	1 2.22%	1 2.22%				6 13.33%							1 [illegible]	45 100%
		[illegible]	260 [illegible]	7 1.59%	8 1.81%	8 1.81%			52 11.79%	18 4.08%	16 3.63%	19 4.31%	8 1.81%			5 1.13%	8 1.81%	441 100%
		[illegible]	[illegible]	80 1.31%	38 [illegible]	15 [illegible]			492 [illegible]	144 [illegible]	340 [illegible]	2,881 47.22%	302 [illegible]			214 [illegible]	430 [illegible]	[illegible] 100%
3区	Pit5	[illegible]								0.08 100%								0.08 100%
		[illegible]								1 100%								1 100%
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]								1 100%								1 100%
		[illegible]								2 100%								2 100%
3区	Pit17	[illegible]	0.08 100%															0.08 100%
		[illegible]	2 100%															2 100%
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]	3 100%															3 100%
		[illegible]	4 100%															4 100%
3区	Pit35	[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]	1 100%															1 100%
		[illegible]	1 100%															1 100%
3区	Pit155	[illegible]	0.05 100%															0.05 100%
		[illegible]	1 100%															1 100%
		[illegible]																
		[illegible]																
		[illegible]	1 100%															1 100%
		[illegible]	4 100%															4 100%


湖日村
湖日村
町津
中浦原
0
(1/25,000)
1000m
大日本帝国陸地測量部
明治四十四年測図

遺跡周辺の旧地割図(1/10,000)

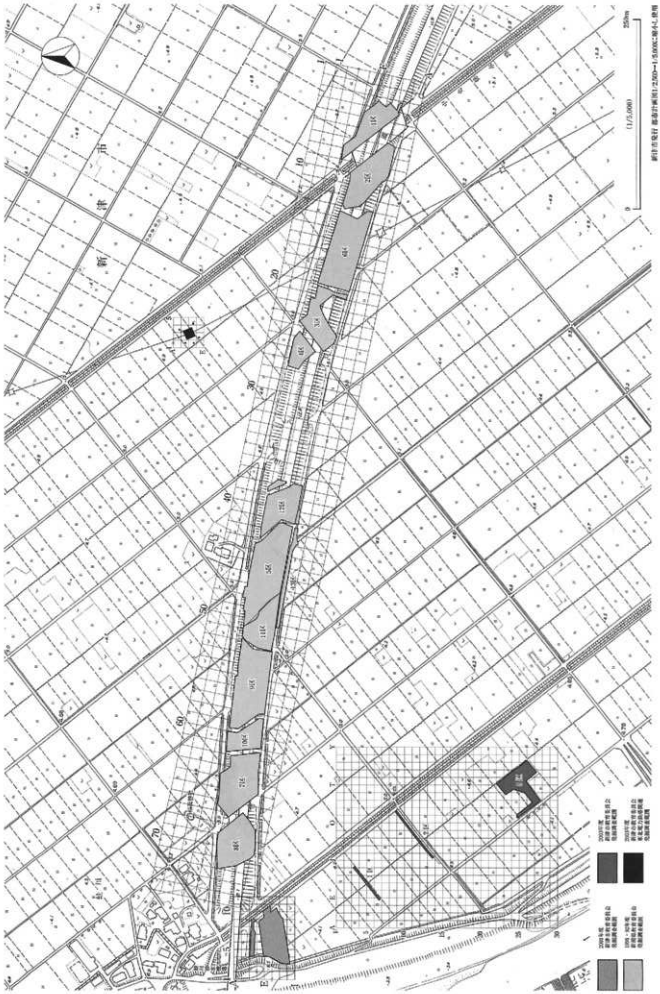


(2005年2月現在)

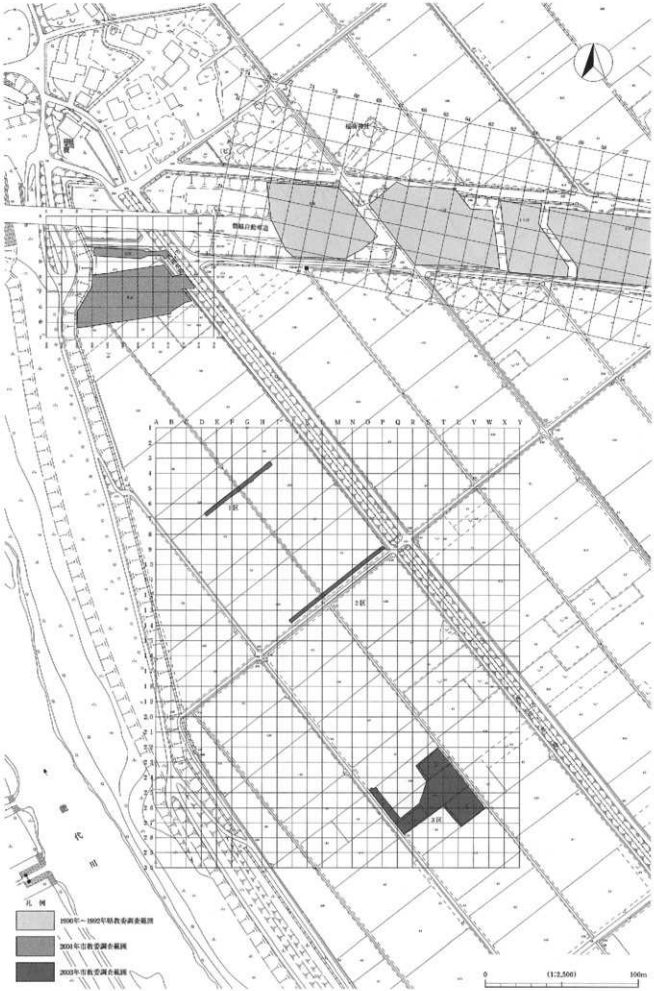
(新津町外二ヶ村間排水整理組合　1922)
(新津町東部整理組合　1940)
(小池ほか　1994)から作成

満日ほ場整備事業に伴う試掘・確認調査位置図(1/12,500)

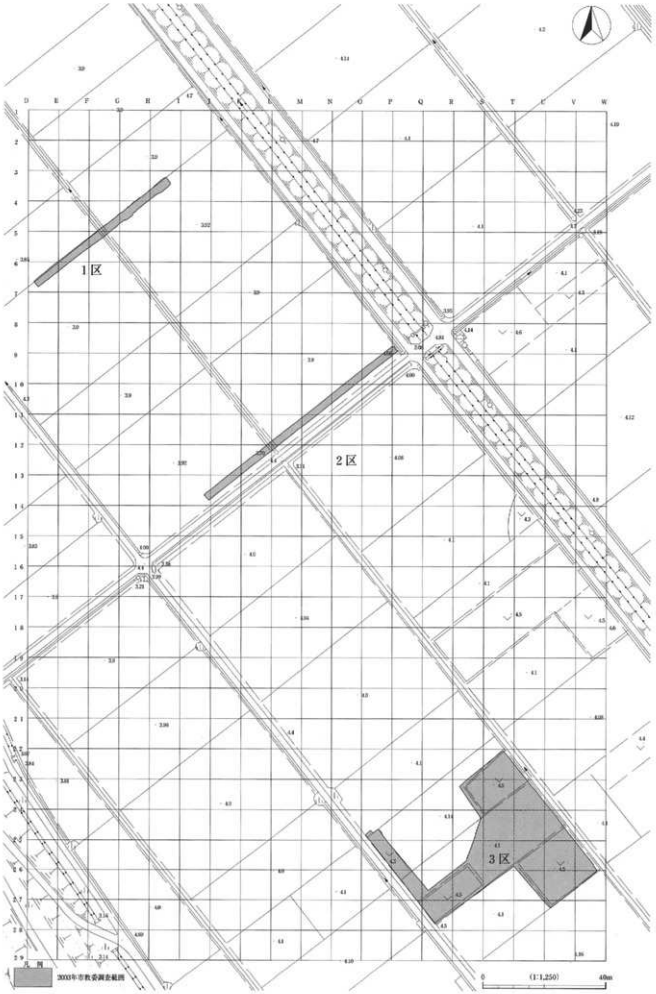
沖ノ羽遺跡調査区とグリッド設定図（1）（1/5,000）



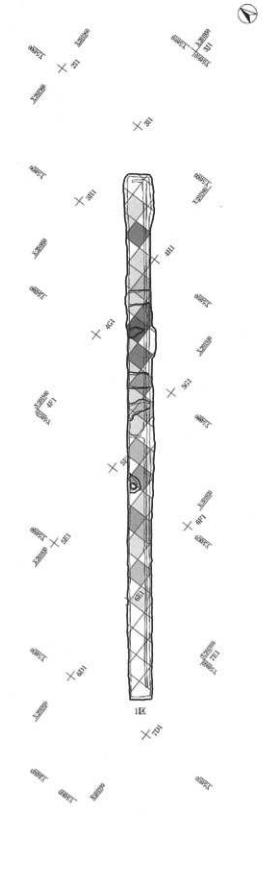
沖ノ羽遺跡調査区とグリッド設定図（2）（1/2,500）

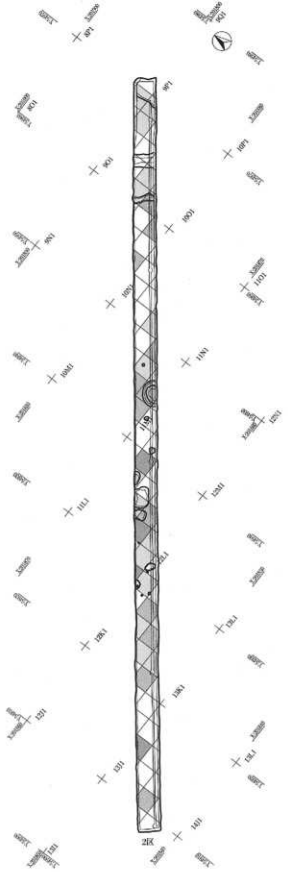


沖ノ羽遺跡調査区とグリッド設定図(3)(1/1,250)



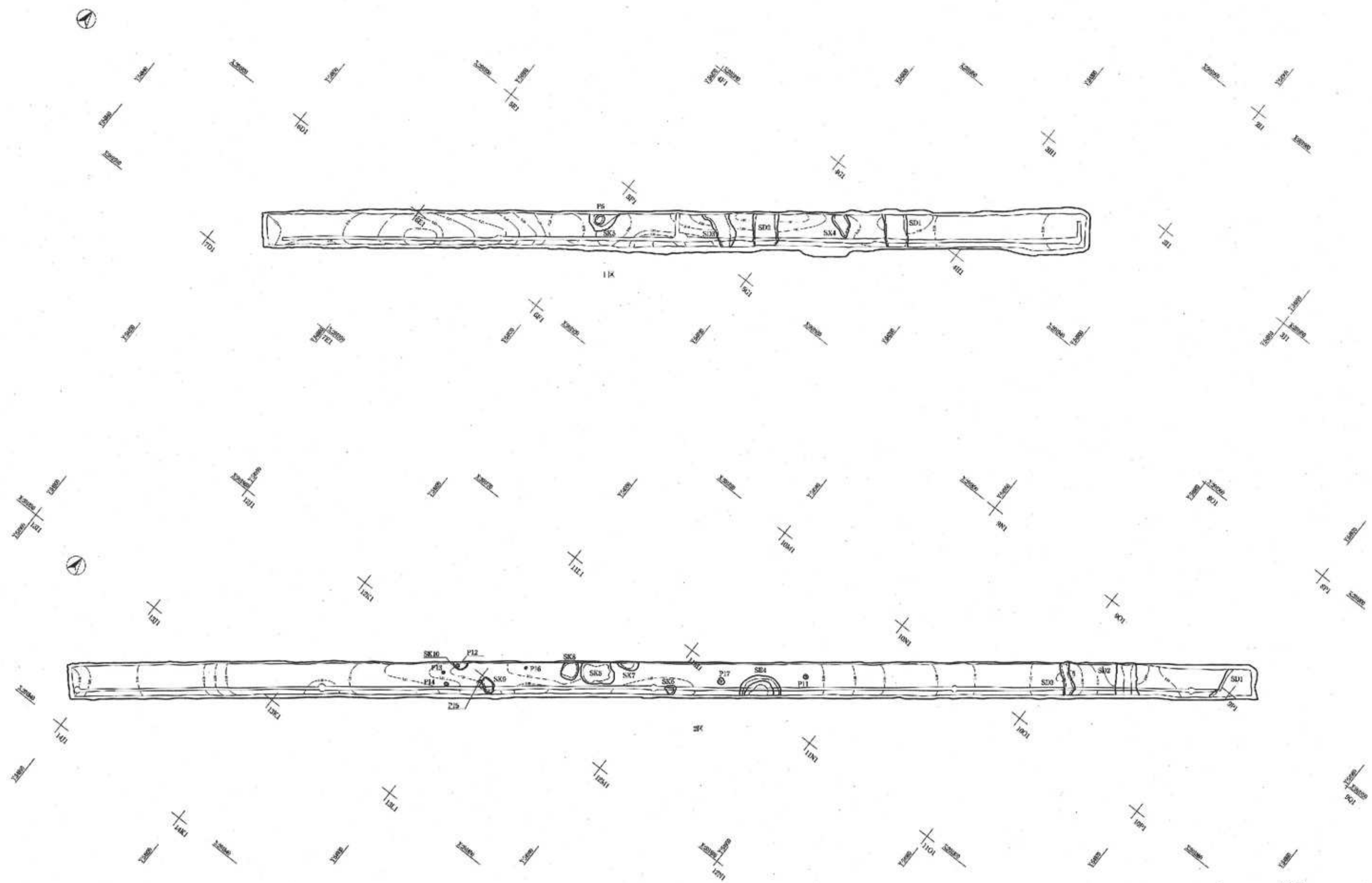
沖ノ羽遺跡1・2区包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図

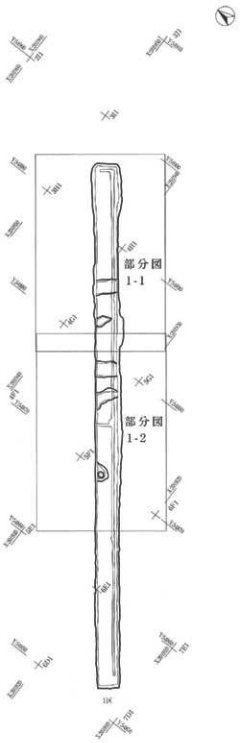


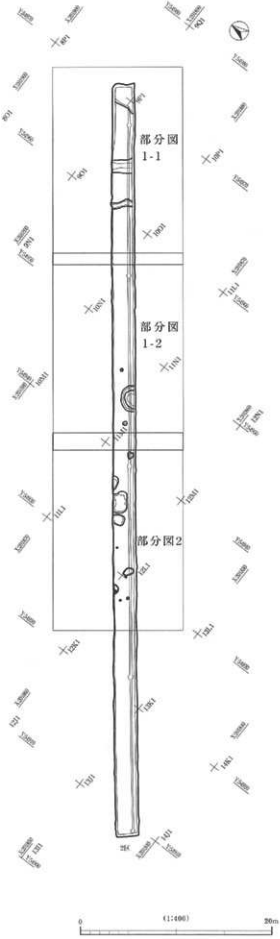


1 ～ 100g
101 ～ 500g
501 ～ 1,000g
1,000～ g

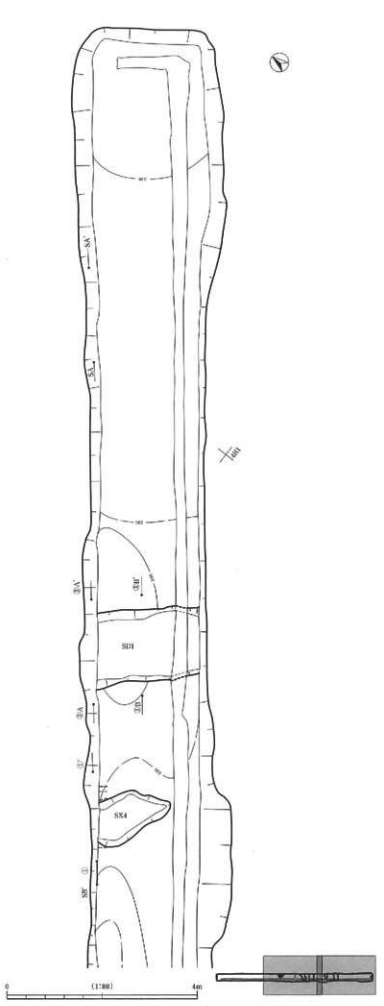
0 (1:400) 20m

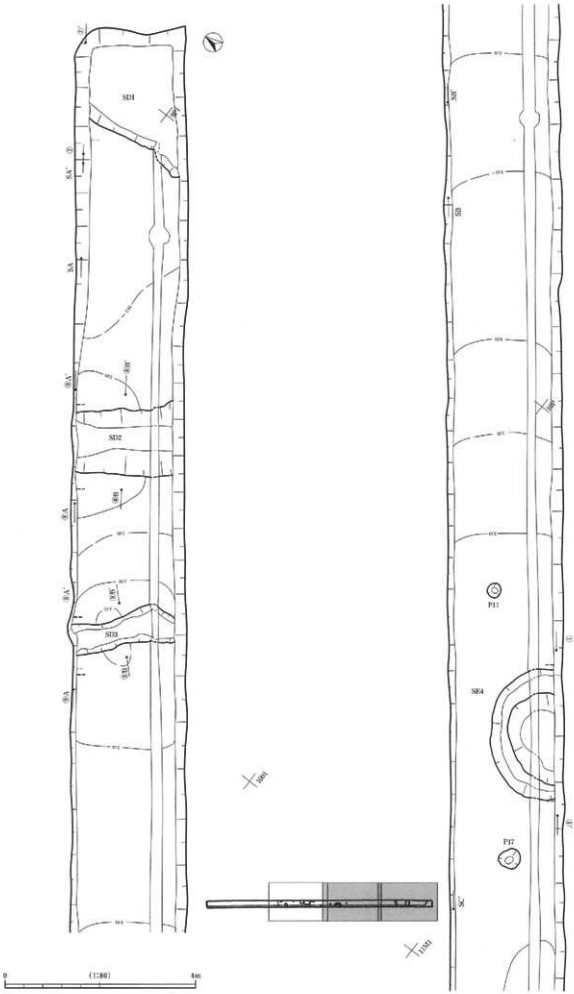

P5
SK3
SX4
SD1
1区
SK10
P12
P13
P14
P16
SK8
SK5
SX7
SK9
P15
P17
SE4
P11
2区
SD3
SD2
SD1
0
(1:250)
10m


部分図
1-1
部分図
1-2

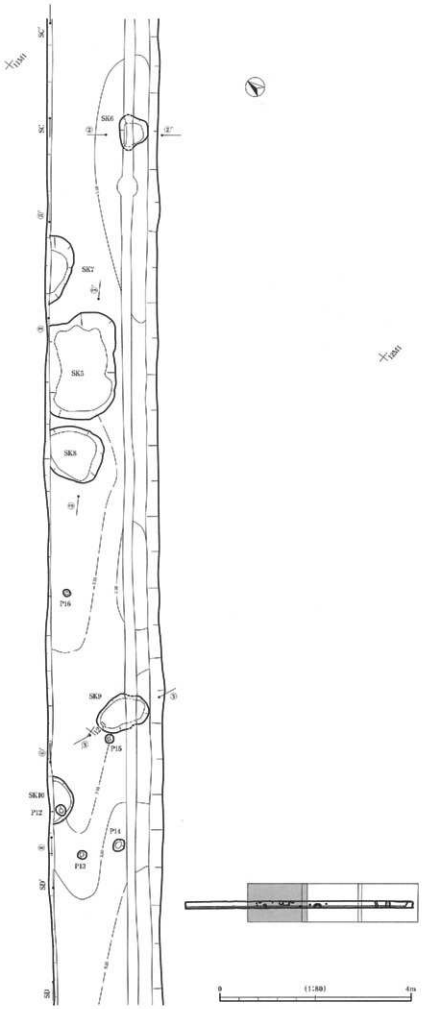

部分図
1-1
部分図
1-2
部分図2
0
(1:400)
20m

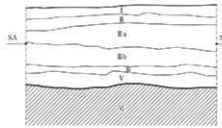
沖ノ羽遺跡1区遺構平面図(1/80)

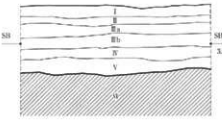


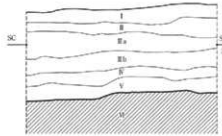

SD1
SD2
SD3
SA
SB
SC
SK
PI1
PI7
SB4
0
(1:80)
4m

沖ノ羽遺跡2区遺構平面図2（1/80）



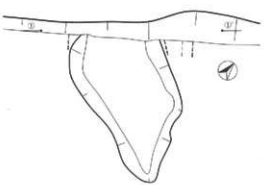


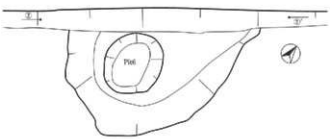


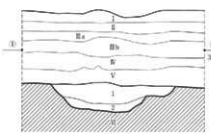


1区基本層序

I 暗 褐 色 土 (10YR3/3) シルト質、粘性あり、しまりややあり、炭土。
II 黒 灰 色 土 (10YR4/2) シルト質、粘性あり、しまりあり、水田床土。
IIa にぶい黄褐色土 (10YR4/3) シルト質、粘性あり、しまり強くあり、鉱鉄起少量付着する。
IIb 暗 褐 色 土 (10YR3/3) 砂質土質、粘性やや強い、しまり強くあり、砂が多く入る。
IV 黄 灰 色 土 (2.5YR4/1) シルト質、粘性強くあり、しまりあり、鉱鉄起少量付着する。
V オリーブ黒土 (5YR3/1) シルト質、粘性強くあり、しまりあり、礫粒径小様、黒鉱起炭化物が多く入る。
VI 灰 色 土 (7.5YR4/1) シルト質、粘性あり、しまりあり、砂質土が少量入る。

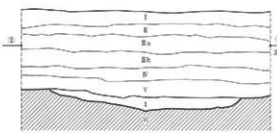






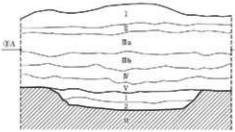
1区SX4

1区 SX4 覆土
1 灰 色 土 (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。
2 オリーブ黒土 (7.5Y3/1) 粘性あり、しまり強くあり。

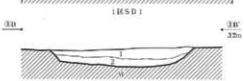


1区SK5

1区SK5 覆土
1 黒 褐 色 土 (10YR3/1) シルト質、粘性あり、しまりあり、炭化物を多く含む。



1区SD1

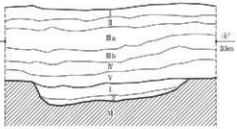


1区SD1

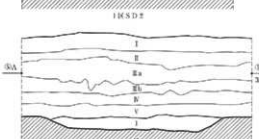
1区SD1 覆土
1 黒 色 土 (5Y2/1) シルト質、粘性あり、しまりやや弱い。
2 オリーブ黒土 (5Y3/1) シルト質、粘性あり、しまりやや弱い、砂質土が少量入る。

1区SD2 覆土
1 黄 褐 色 土 (2.5Y4/1) シルト質、粘性あり、しまりあり、炭化物が少量入る。
2 黒 褐 色 土 (2.5Y3/1) シルト質、粘性あり、しまりあり。

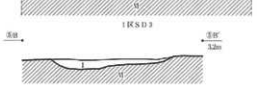
1区SD3 覆土
1 オリーブ黒土 (7.5Y3/1) シルト質、粘性あり、しまりあり、炭化物が僅少量入る。



1区SD2



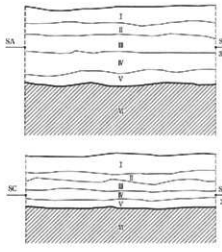
1区SD3

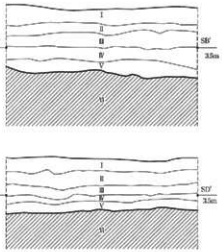


1区SD3

0 (1:40) 2m

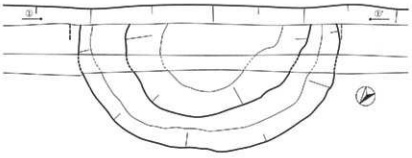
沖ノ羽遺跡2区基本層序実測図(1/40)
沖ノ羽遺跡2区SE4、SK6. 7. 9、Pit15実測図(1/40)

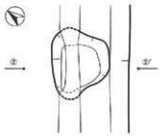


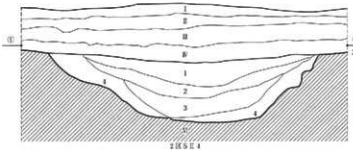


2区基本層序

I 現表層粗粒土 (2.5Y4/2) シルト層。粘性ややあり、しまりややあり。表土。
II 黄 灰 色 土 (2.5Y4/1) シルト層。粘性ややあり、しまりあり。床土。
III オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) シルト層。粘性あり、しまりあり。鉄鉱紋が少量入る。
IV 灰 色 土 (5Y4/1) シルト層。粘性あり、しまりあり。
V 黒 褐 色 土 (2.5Y3/1) シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が極少量入る。遺物混合層。
VI 灰 褐 色 土 (5Y4/2) シルト層。粘性ややあり、しまりあり。砂質土が少量入る。

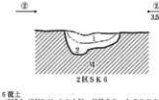






2区SE4 注記

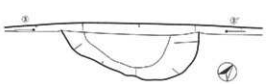
1 灰 色 土 (7.5Y4/1) シルト層。粘性あり、しまりあり。
2 オリーブ灰色土 (7.5Y3/2) シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が少量入る。
3 黒 色 土 (7.5Y2/1) シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が多く入る。
4 オリーブ灰色土 (7.5Y3/2) シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が少量入る。

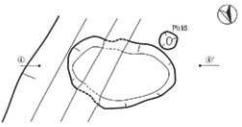


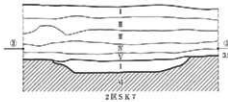
2区SK6

2区SK6 埋土

1 オリーブ灰色土 (5Y3/1) シルト層。粘性あり、しまりややあり。
炭化物が少量入る。
2 灰 色 土 (5Y4/1) シルト層。粘性ややあり、しまりややあり。
砂質土が多く入る。





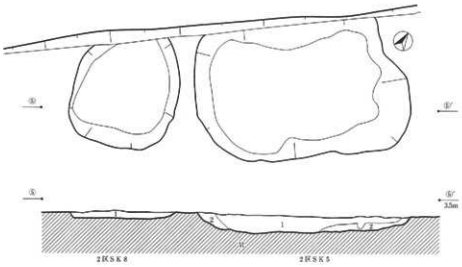


2区SK7 埋土

1 暗褐黄色土 (2.5Y4/3) シルト層。粘性あり、しまりややあり。炭化物が極少量入る。

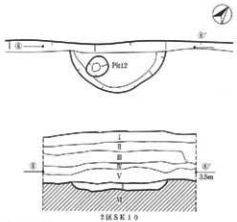
2区SK9 埋土

1 暗褐黄色土 (2.5Y4/3) シルト層。粘性あり、しまりややあり。炭化物が極少量入る。

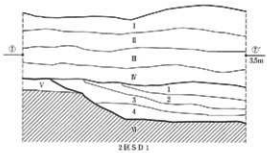


2区SK8覆土
1　暗灰黄色土（2.5Y4/2）シルト層。粘性あり。しまりややあり。炭化物が極少量入る。

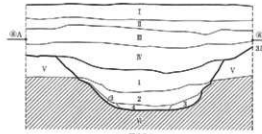
2区SK5覆土
1　オリーブ黒色土（5Y3/1）シルト層。粘性ややあり。しまりややあり。炭化物が多く入る。遺物が多く入る。
2　暗オリーブ色土（5Y4/3）シルト層。粘性あり。しまりあり。

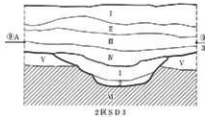


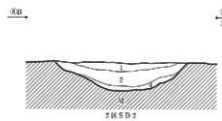
2区SK10覆土
1　暗灰黄色土（2.5Y4/2）シルト層。粘性あり。しまりややあり。炭化物が極少量入る。

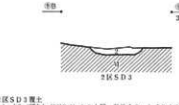


2区SD1覆土
1　暗オリーブ色土　（5Y4/2）シルト層。粘性あり。しまりあり。
2　オリーブ黒色土（5Y3/1）シルト層。粘性ややあり。しまりあり。炭化物が少量入る。
3　暗オリーブ色土（5Y4/3）シルト層。粘性あり。しまりあり。
4　灰　色　土（7.5Y4/1）シルト層。粘性強くあり。しまりあり。



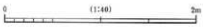




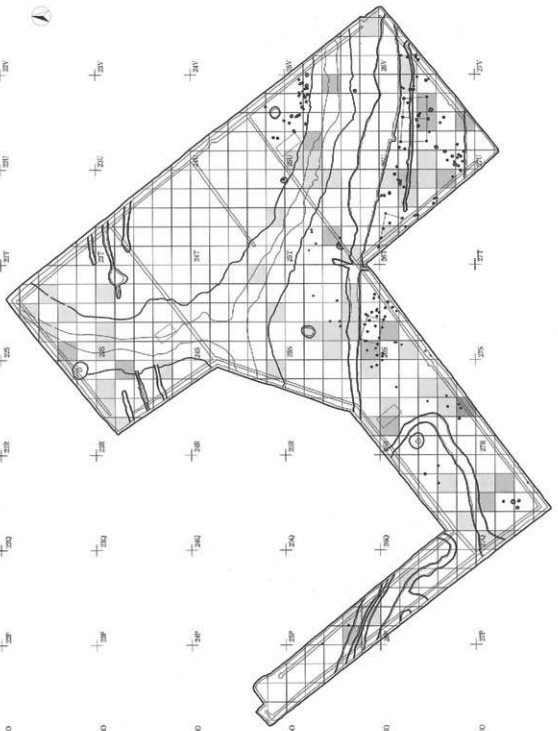


2区SD2覆土
1　灰　色　土（5Y4/1）シルト層。粘性あり。しまりややあり。
2　灰　色　土（5Y3/1）シルト層。粘性あり。しまりややあり。炭化物を多く含む。Ⅳ層土が入る。
3　オリーブ黒色土（5Y3/1）シルト層。粘性あり。しまりややあり。炭化物が少量入る。
4　オリーブ黒色土（5Y3/2）シルト層。粘性あり。しまりややあり。炭化物を多く含む。

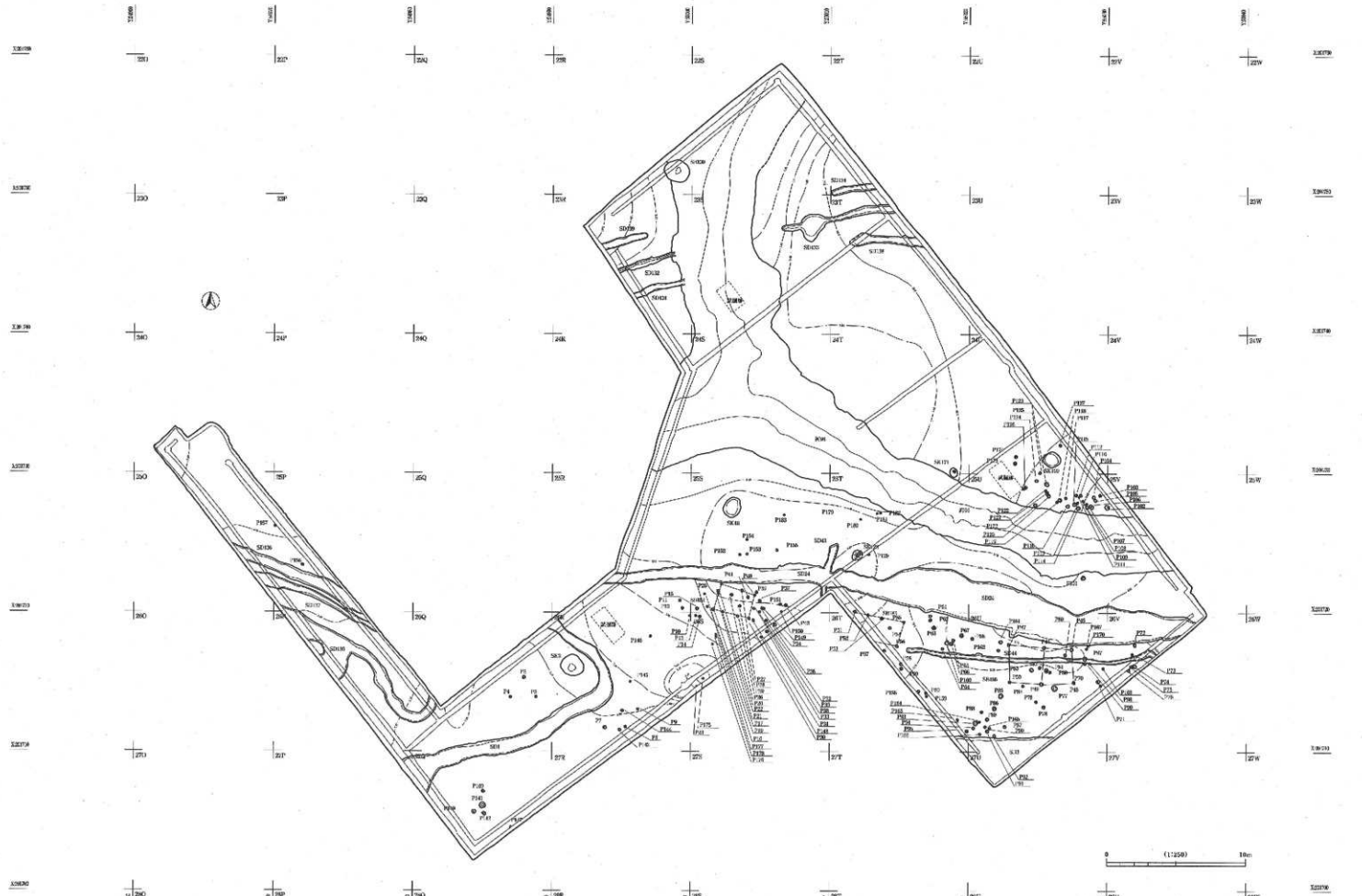
2区SD3覆土
1　オリーブ黒色土（5Y3/1）シルト層。粘性あり。しまりややあり。炭化物が少量入る。
2　黒　色　土（5Y2/1）シルト層。粘性あり。しまりややあり。炭化物を多く含む。



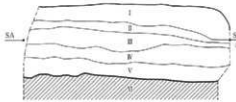
沖ノ羽遺跡3区包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図(1/400)

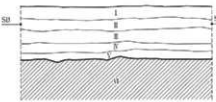


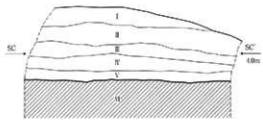
沖ノ羽遺跡3区遺構平面図(1/250)

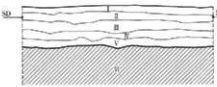


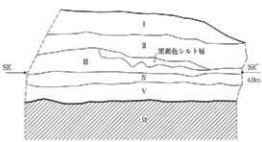
沖ノ羽遺跡3区基本層序実測図（1/40）
沖ノ羽遺跡小グリッド設定模式図

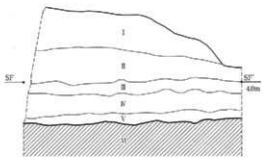




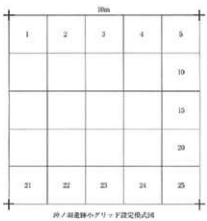






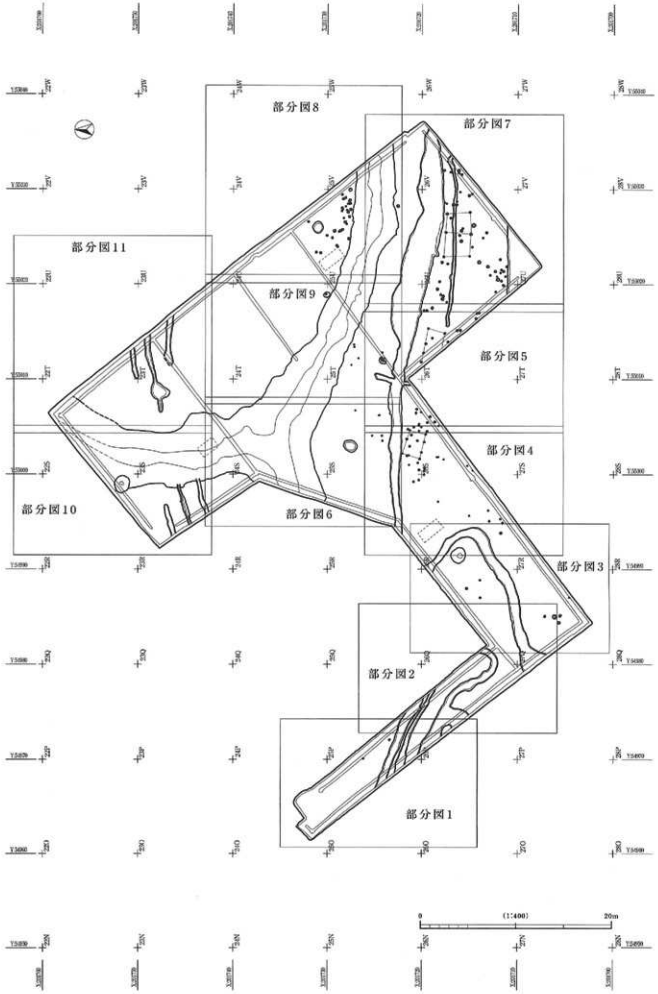


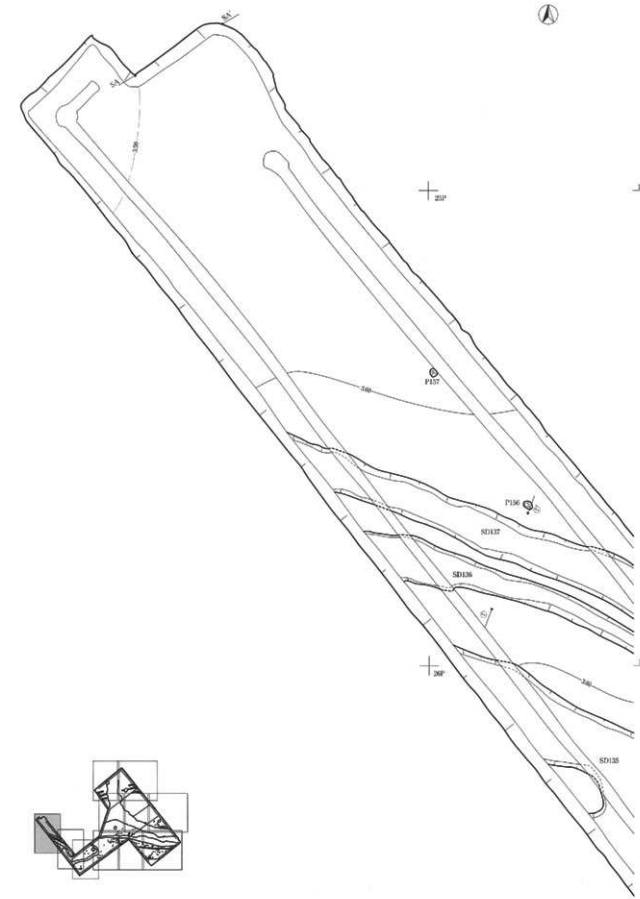
3区基本層序
I 層 色 上 (7.5YR4/3) シルト層。粘性ややあり，しまりなし。畑（田）土。
II 灰 褐 色 土 (7.5YR4/2) シルト層。粘性ややあり，しまりややあり。畑（田）床土。
III 暗 褐 色 土 (7.5YR3/3) シルト層。粘性あり，しまりあり。鉄酸武が少量入る。
IV 暗 褐 色 土 (7.5YR3/4) シルト層。粘性あり，しまりあり。鉄酸武が多く入る。
V 黒 褐 色 土 (7.5YR3/1) シルト層。粘性あり，しまりあり。炭化物が少量入る。遺物包含層。
VI 灰 色 土 (7.5Y4/1) シルト層。粘性あり，しまり強くあり。地山。



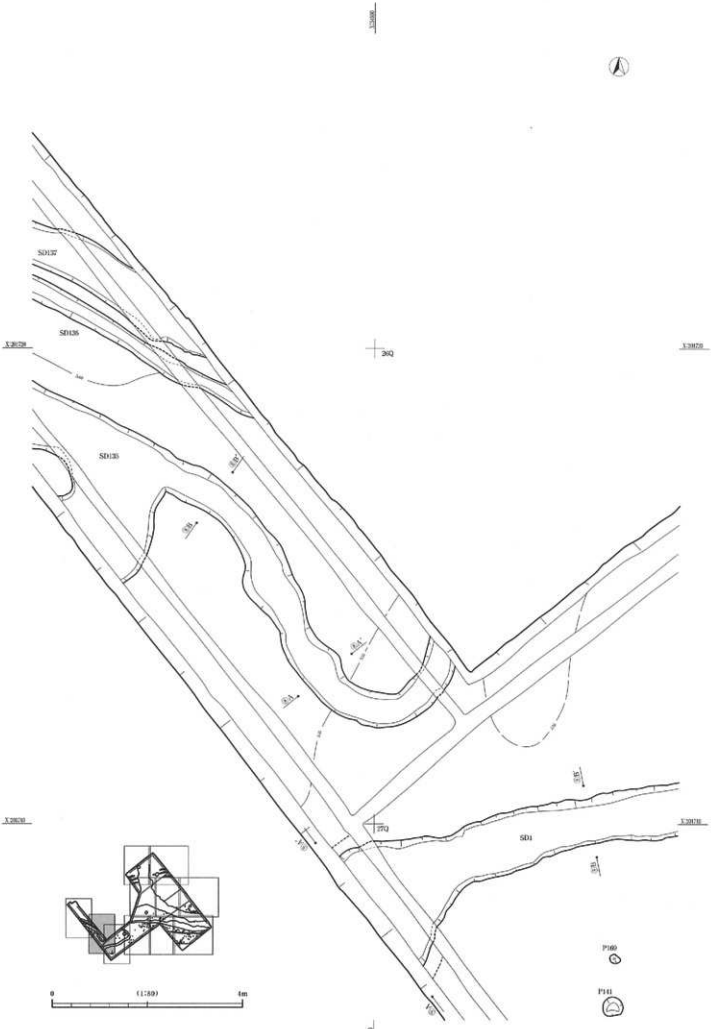
沖ノ羽遺跡小グリッド設定模式図

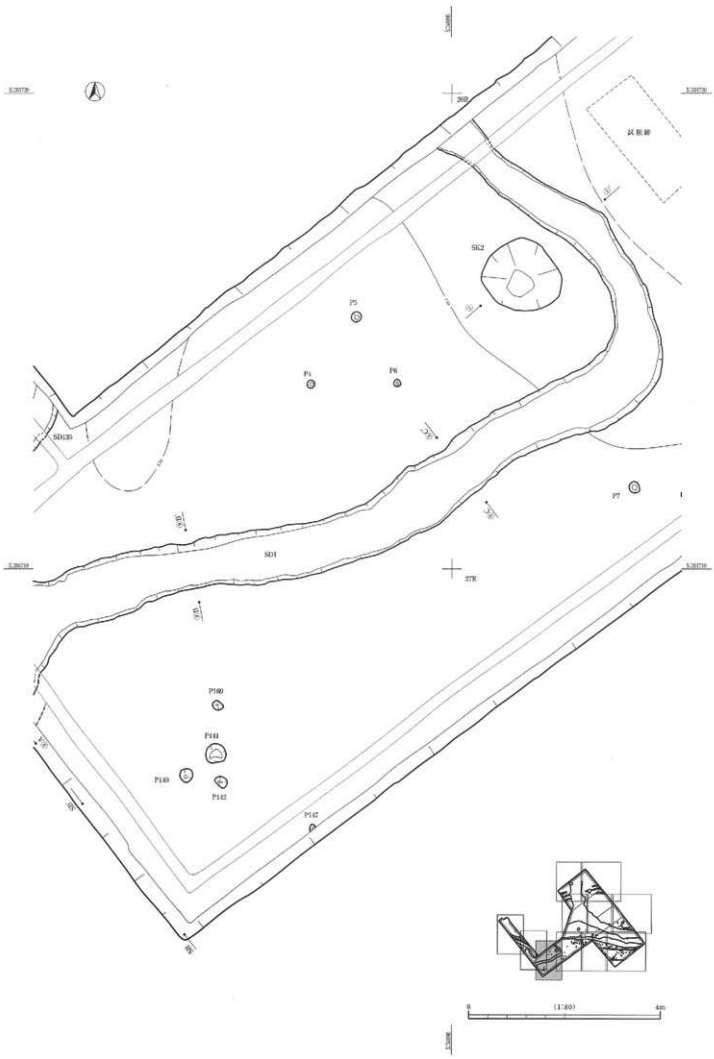
沖ノ羽遺跡3区遺構全体図面割付図(1/400)



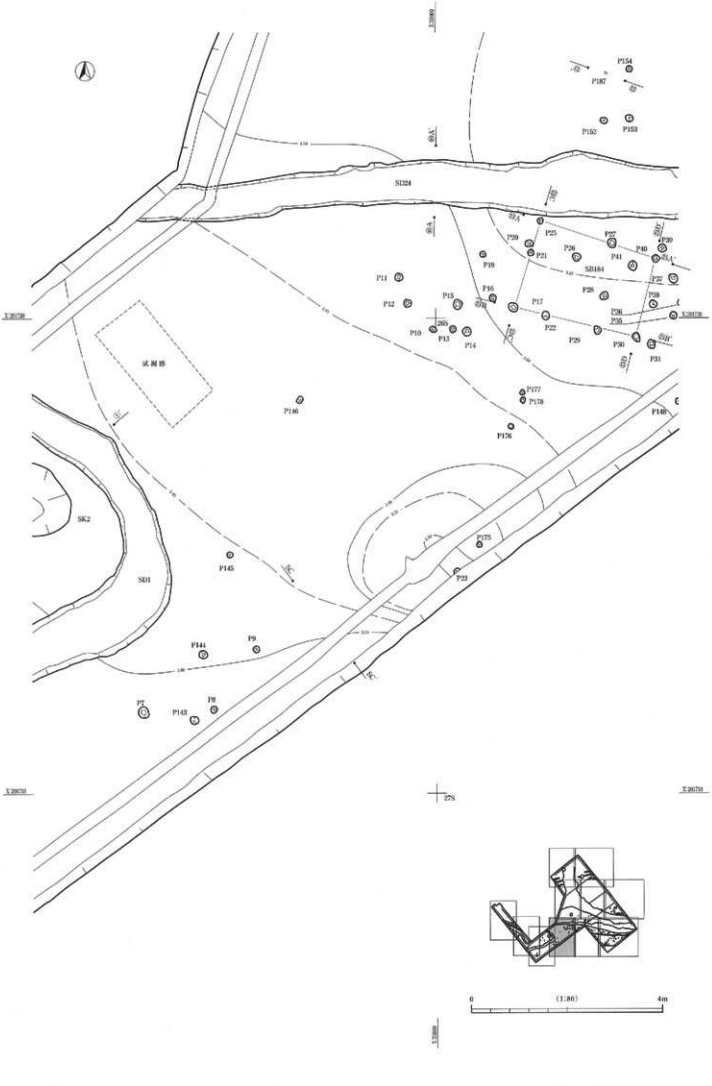

P137
P136
SD137
SD136
SD135
SD134
SD138
0
(1:80)
4m

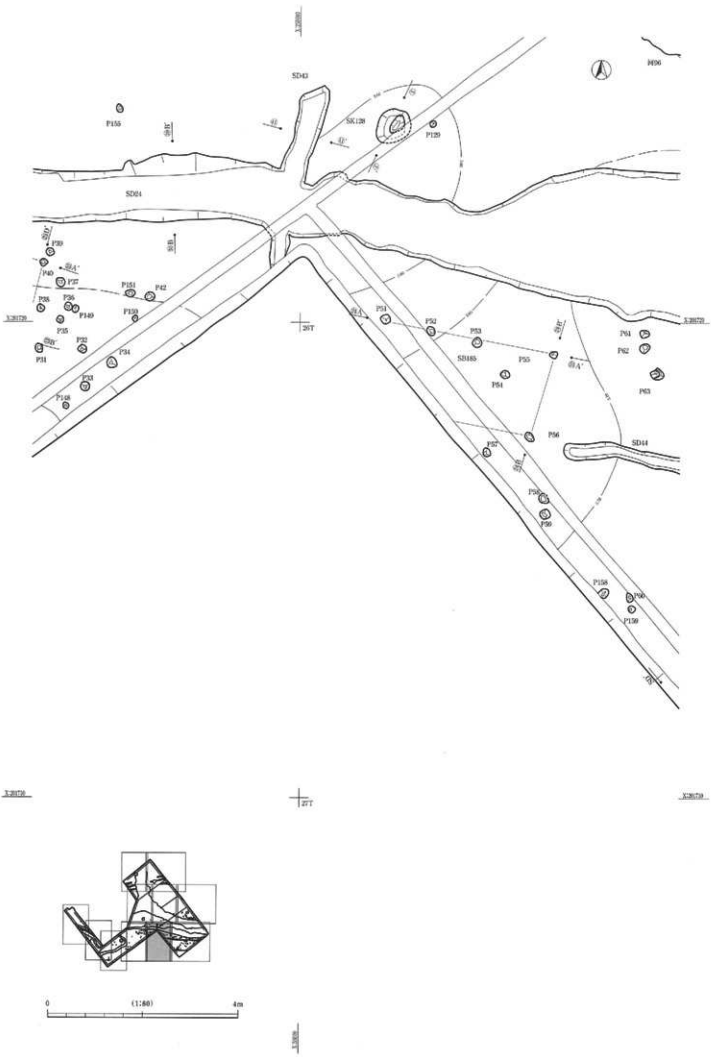
沖ノ羽遺跡3区遺構平面図2（1/80）



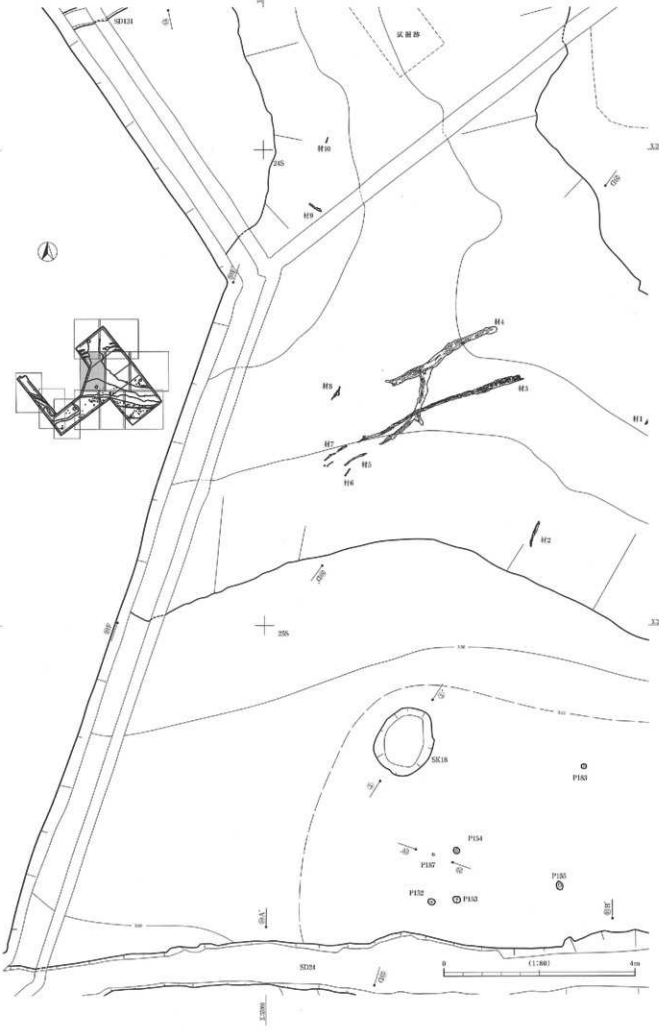

試掘溝
SK2
P5
P6
P1
SD135
SD1
P7
P160
P144
P145
P143
P147
(1:80)
4m

沖ノ羽遺跡3区遺構平面図4（1/80）

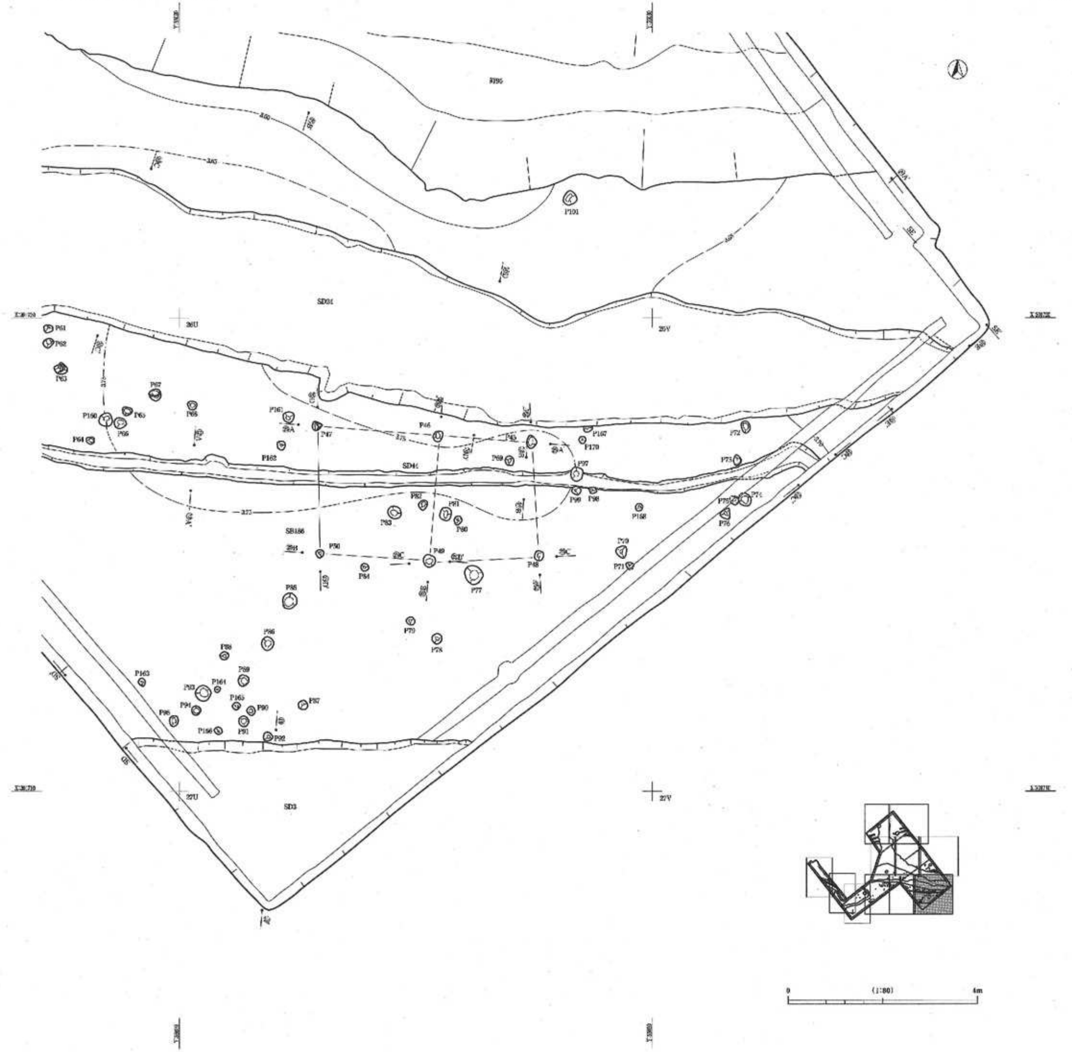


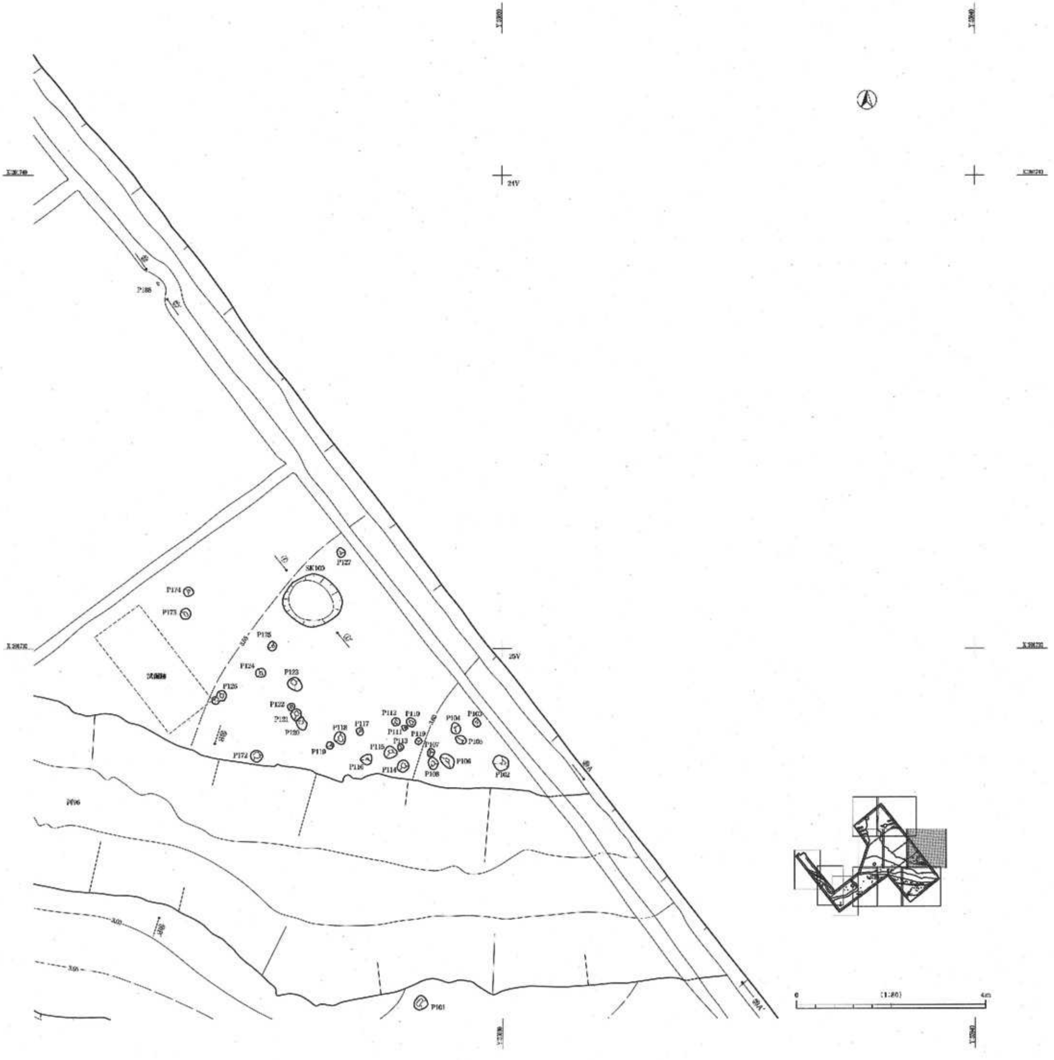

SD43
SD44
SD44B
SK120
P155
P129
P106
P39
P40
P37
P38
P36
P149
P35
P34
P33
P31
P108
P41
P42
P148
P32
P52
P53
P55
P54
P64
P62
P63
P56
P57
P58
P59
P60
P158
P159
P61
20T
21T
X-28720
X-28730
0
(1:80)
4m

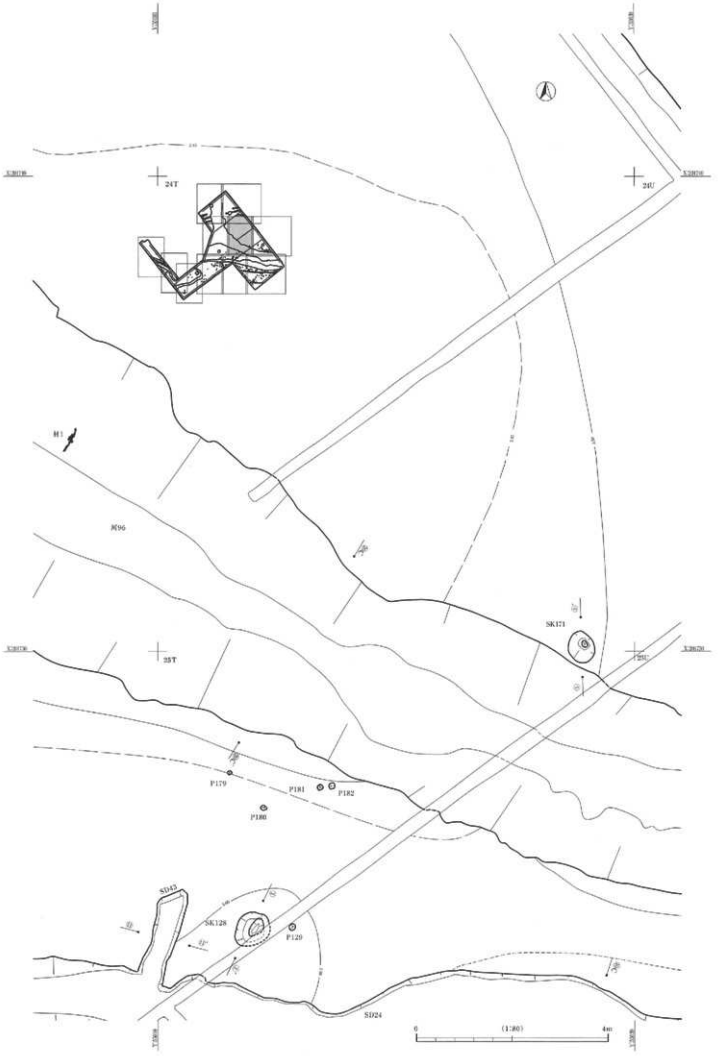
沖ノ羽遺跡3区遺構平面図6（1/80）



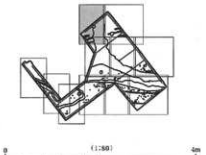
沖ノ羽遺跡3区遺構平面図7（1/80）

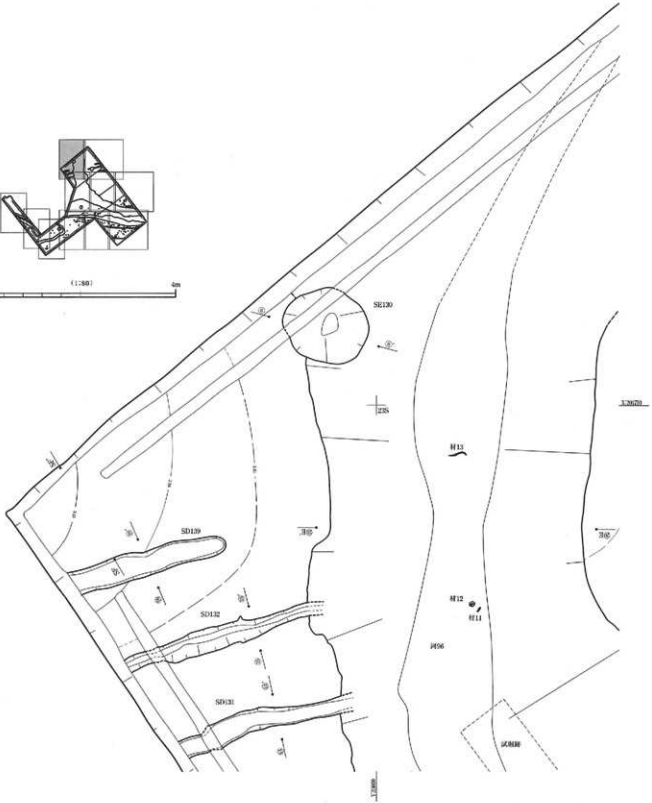


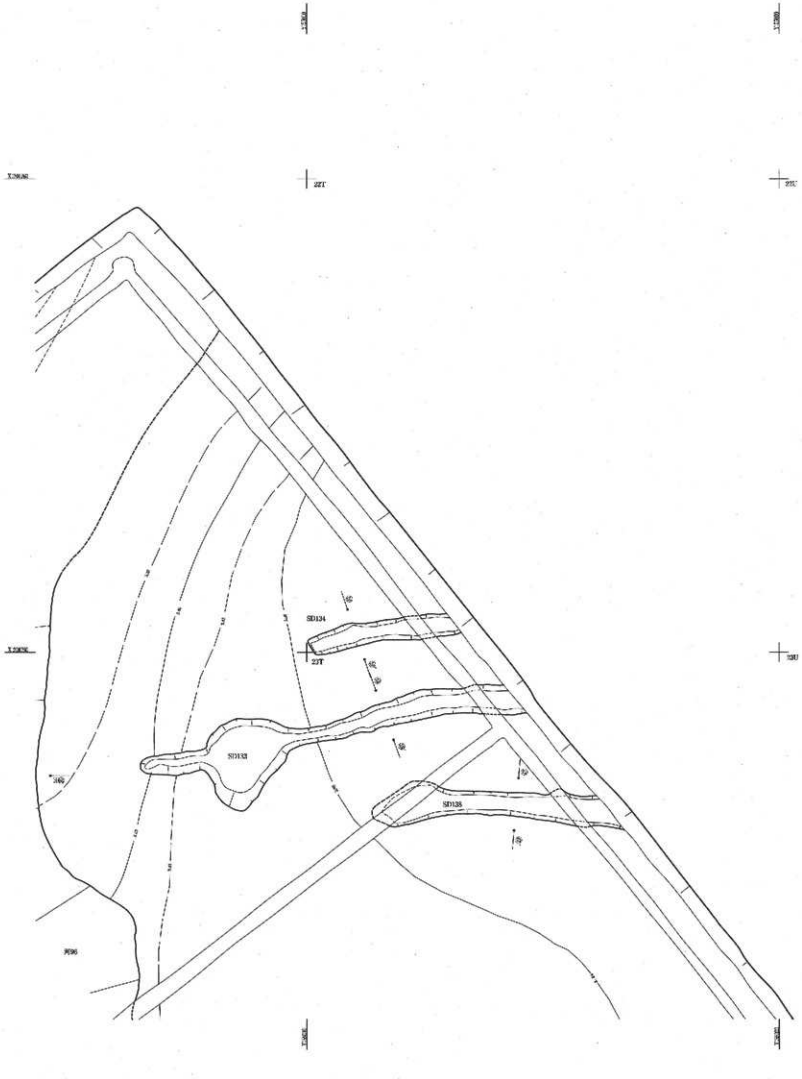

24V
25V
P188
SK103
P127
P174
P173
P124
P123
P122
P121
P120
P118
P117
P112
P111
P113
P115
P116
P114
P107
P108
P106
P104
P103
P102
P172
P101
0
(1:80)
4m

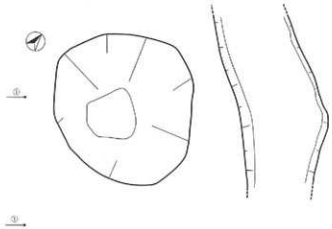

24T
26U
35T
M1
M96
SK171
P179
P181
P182
P180
SD23
SK128
P120
SD24
0
(1:80)
4m

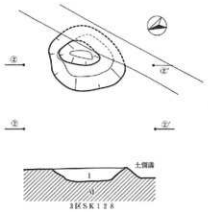
沖ノ羽遺跡3区遺構平面図10（1/80）

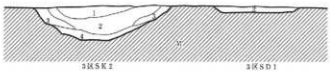





SD134
SD133
SD135
P196
0
1:80
4m

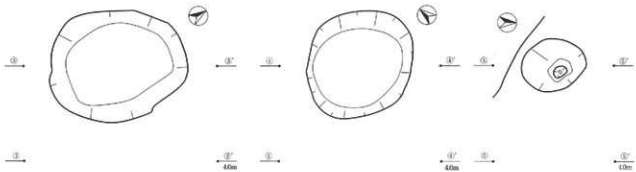






3KSK2覆土
1　オリーブ黒色土（7.5Y3/1シルト層。粘性あり。しまりあり。炭化物が多く入る。
2　灰色土（7.5Y4/1）　シルト層。粘性あり。しまりあり。
3　灰色土（7.5Y5/1）　シルト層。粘性あり。しまりあり。
4　オリーブ黒色土（7.5Y2/2シルト層。粘性あり。しまりあり。炭化物が多く入る。

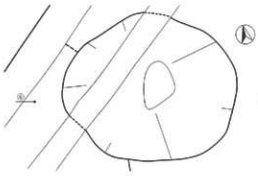
3KSK128覆土
1　灰色土（7.5Y4/1）シルト層。粘性あり。しまりあり。炭化物が極少量入る。

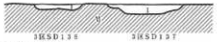


3KSK18覆土
1　黄灰色土（2.5Y4/1）シルト層。粘性あり。しまりあり。炭化物が少量入る。

3KSK100覆土
1　オリーブ黒色土（7.5Y3/1）シルト層。粘性あり。しまりあり。炭化物が少量入る。
2　灰色土（7.5Y5/1）　シルト層。粘性やや有り。しまりあり。Ig粒が含まれる。

SK171覆土
1　灰色土（5Y4/1）シルト層。粘性あり。しまりあり。
炭化物が少量入る。

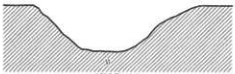


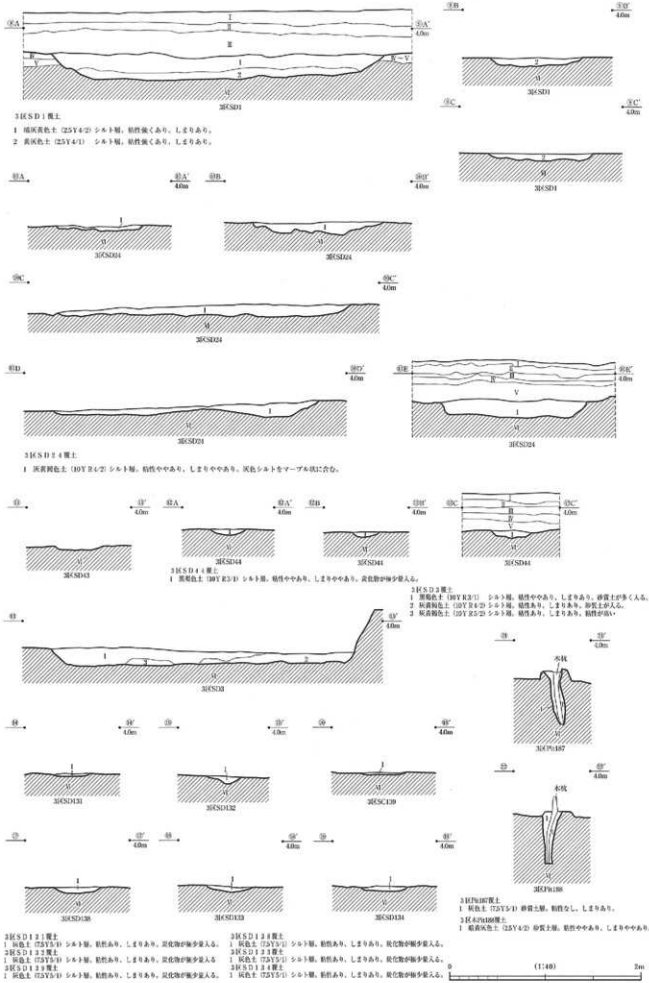


3KSD136覆土
1　灰色土（5Y5/1）シルト層。粘性あり。しまりあり。炭化物が極少量入る。

3KSD137覆土
1　黄灰色土（2.5Y6/1）シルト層。粘性あり。しまりあり。炭化物が少量入る。

3KSD135覆土
1　灰色土（5Y6/1）シルト層。粘性あり。しまりあり。炭化物が極少量入る。





3区SD1覆土
1　暗灰黄色土（2.5Y4/2）シルト層。粘性強くあり、しまりあり。
2　黄灰色土（2.5Y4/1）　シルト層。粘性強くあり、しまりあり。

3区SD24覆土
1　灰黄褐色土（10YR4/2）シルト層。粘性やや強く、しまりややあり。灰色シルトをマーブル状に合む。

3区SD43覆土
1　黒褐色土（10YR3/1）シルト層。粘性やや強く、しまりややあり。炭化物が極少量入る。

3区SD44覆土
1　黒褐色土（10YR3/1）シルト層。粘性やや強く、しまりややあり。炭化物少量入る。

3区SD41覆土
1　黒褐色土（10YR3/1）　シルト層。粘性やや強く、しまりややあり。炭化物が極少量入る。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）シルト層。粘性やや強く、しまりややあり。炭化物が少量入る。
3　灰黄褐色土（10YR5/2）シルト層。粘性やや強く、しまりややあり。粘性が強い。

3区SD30覆土
1　黒褐色土（7.5YR3/1）　シルト層。粘性やや強く、しまりあり。炭化物が極少量入る。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）シルト層。粘性やや強く、しまりあり。炭化物が少量入る。
3　灰黄褐色土（10YR5/2）シルト層。粘性やや強く、しまりあり。粘性強い。

3区SD131覆土
1　灰色土（7.5Y5/1）　シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が極少量入る。

3区SD132覆土
1　灰色土（7.5Y5/1）　シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が極少量入る。

3区SD139覆土
1　灰色土（7.5Y5/1）　シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が極少量入る。

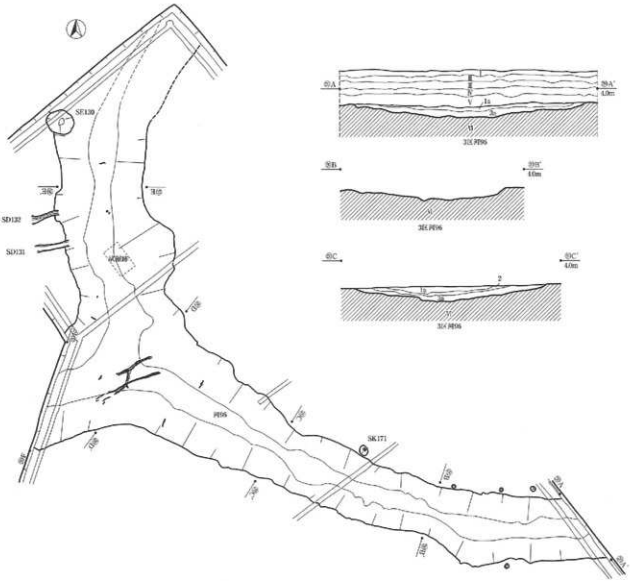
3区SD138覆土
1　灰色土（7.5Y5/1）　シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が極少量入る。

3区SD133覆土
1　灰色土（7.5Y5/1）　シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が極少量入る。

3区SD134覆土
1　灰色土（7.5Y5/1）　シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が極少量入る。

3区Pit187覆土
1　灰色土（7.5Y5/1）砂質土層。粘性なし、しまりあり。

3区Pit188覆土
1　暗赤灰色土（2.5Y4/2）砂質土層。粘性やや強く、しまりややあり。



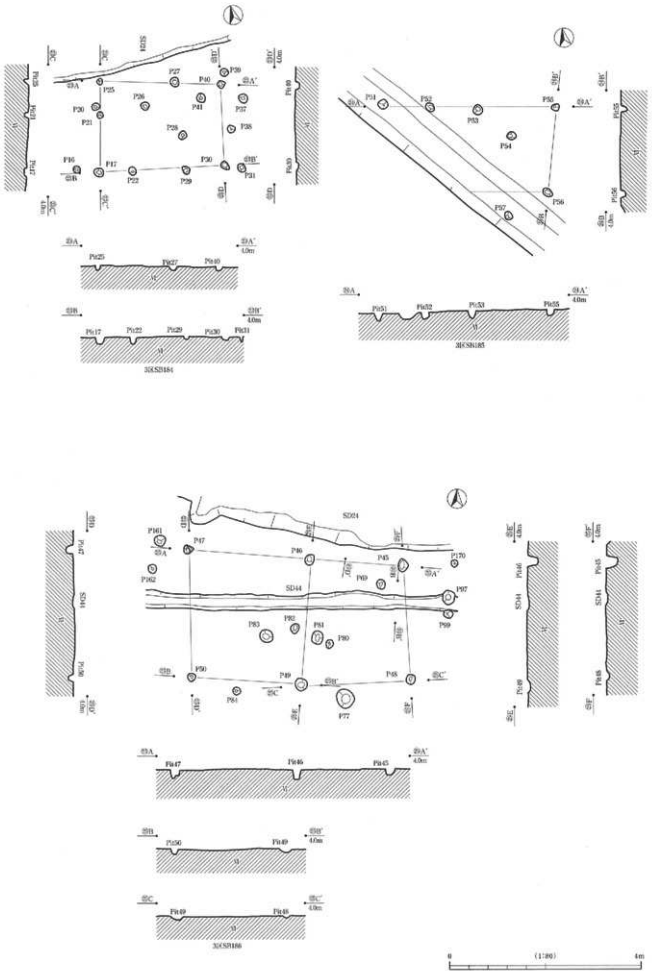
3区河96土層

1a	灰色土 (7.5Y4/1)	シルト層。粘性あり、しまりあり。鉱物粒が少量入る。
1b	オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が少量入る。
2	灰色土 (5Y5/1)	シルト層。粘性あり、しまりあり。
3a	灰色土 (5Y4/1)	シルト層。粘性ややあり、しまりあり。炭化物が多くくる。
3b	オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	シルト層。粘性あり、しまりあり。炭化物が少量入る。

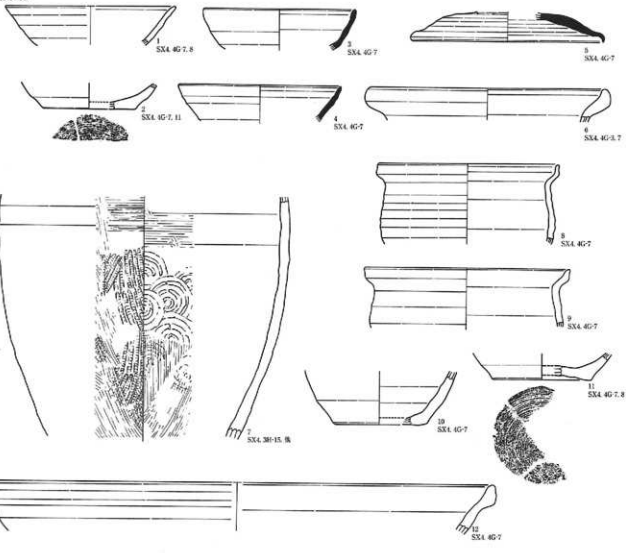
(断面図) 0 (1:80) 4m

(平面図) 0 (1:250) 10m

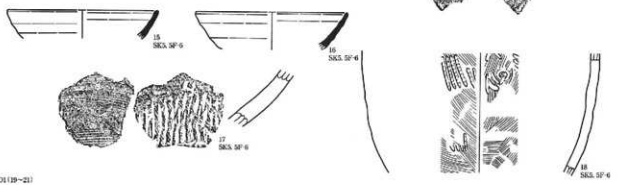
沖ノ羽遺跡3区SB184. 185. 186実測図(1/80)



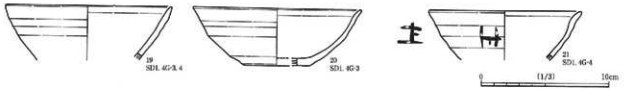
1区 SX4(1~14)

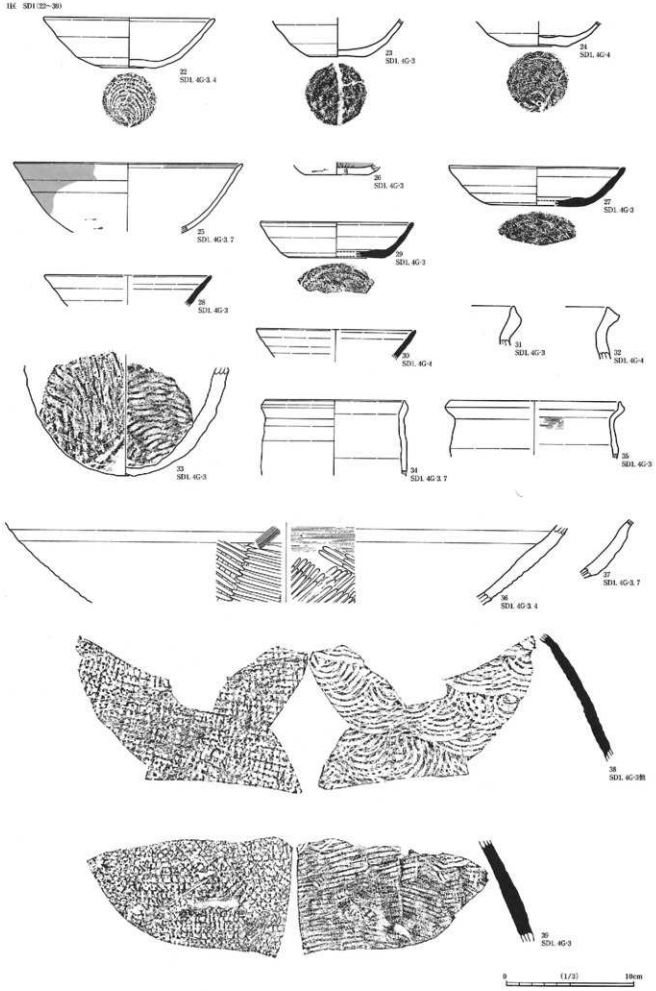


1区 SK5(15~18)

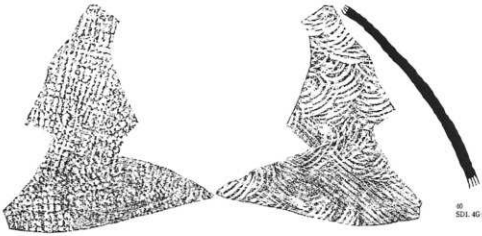


1区 SD1(19~21)

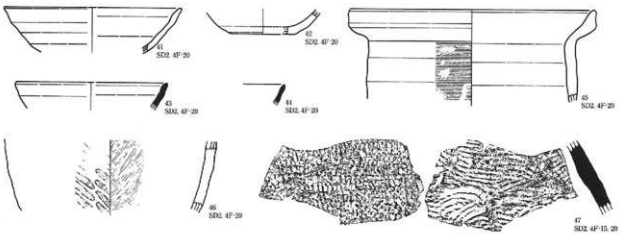



H8 SD1(22~39)
22 SD1 4G-3.4
23 SD1 4G-3
24 SD1 4G-4
25 SD1 4G-3.7
26 SD1 4G-3
27 SD1 4G-3
28 SD1 4G-3
29 SD1 4G-3
30 SD1 4G-4
31 SD1 4G-3
32 SD1 4G-4
33 SD1 4G-3
34 SD1 4G-3.7
35 SD1 4G-3
36 SD1 4G-3.4
37 SD1 4G-3.7
38 SD1 4G-3Bt
39 SD1 4G-3
0 (1/3) 10cm

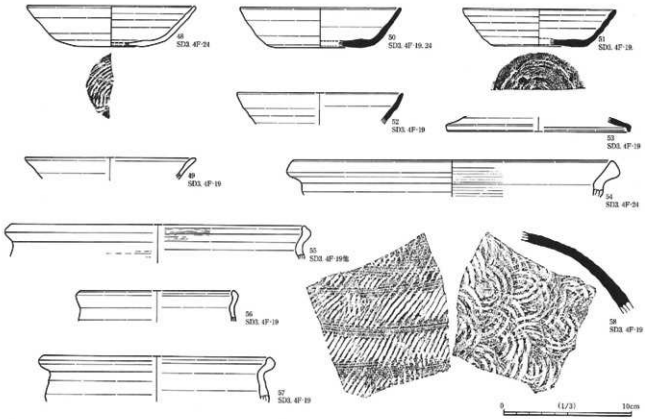
1区 SD1(40)

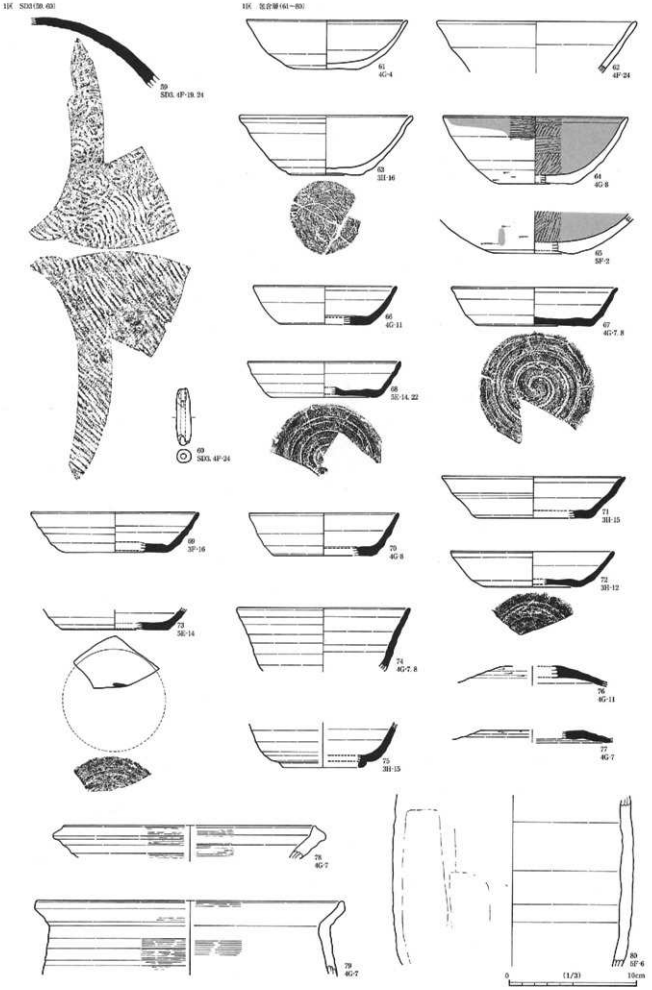


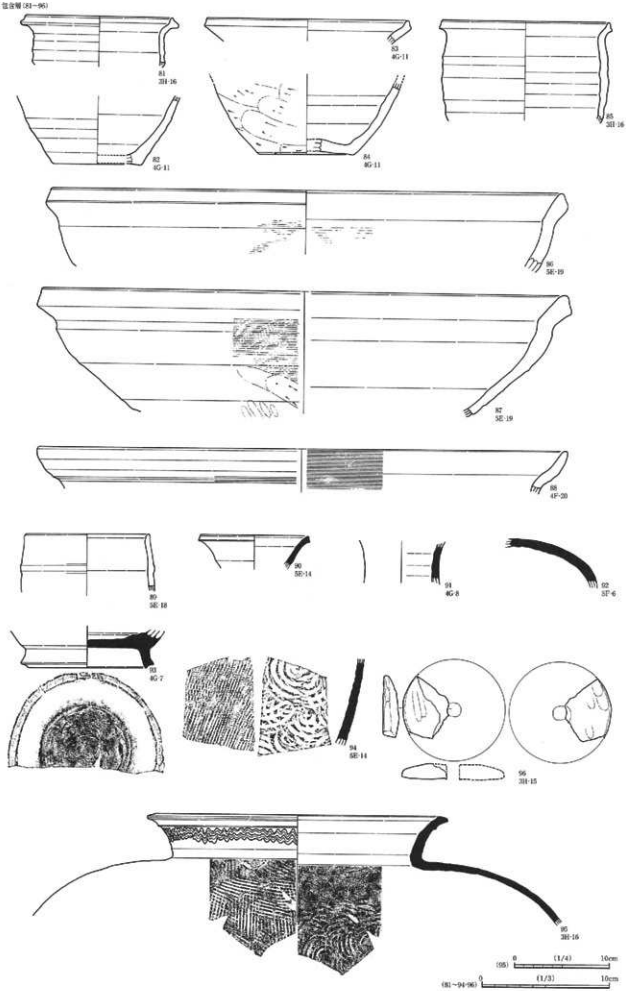
1区 SD2(41～47)

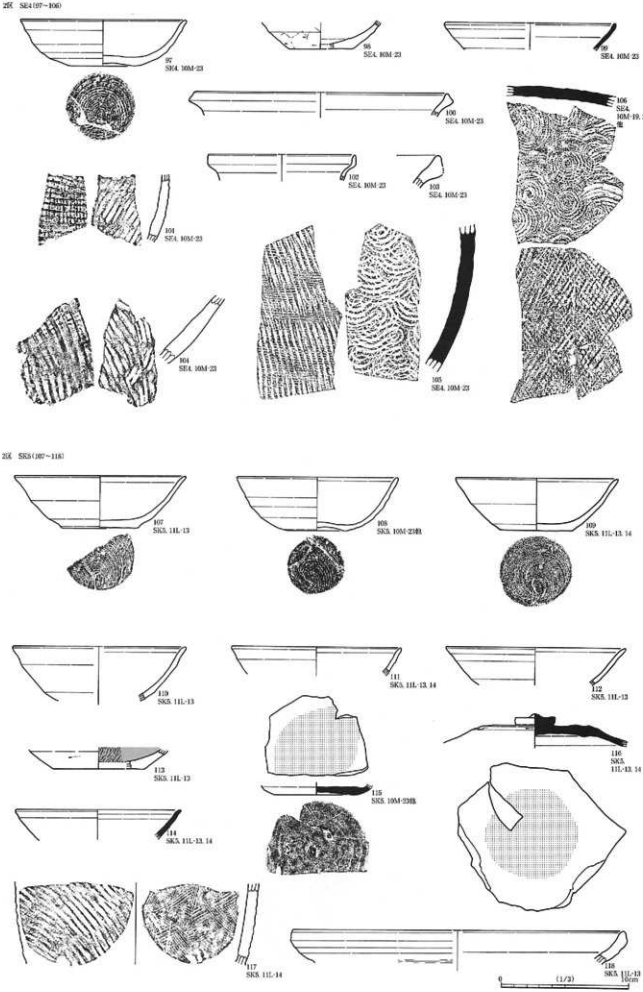


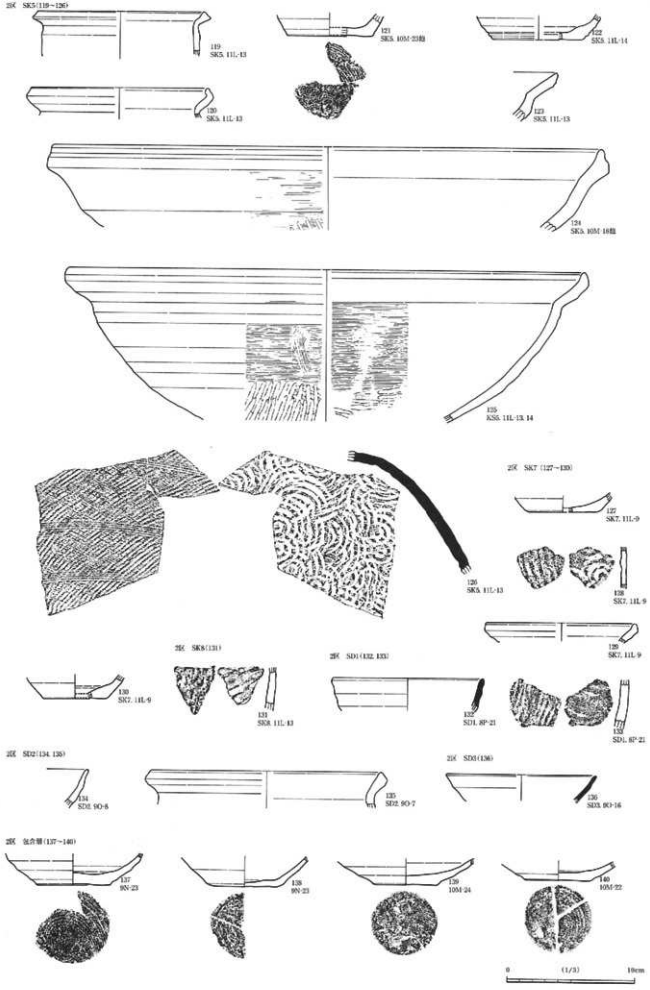
1区 SD3(48～58)

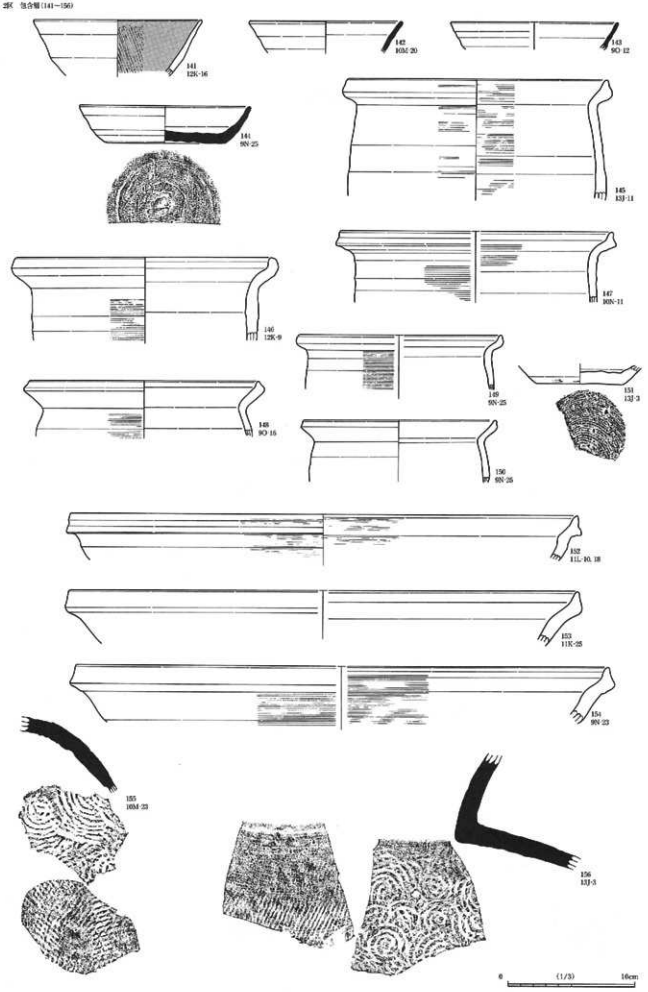



1区 SD3(2)-(3)
59
SD3, 4F-19, 24
69
SD3, 4F-24
1区 包含層(61~80)
61
4G-4
62
4F-24
63
3H-16
64
4G-8
65
5F-2
66
4G-11
67
4G-7, 8
68
5G-14, 22
69
3F-16
70
4G-8
71
3H-15
72
3H-12
73
5G-14
74
4G-7, 8
76
4G-11
77
4G-7
75
3H-15
78
4G-7
79
4G-7
80
5F-6
0
(1/3)
10cm

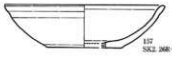

1区　包含層(81～96)
81
3H-16
82
4G-11
83
4G-11
84
4G-11
85
3H-16
86
5H-19
87
5E-19
88
4F-20
89
5H-18
90
5H-14
91
4G-8
92
5F-6
93
4G-7
94
5H-14
95
3H-15
96
3H-16
(95)
(1/4)
10cm
(81～94・96)
(1/3)
10cm

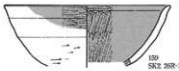

2区 SE4(97～106)
97 SE4. 16M-23
98 SE4. 16M-23
99 SE4. 16M-23
100 SE4. 16M-23
101 SE4. 16M-23
102 SE4. 16M-23
103 SE4. 16M-23
104 SE4. 16M-23
105 SE4. 16M-23
106 SE4. 16M-19. 22
2区 SK5(107～118)
107 SK5. 11L-13
108 SK5. 10M-23他
109 SK5. 11L-13. 14
110 SK5. 11L-13
111 SK5. 11L-13. 14
112 SK5. 11L-13
113 SK5. 11L-13
115 SK5. 10M-23他
116 SK5. 11L-13. 14
114 SK5. 11L-13. 14
117 SK5. 11L-14
118 SK5. 11L-13
0 (1/3) 10cm


2区 SK5(119~126)
119 SK5. 11L-13
121 SK5. 10M-25組
122 SK5. 11L-14
120 SK5. 11L-13
123 SK5. 11L-13
124 SK5. 10M-16組
125 K5S. 11L-13, 14
126 SK5. 11L-13
2区 SK7(127~130)
127 SK7. 11L-9
128 SK7. 11L-9
129 SK7. 11L-9
2区 SK8(131)
130 SK7. 11L-9
131 SK8. 11L-13
2区 SD1(132, 133)
132 SD1. 8P-23
133 SD1. 8P-21
2区 SD2(134, 135)
134 SD2. 9O-6
135 SD2. 9O-7
2区 SD3(136)
136 SD3. 9O-16
2区 包含層(137~140)
137 9N-23
138 9N-23
139 10M-24
140 10M-22
0　(1/3)　10cm

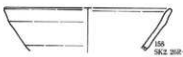

2K　包含層(141～156)
141
12K-16
142
16M-20
143
9O-12
141
9W-25
145
13J-11
147
16N-11
146
12K-9
149
9N-25
151
13J-3
148
9O-16
150
9W-25
152
11L-10, 16
153
11K-25
154
9W-23
155
16M-23
156
13J-5
0　(1/3)　10cm

3区 SK2(157～161)、SK18(162)、SK128(163)、SD1(164～166)、SD3(167～168)

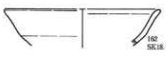

157
SK2. 26B-11


159
SK2. 26B-11

161
SK2. 26B-6

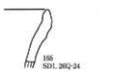

158
SK2. 26B-6. 11

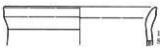
160
SK2. 26B-11


162
SK18. 26S-7

163
SK128. 25T-12

164
SD1. 27U-1

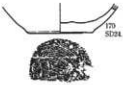

166
SD1. 26Q-24


165
SD1. 26R-17

167
SD3. 26U-23

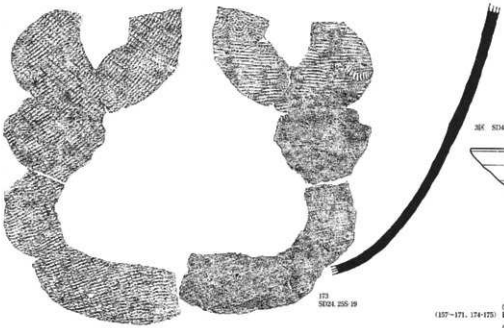
168
SD3. 26U-23

169
SD24. 25S-17


170
SD24. 25S-19

171
SD24. 25S-19

172
SD24. 25S-19


173
SD24. 25S-19

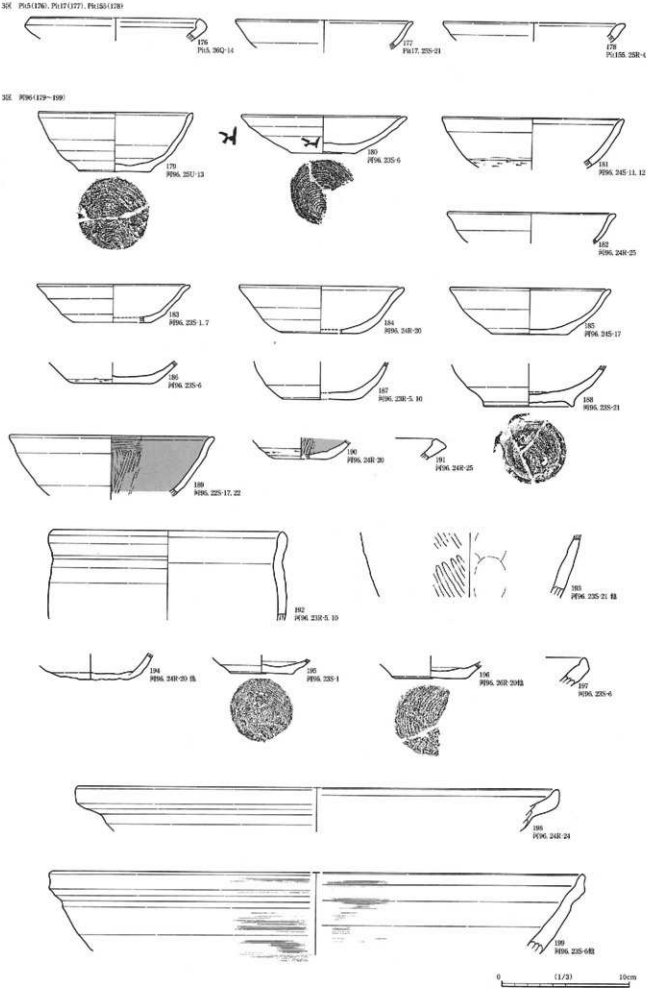
3区 SD43(174. 175)

174
SD43. 25T-11. 16

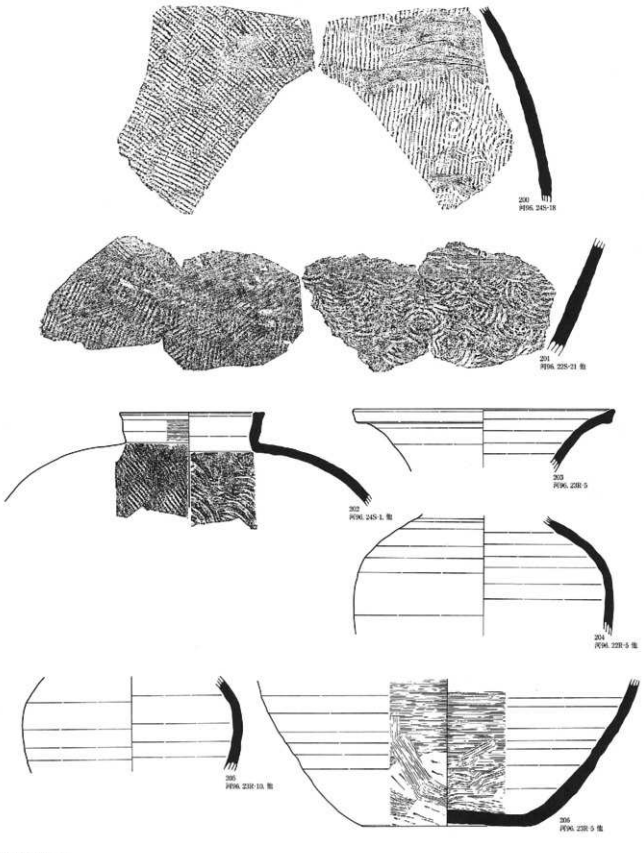
175
SD43. 25T-11

(157～171、174～175)　0　(1/3)　10cm

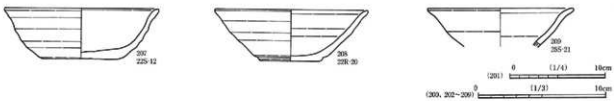
(172～173)　0　(1/6)　10cm

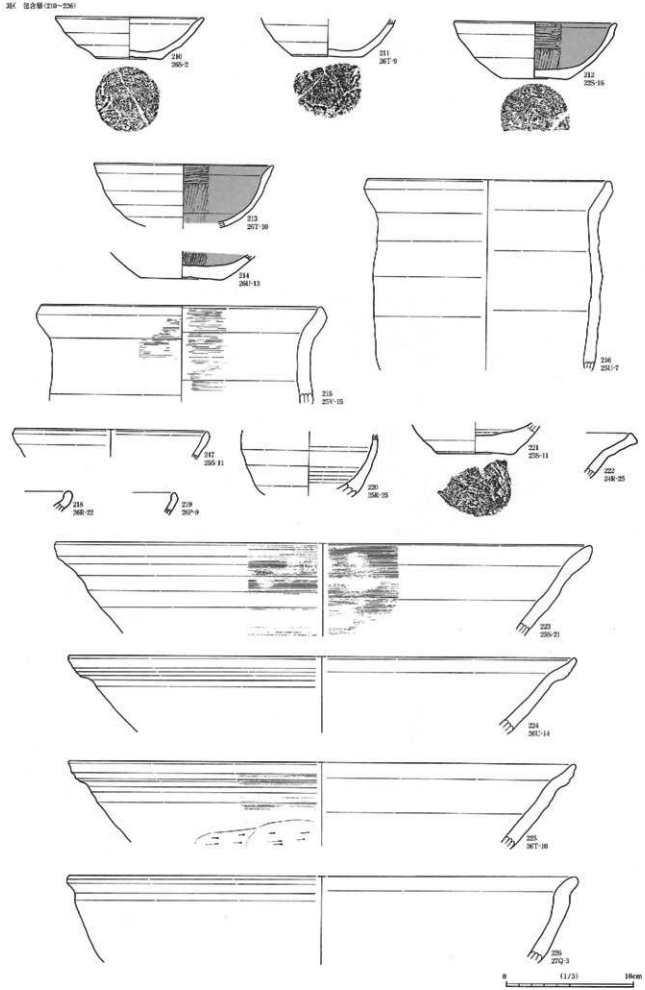

3区　Pit5(176)、Pit17(177)、Pit155(178)
176
Pit5. 36Q-14
177
Pit17. 25S-21
178
Pit155. 25R-4
3区　河96(179～199)
179
河96. 25U-13
180
河96. 23S-6
181
河96. 24S-11. 12
182
河96. 24R-25
183
河96. 23S-1. 7
184
河96. 24R-30
185
河96. 24S-17
186
河96. 23S-6
187
河96. 23R-5. 10
188
河96. 23S-21
189
河96. 22S-17. 22
190
河96. 24R-20
191
河96. 24R-25
192
河96. 23R-5. 10
193
河96. 23S-21 他
194
河96. 24R-20 他
195
河96. 23S-1
196
河96. 26R-20他
197
河96. 23S-6
198
河96. 24R-24
199
河96. 23S-6他
0　(1/3)　10cm

3区 河96(200~209)



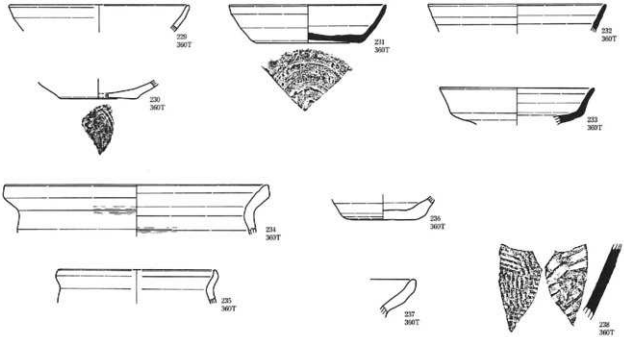
3区 包含層(207~209)




3区　包含層(210~226)
210
26S-2
211
26T-9
212
25S-16
213
26T-10
214
26AT-13
215
25V-15
216
25U-7
217
25S-11
218
26R-22
219
26P-9
220
25R-25
221
25S-11
222
24R-25
223
25S-21
224
26U-14
225
26T-10
226
27Q-3
0　(1/3)　10cm

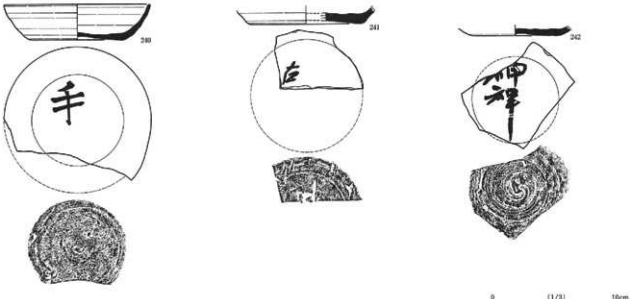
3区　包含層(227-228)

確認調査360T(229～238)

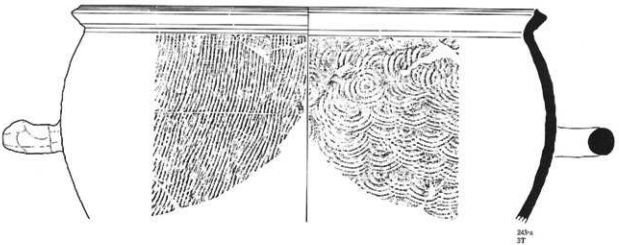


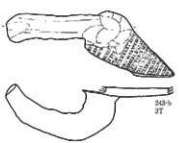
確認調査(西遠追跡北側)17T(239)

中谷内遺跡立会調査(240～242)



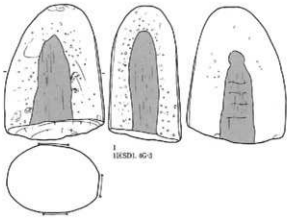
中谷内遺跡埋蔵調査3T(243-a·243-b)

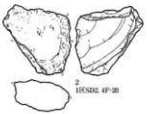


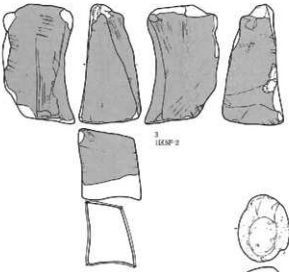


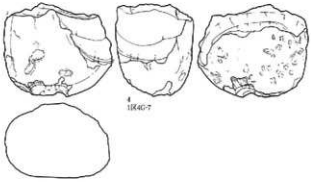
0　(1/4)　10cm

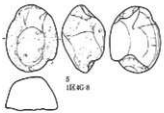
石製品(1～13)


1
10ESD1. 4G-3

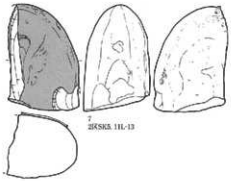

2
10ESD2. 4F-20

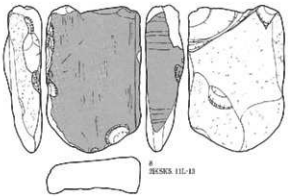

3
10ESP-2


4
10E4G-7

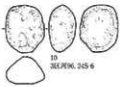

5
10E4G-8

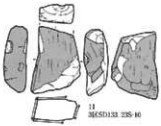
6
10E4G-11

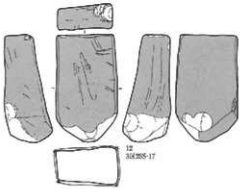

7
20ESK5. 11L-13

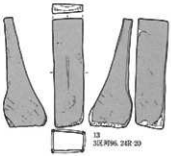

8
20ESK5. 11L-13

9
20ESK5. 11L-13


10
30EJP96. 24S-6

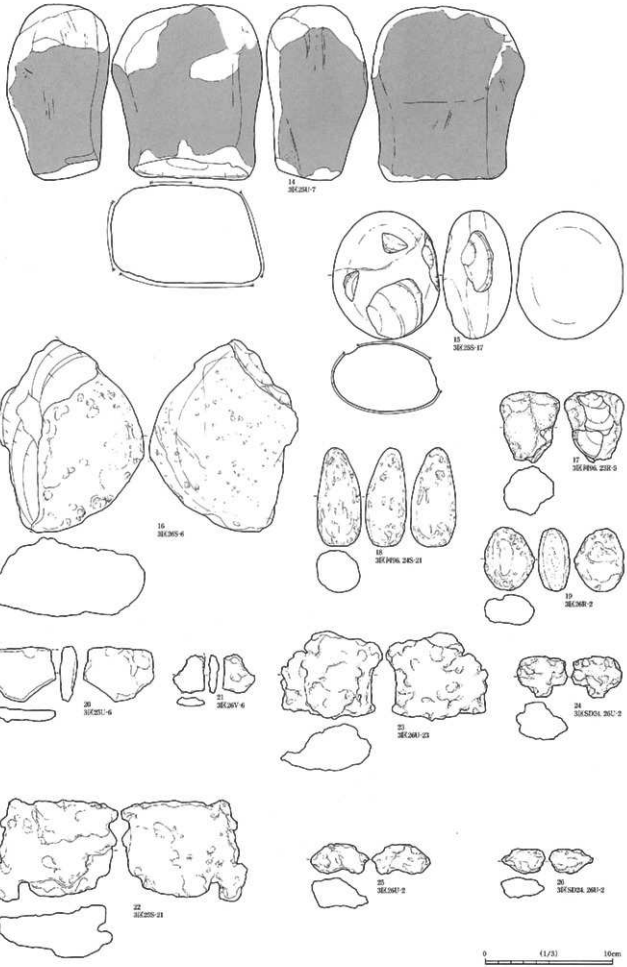

11
30ESD133. 23S-16

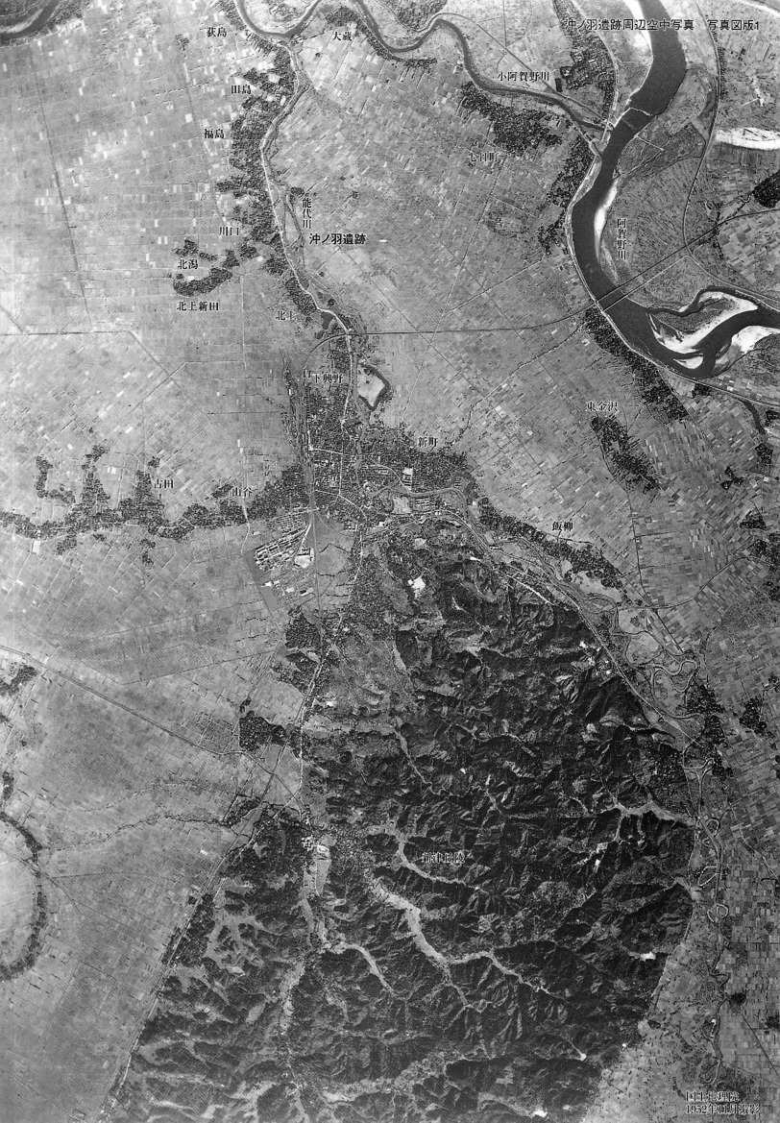

12
30E20S-17


13
30EJP96. 24R-20

0　(1/3)　10cm

石製品(14~19)、鉄製品・鍛冶関連遺物(20~26)




荻島
大歳
小阿賀野川
田島
福島
沖ノ羽遺跡
北島
北上新田
北斗
下神明
新町
東金沢
古田
上山谷
阿賀野川
飯柳

写真図版1　沖ノ羽遺跡空中写真
荒川
沖ノ羽遺跡

空中写真（南東→北西）

3区 空中写真（全景）

1・2区 空中写真（全景）

3区 空中写真（南西→北東）

1区 完掘状況（南西→北東）

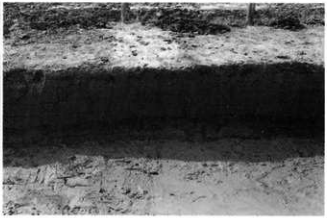
2区 完掘状況（南西→北東）

3区 河96土層断面（北西→南東）

3区 河96完掘状況（北西→南東）

1区 空中写真（北東→南西）

1区 基本層序A



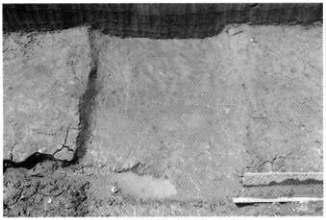
1区 基本層序B

1区 基本層序C

1区 SX4 完掘状況（南東→北西）

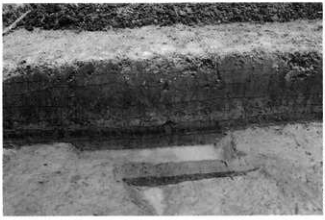
1区 SK5、Pit6 完掘状況（南東→北西）

1区 SD1 土層断面（南東→北西）



1区 SD1 完掘状況（南東→北西）

1区 SD2 完掘状況（南東→北西）



1区 SD3 土層断面（南東→北西）

1区 SD3 完掘状況（南東→北西）

1区 空中写真1

1区 空中写真2

2区 空中写真（北東→南西）

2区 調査前現況（南西→北東）

2区 空中写真1

2区 空中写真2

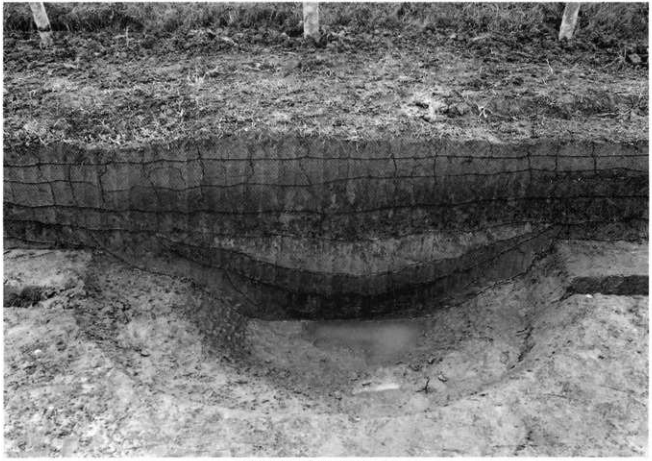
2区 空中写真3

2区 基本層序A

2区 基本層序B

2区 基本層序C

2区 基本層序D



2区 SE4 完掘状況（北西→南東）

2区 SK6 土層断面（南西→北東）

2区 SK6 完掘状況（南西→北東）

2区 SK7 完掘状況（南東→北西）

2区 SK9 土層断面（北→南）

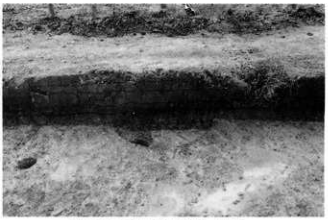
2区 SK9 完掘状況（北→南）

2区 SK5 土層断面（南東→北西）

2区 SK5 完掘状況（南東→北西）

2区 SK8 土層断面（南東→北西）

2区 SK8 完掘状況（南東→北西）



2区 SK10 完掘状況（南東→北西）

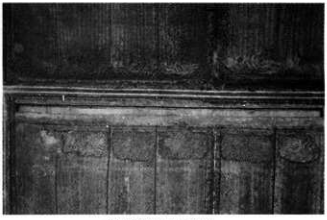
2区 SD1 完掘状況（南東→北西）

2区 SD2 土層断面（南東→北西）

2区 SD2 完掘状況（南東→北西）

2区 SD3 土層断面（南東→北西）

2区 SD3 完掘状況（南東→北西）



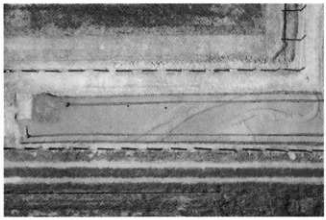
2区 空中写真（全景）

3区 調査前現況（南西→北東）

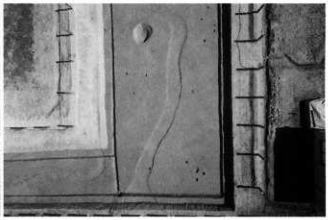
3区 空中写真（南西→北東）

3区 調査前現況（南東→北西）

3区 空中写真1



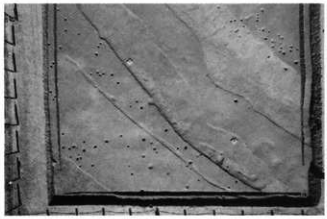
3区 空中写真2



3区 空中写真3

3区 空中写真4

3区 空中写真5



3区 空中写真6

3区 空中写真7

3区 基本層序A

3区 基本層序B

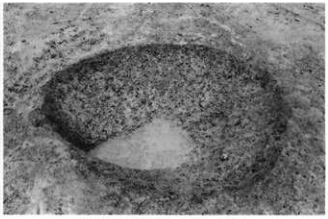
3区 基本層序C

3区 基本層序D

3区 基本層序E

3区 基本層序F

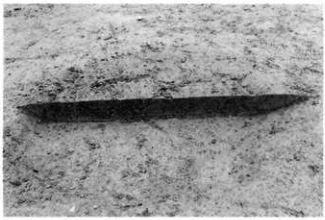
3区 SK2 土層断面（南東→北西）



3区 SK2 完掘状況（南東→北西）

3区 SK128 土層断面（西→東）

3区 SK128 完掘状況（西→東）



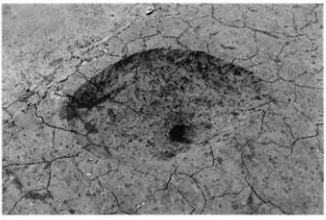
3区 SK18 土層断面（南東→北西）

3区 SK18 完掘状況（南東→北西）

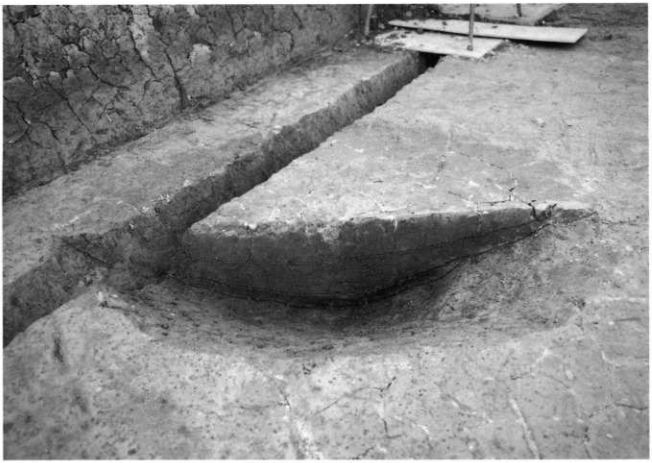
3区 SK100 土層断面（南西→北東）

3区 SK100 完掘状況（南西→北東）

3区 SK171 土層断面（南東→北西）



3区 SK171 完掘状況（南東→北西）



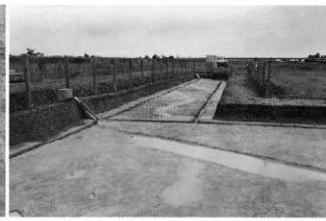
3区 SE130 土層断面（南→北）

3区 SE130 完掘状況（南→北）

3区 SD136. 137 土層断面（東→西）

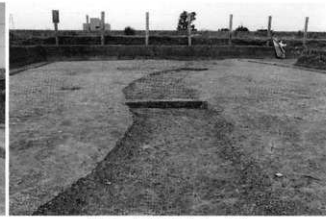
3区 SD136. 137 完掘状況（東→西）

3区 SD135 土層断面（北西→南東）

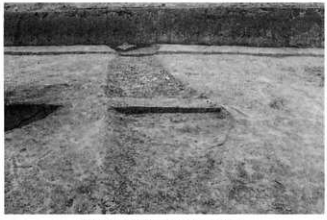


3区 SD135 完掘状況（北西→南東）

3区 SD1 土層断面（北東→南西）



3区 SD1 土層断面（北東→南西）



3区 SD1 土層断面（南東→北西）

3区 SD1 完掘状況（北東→南西）

3区 SD24 土層断面（東→西）

3区 SD24 土層断面（東→西）

3区 SD24 土層断面（西→東）

3区 SD24 土層断面（西→東）

3区 SD44 土層断面（西→東）

3区 SD44 土層断面（西→東）

3区 SD24. 44 土層断面（北西→南東）

3区 SD24 完掘状況（東→西）

3区 SD24. 44 完掘状況（西→東）

3区 SD3 土層断面（西→東）

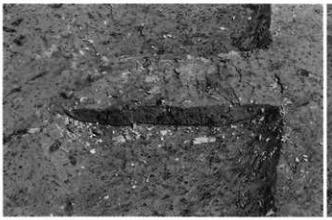
3区 SD3 完掘状況（西→東）

3区 SD131 土層断面（東→西）

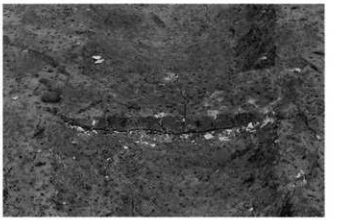
3区 SD132 土層断面（東→西）

3区 SD139 土層断面（東→西）

3区 SD131. 132. 139 完掘状況（北→南）



3区 SD138 土層断面（西→東）



3区 SD133 土層断面（西→東）

3区 SD134 土層断面（西→東）

3区 SD138. 133. 134 完掘状況（北西→南東）

3区 Pit187 土層断面（北東→南西）

3区 Pit188 土層断面（南西→北東）

3区 河96 土層断面（南西→北東）

3区 河96 土層断面（北西→南東）

3区 河96 土層断面（北西→南東）

3区 河96 土層断面（東→西）

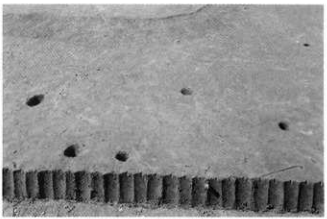
3区 河96 土層断面（北→南）

3区 河96 完掘状況（西→東）

3区 河96 完掘状況（北西→南東）

3区 河96 完掘状況（南→北）

3区 Pit141 他 完掘状況（東→西）



3区 Pit8 他 完掘状況（南東→北西）

3区 Pit93 他 完掘状況（西→東）

3区 Pit104 他 完掘状況（北東→南西）

3区 SB184 周辺完掘状況（南→北）

3区 SB185 周辺完掘状況（西→東）

3区 SB186 周辺完掘状況（南→北）

3区 SB186 周辺完掘状況（東→西）

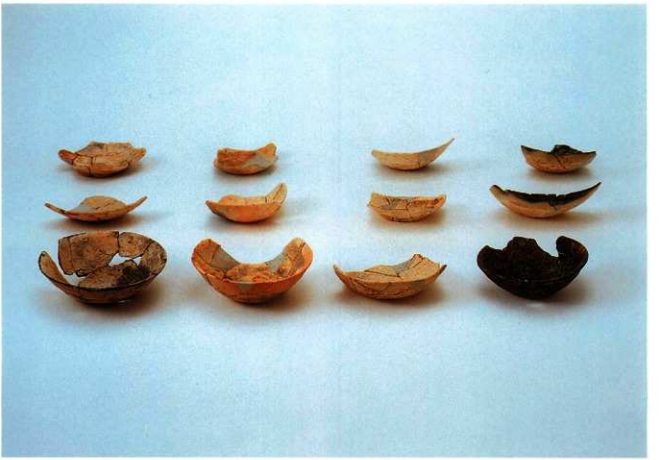
3区 完掘状況（南西→北東）

3区 完掘状況（南→北）

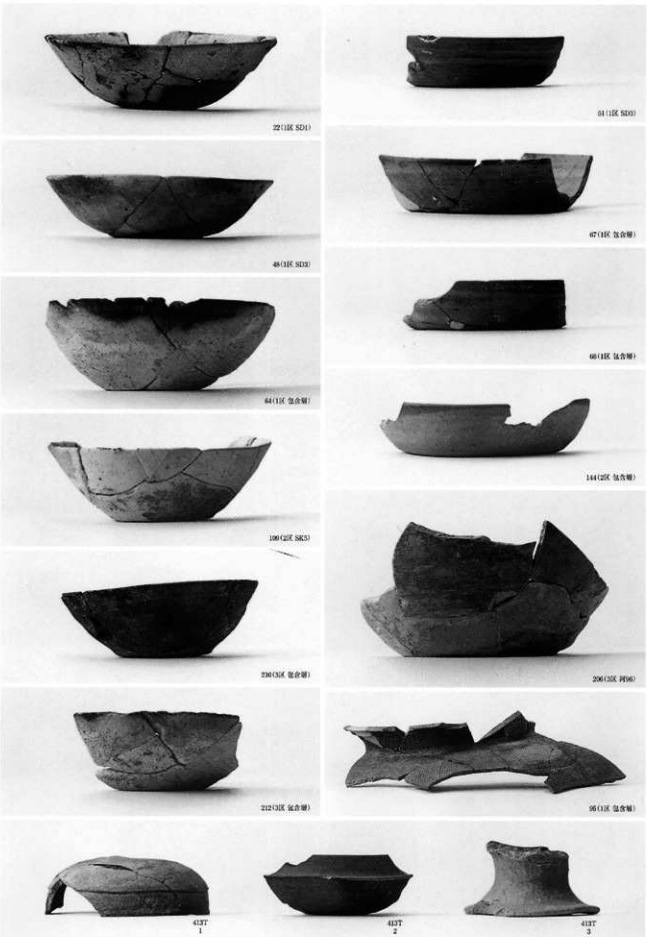
3区 完掘状況（南東→北西）

3区 完掘状況（北西→南東）

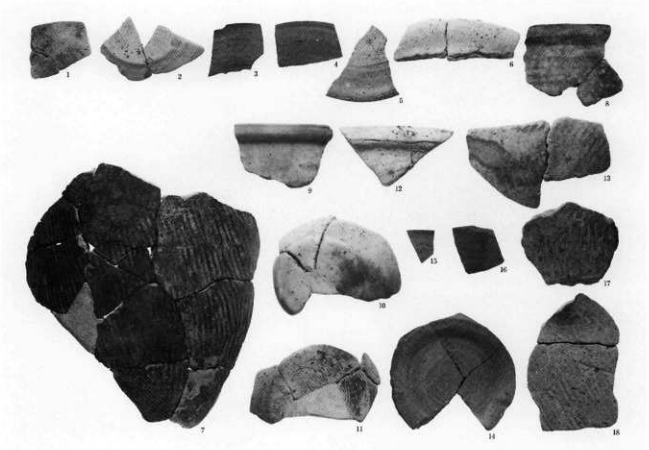
沖ノ羽遺跡出土須恵器



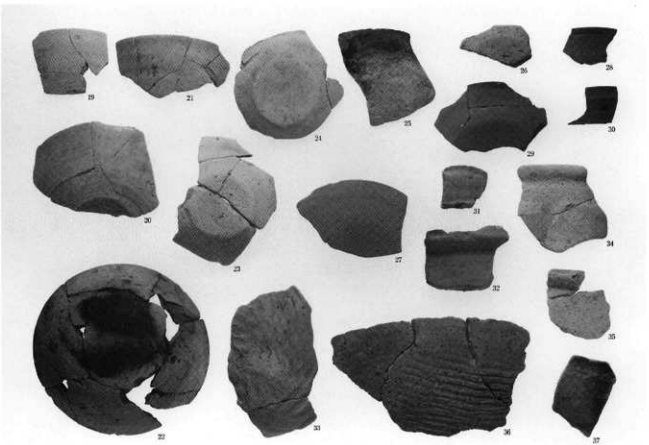
沖ノ羽遺跡出土土師器・黒色土器



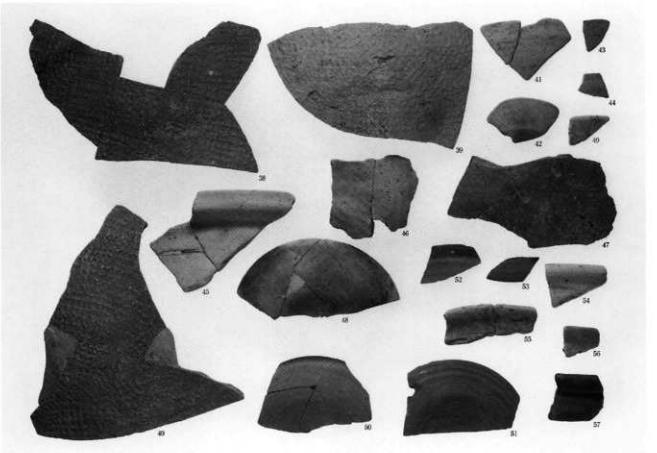
1区 SD1 (22)、SD3 (48·51)、1区 包含層 (64·67·68·95)、2区 SK5 (109)、2区 包含層 (144)、3区 河96 (206)、3区 包含層 (210·212)、確認調査413T (1～3)



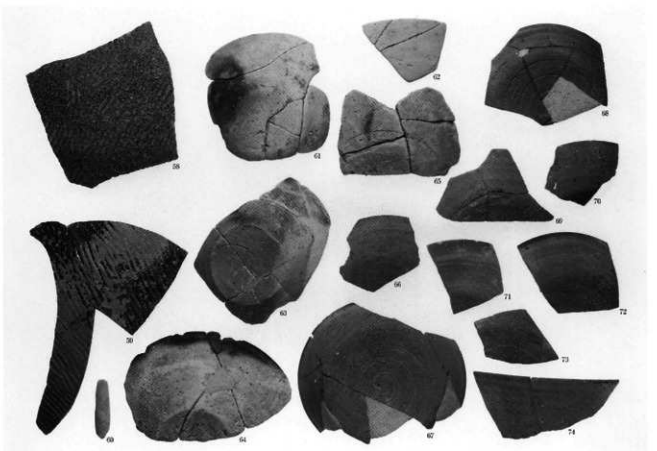
1区 SX4（1～14）、SK5（15～18）



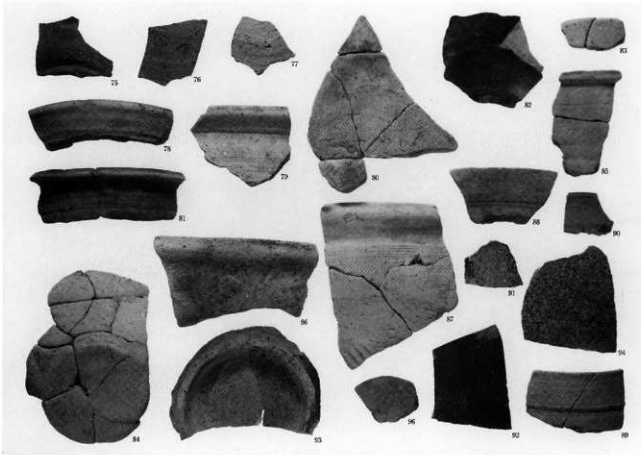
1区 SD1（19～37）



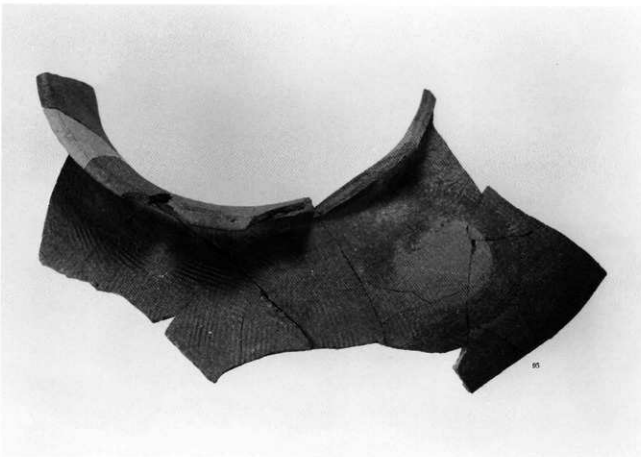
1区 SD1（38～40）、SD2（41～47）、SD3（48～57）



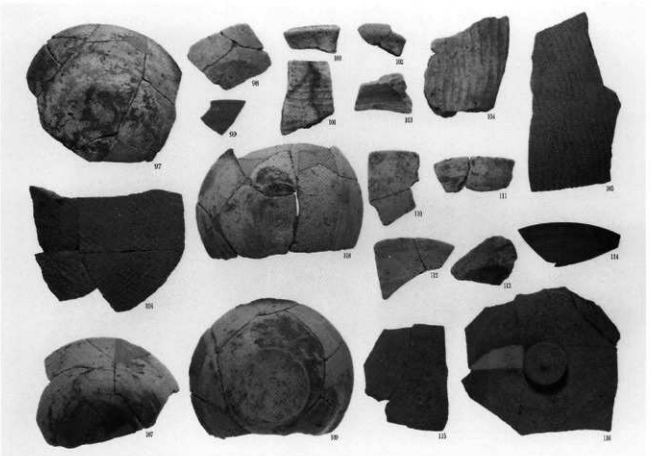
1区 SD3（58～60）、1区 包含層（61～74）



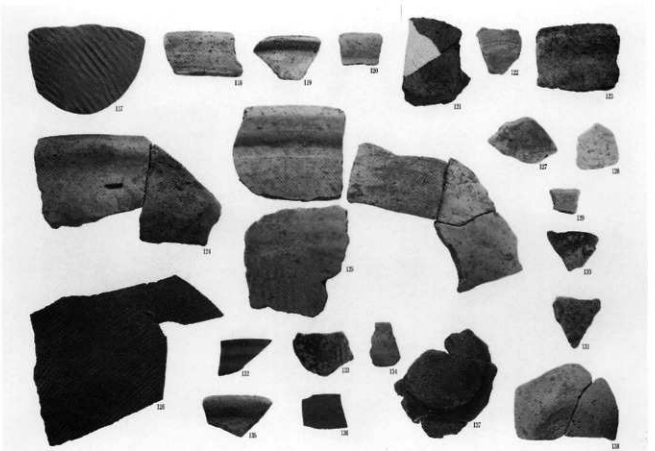
1区 包含層（75～94・96）



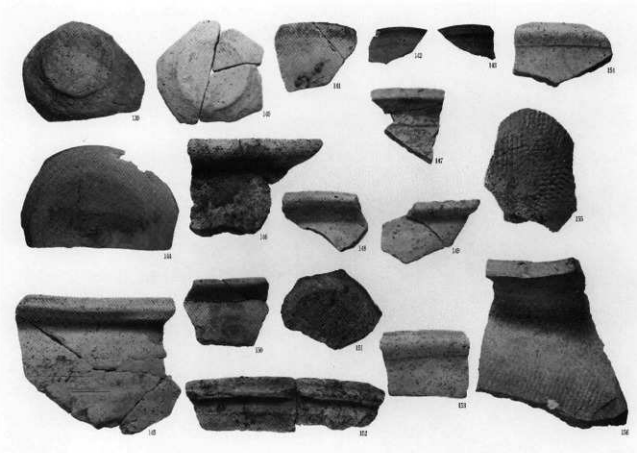
1区 包含層（95）



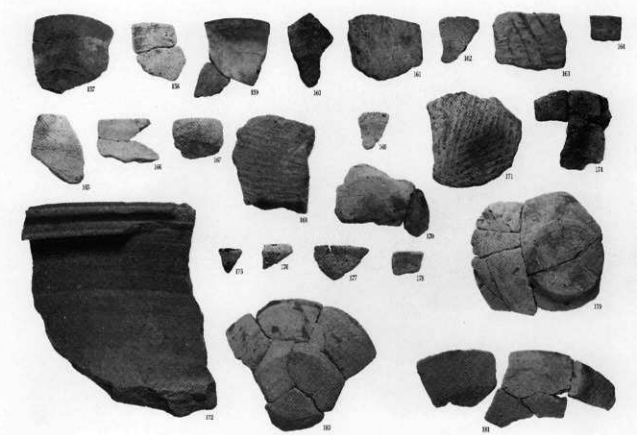
2区 SE4 (97～106)、SK5 (107～116)



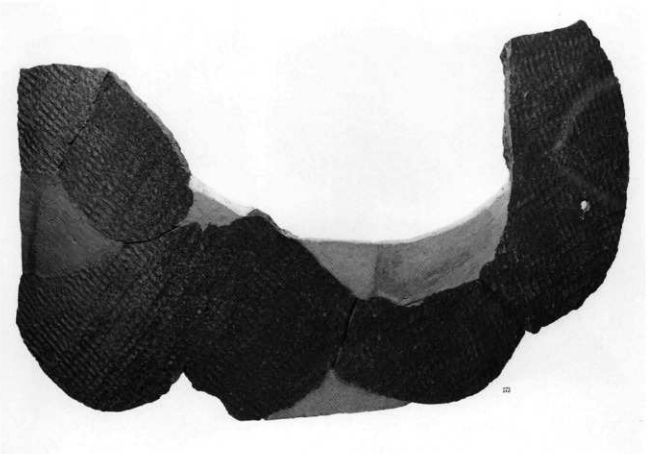
2区 SK5 (117～126)、SK7 (127～130)、SK8 (131)、SD1 (132･133)、SD2 (134･135)、SD3 (136)、2区 包含層 (137･138)



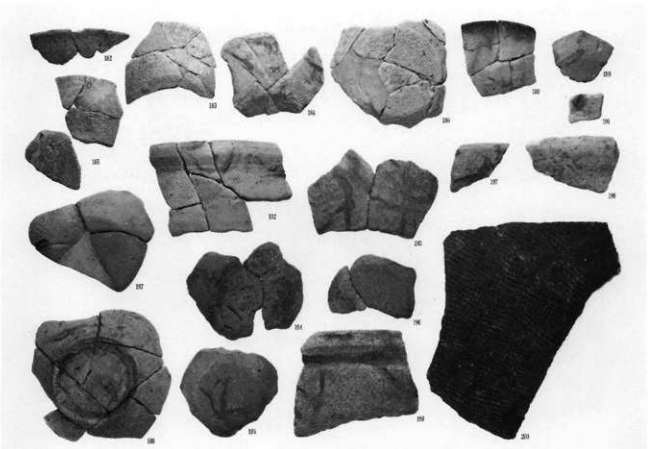
2区 包含層（139～156）



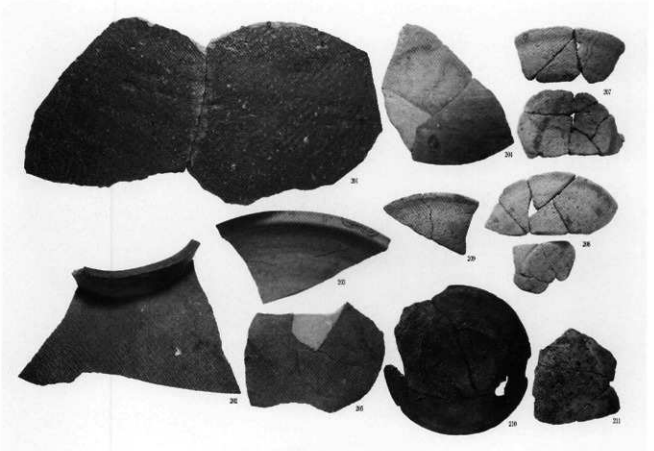
3区 SK2（157～161）、SK18（162）、SK128（163）、SD1（164～166）、SD3（167・168）、SD24（169～172）、SD43（174・175）、Pit5（176）、Pit17（177）、Pit155（178）、河96（179～181）



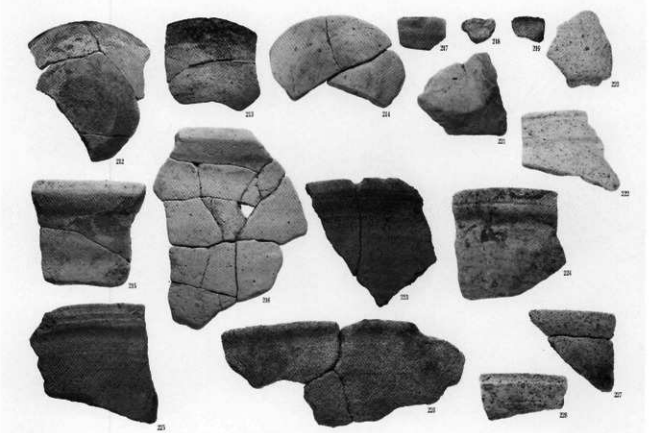
3区 SD24（173）



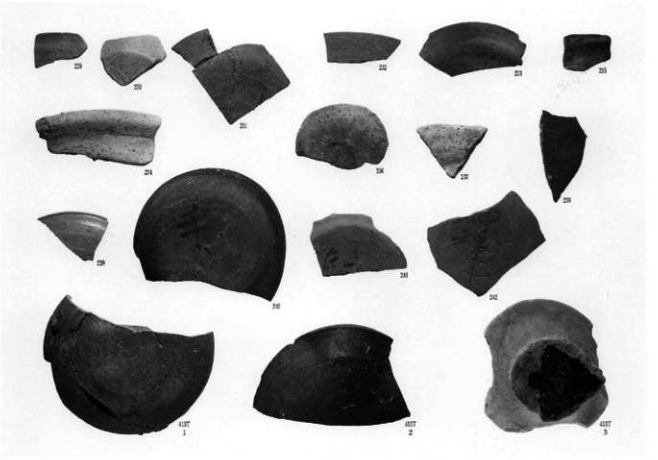
3区 河96（182～200）



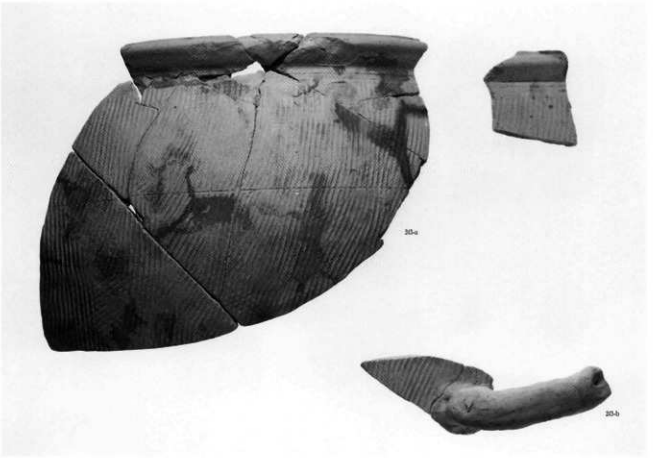
3区 河96（201～205）、3区 包含層（207～211）



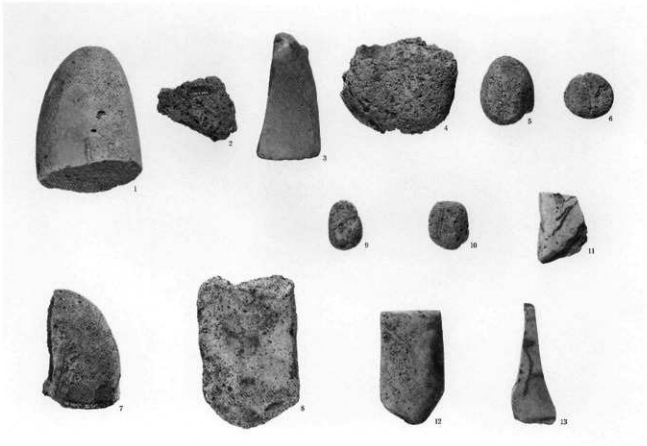
3区 包含層（212～228）



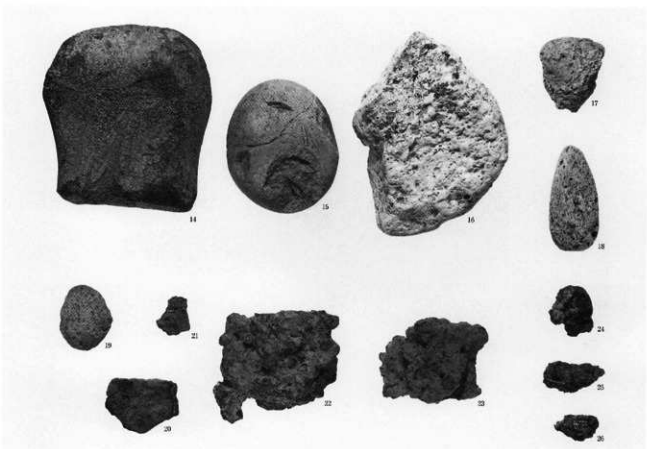
確認調査 360T（229～238）、17T（239）、413T（1～3）、中谷内遺跡立会調査（240～242）



中谷内遺跡確認調査（243-a・243-b）



石製品（1）



石製品（2）、鉄製品・鍛冶関連遺物

報告書抄録

ふりがな	おきのはいせきはっくつちょうさほうこくしょさん
書名	沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ
副書名	
巻次	
シリーズ名	新津市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	立木宏明・澤野慶子・早田　勉・杉山真二・金原正子・金原　明
編集機関	新津市教育委員会
所在地	〒956−0035　新潟県新津市程島2009番地　Tel 0250−24−2111
発行年月	西暦2005年2月9日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
沖ノ羽遺跡（おきのはいせき）	新潟県新津市大字古田ノ内字山王前1144番地ほか（にいがたけんにいつしおおあざふるたのうちあざさんのうまえ）	15207	26	37°49′10″	139°07′17″	20030603〜20030926	1,858.80	ほ場整備事業に伴う本発掘調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沖ノ羽遺跡	集落遺跡	古代（9世紀後半）	土坑・溝・井戸 性格不明遺構・掘立柱建物	須恵器・土師器・黒色土器 石製品・鉄製品・鍛冶関連遺物	

要約

沖ノ羽遺跡は新潟平野の南東に位置する新津丘陵に近く、東は阿賀野川、西は能代川に囲まれた微高地上に位置し、標高は約4.5mである。本発掘調査の結果、古代（9世紀後半）の遺構・遺物が検出された。線的な調査区である1・2区と面的な調査を行った3区に分かれる。1・2区では小面積ながら土坑・井戸・溝などの遺構群が確認された。3区では9世紀後半に機能したと考えられる小河道の岸辺に掘立柱建物・土坑・井戸・溝などを持つ集落跡の一部が検出された。古代の土器は土師器・須恵器などの食膳具・貯蔵具が定量出土し、従来の編年案に照らした位置付けを行った。また、自然科学分析の結果、近傍での稲作が推定された。

この結果を含め、今回の調査では古代の農耕集落の一端を明らかにしたと評価される。

沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ

2005年2月9日発行

発行　新津市教育委員会
新潟県新津市程島2009番地
〒956-0035　TEL (0250) 24-2111

印刷　北越印刷株式会社
新潟県長岡市福住1丁目6番27号
〒940-0034　TEL (0258) 33-0306